

年金資金による ESG 投資に対する 一般国民の意識に関する調査研究

平成 29 年度 研究報告書

平成 30（2018）年 5 月

公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構

〒108-0074 東京都港区高輪 1 丁目 3 番 13 号 NBF 高輪ビル

TEL: 03-5793-9411

FAX: 03-5793-9413

URL: <http://www.nensoken.or.jp>

年金資金による ESG 投資に対する 一般国民の意識に関する調査研究

目次

はじめに	1
第 1 章 アンケート調査結果のまとめ	2
1 今回のアンケート結果の要約	2
2 前回調査との比較の概要	8
3 今回調査の全体的なまとめ	11
第 2 章 調査計画の概要	15
1 調査の目的	15
2 調査対象	15
3 質問事項	15
4 調査時期及び調査方法	16
5 調査票イメージ	16
第 3 章 今回のアンケートデータについて	27
1 回答者の学歴について	27
2 回答者の公的年金加入状況について	29
第 4 章 今回調査の集計結果	31
第 5 章 前回調査との比較	69
第 6 章 ESG 投資の今後の方向に関する理由についての自由記載欄の主なコメント	92
1 「着実に充実していくべきだ」と回答した者	92
2 「徐々に取り組んでいくべきだ」と回答した者	100
3 「否定はしないが、控えめでよい」と回答した者	118
4 「必要ない」と回答した者	134
5 「その他」と回答した者	139
6 「わからない」と回答した者	140

調査研究体制¹

研究員	福山 圭一	上席研究員
	三木 隆二郎	特任研究員
	長野 誠治	主任研究員

¹ 本書中意見や評価に亘る部分は研究員の私見であり当法人としての見解ではない。

はじめに

2011 年度から 2013 年度にかけて行った「日本の年金資金における ESG 投資のあり方についての研究」（文科省所管の科学研究費による助成研究²⁾）の一環として、2012 年 3 月に、国民皆年金の下にある国民一般に対し、その環境・社会・企業のガバナンスに関する関心の程度、年金運用における ESG 投資に関する意向などを調査することにより、今後の日本の年金資金における ESG 投資のあり方を検討するための基礎情報を得ることを目的として、一般国民に対する ESG 投資に関するアンケート調査を実施した³⁾。

その後、GPIF による PRI 署名やスチュワードシップ・コード及びコーポレート・ガバナンス・コードの策定など、ESG 投資をめぐる状況は大きく変化し、公的年金積立金の資金運用においては、同投資に積極的に取り組むようになっていく。年金資金は国民が拠出した国民の老後生活のための資金であるので、その資金運用についても大筋で国民の理解と支持が必要であると考えられる。

また、2016 年 12 月に成立した公的年金制度の持続可能性の向上を図るための国民年金法等の一部を改正する法律においては、「検討」として、「政府は、GPIF の運用の状況その他 GPIF 法の施行の状況、その運用についての国民の意識、運用会社のスチュワードシップ活動の動向等を勘案し、運用の在り方について検討を加え、必要に応じ、施行後三年を目途に、必要な措置を講ずる」旨が規定された⁴⁾。国民の意識が明定されたが、政府でこれまでそれに関する調査が行われた形跡は見当たらない。

そこで、今日における一般国民の意識の状況等を把握することにより、今後の日本の年金資金における ESG 投資発展のための基礎情報を得ることを目的として、2012 年 3 月に行った調査（以下「前回調査」という。）のフォローアップのためのアンケート調査を、前回調査から 5 年が経過する 2017 年 3 月に行った。本書は、その調査結果を取りまとめたものである。本書が日本における ESG 投資の発展にいささかでも貢献できれば幸いである。

なお、本書刊行に先立ち、調査結果の概要を『年金と経済』に掲載⁵⁾し、日本年金学会で報告⁶⁾した。本書は、それらに加筆するとともに、回答者の年齢層別の回答状況（第 4 章）及び ESG 投資の今後の方向に関する理由についての自由記載欄の主なコメント（第 6 章）を新たに加えたものである。

²⁾ 日本学術振興会科研費 23530532。

³⁾ この結果は、「一般国民に対する ESG 投資に関するアンケート結果について」として、年金シニアプラン総合研究機構のホームページにある『年金調査研究レポート・平成 24 年度』において公表している。

⁴⁾ 附則第 2 条第 2 項の要約であり、下線は執筆者による。

⁵⁾ 福山圭一・下島敦・長野誠治・三木隆二郎（2017）「一般国民に対する ESG 投資に関するアンケート調査結果について」『年金と経済』第 36 巻第 2 号

⁶⁾ 福山圭一（2018）「年金積立金による ESG 投資に関する一般国民の意識」『日本年金学会誌』第 37 号

第 1 章 アンケート調査結果のまとめ

1 今回のアンケート結果の要約

今回のアンケート調査は、ESG 投資に関する国民の意識を調査することが目的であるが、いきなりこの質問をしてもほとんど内容のある回答が得られないと考えられる。このため、前回調査と同様に環境・社会・企業のガバナンスに関する具体的事例を挙げた質問を繰り返して ESG 投資に関するイメージを持ってもらい、また、ESG 投資をめぐる最近の状況に関する質問を行い、そのような状況認識を持ってもらった上で、年金資金による ESG 投資に関する質問をするという設問の流れとした。

今回の調査は、前回調査同様、ネットアンケートにより、調査会社に登録しているモニターから回答を得る方法で行った。一般に、ネットアンケートには、回答者に高学歴バイアスがあるといわれている。そこで、今回調査の回答者の学歴に関する構成を、最近の国勢調査⁷に照らし合わせ検討した。その結果、後の第 3 章第 1 節で詳述するように、無視できない高学歴バイアスが認められたので、ウェイト補正をして集計した。以下本節で紹介するのは高学歴バイアス補正後の数値である。

1-1 ESG 投資、SRI、CSR、コーポレート・ガバナンスの認知度

ESG 投資、社会的責任投資（SRI）、企業の社会的責任（CSR）及びコーポレート・ガバナンスについて、認知度を聞いた（問 15）。この回答について、「よく知っていた」と「まあ知っていた」を合計したものと見ると、ESG 投資は 5%、SRI は 9%、CSR は 16%、コーポレート・ガバナンスは 20%であった。なお、これに「言葉だけは聞いたことはあった」も加えると、ESG 投資は 14%、SRI は 22%、CSR は 34%、コーポレート・ガバナンスは 42%となる。

ESG 投資については、最近着手された投資手法であり、一般国民の多くがまだ知らないというのは必ずしも不自然ではない。ただし、国民が認知しない中で ESG 投資が進められようとしている状況に対しては、早急な対応が望まれる。

また、これらの中で最も高いコーポレート・ガバナンスでも、言葉を聞いたことがあった者が半数に届かない。一般国民の認知度という観点からはまだまだといえよう。

1-2 公的年金積立金の市場運用の認知度

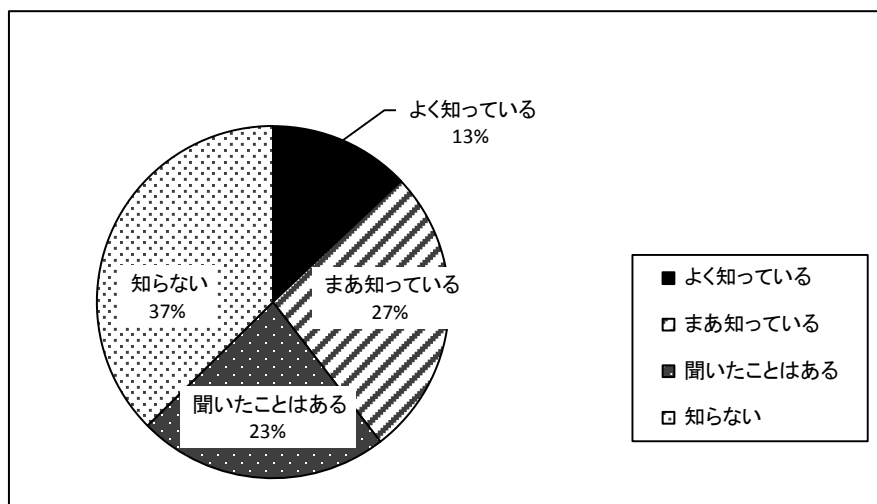
公的年金の積立金が株式や債券などに投資されて運用されていることに関する認知度（問 17）は図表 1-1 のとおりであった。「よく知っている」と「まあ知っている」を合わせて 4 割であった。これに「聞いたことはある」を加えると、63%であり、公的年金積立金が市場運用されていることを「知らない」とする回答が 37%あった。

また、男女差がかなりある。男性に限ると、「よく知っている」と「まあ知っている」の合

⁷ 平成 22 年国勢調査。国勢調査では、卒業又は在学中の学校種類を 10 年ごとに聞いており、直近が同年調査である。

計が 48%に対し、女性は 32%であった。

〔図表 1-1〕 公的年金積立金の市場運用の認知度

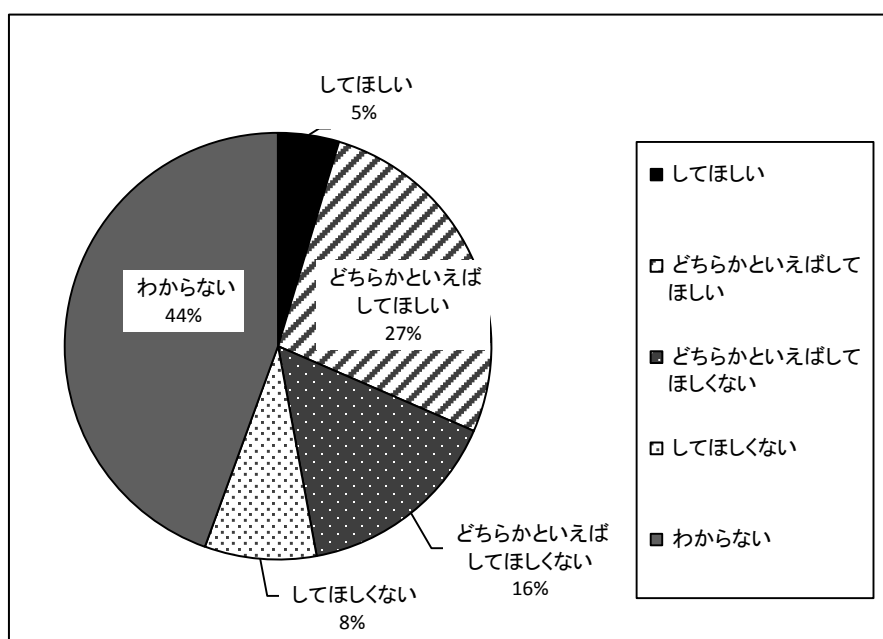


1-3 年金資金による ESG 投資に関する一般国民の意向

公的年金による ESG 投資をしてほしいかどうかに関する一般国民の意向（問 24）については、図表 1-2 のような結果であった。

「してほしい」と「どちらかといえばしてほしい」を積極、「どちらかといえばしてほしくない」と「してほしくない」を消極とすると、積極が 32%、消極が 24%と、積極が消極を上回った。ただし、「わからない」という意向不明が 44%あった。

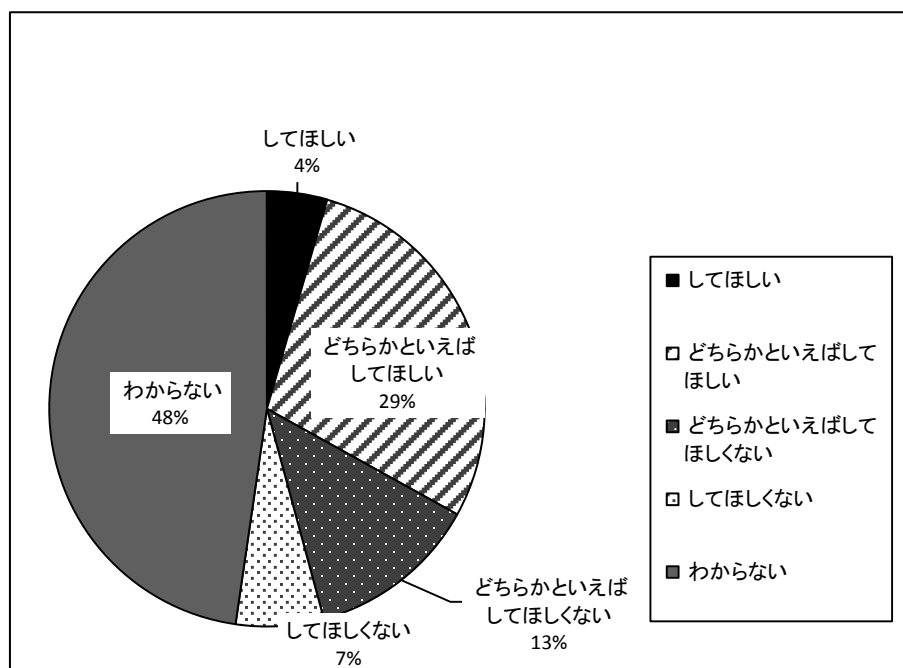
〔図表 1-2〕 公的年金による ESG 投資の意向



企業年金に対する希望として ESG 投資をしてほしいかどうかに関する一般国民の意向(問 26) は、図表 1-3 のとおりであった⁸。

公的年金と同様に積極・消極を集計すると、積極が 33%、消極が 21%⁹と、公的年金以上に積極が消極を上回った。ただし、不明が 48%と公的年金以上に多くに上った。

〔図表 1-3〕 企業年金による ESG 投資の意向



以上、年金資金による ESG 投資の意向に関しては、積極が消極を上回っている。しかし、それ以上に注目すべきは、意向不明者が 4 割以上を占めたことである。また、意向を表明した者も「どちらかといえば」が多く、このことから、大半の国民が必ずしも明確な認識を持っていないことがうかがわれる。

1-4 年金資金による ESG 投資に関する諸論点について

公的年金積立金で ESG 投資をすることについて様々な観点から意向を聞いた(問 23)。問 23 の 1 から 3 までは、「そう思う」が ESG 投資に前向きであるのに対し、問 23 の 4 からは反転し、「そう思う」は ESG 投資に後ろ向きな選択肢となっている。回答結果について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を肯定、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」は否定とすると次のとおりである。

まず、「自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取組みを支援するよう投資してほしい」(問 23 の 1) については、肯定 35%、否定 20%であった。「自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・

⁸ 端数を四捨五入している。以下同じ理由で合計が 100%にならない図表がある。

⁹ 端数を含めて合計して四捨五入している。以下同じ理由でグラフと本文の数値が合わないものがある。

ガバナンスなどに後ろ向きの企業には投資しないようにしてほしい」(問 23 の 2) は、肯定 40%、否定 18%であった。「年金のような長期資金では、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮して投資先を選択することは合理的だ」(問 23 の 3) は、肯定 34%、否定 20%であった。

以下は反転するが、「年金の積立金は将来の年金の支払いだけを考えて運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、これに関係がないので、慎重であるべきだ」(問 23 の 4) については、肯定 28%、否定 28%であった。「環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮して投資先を選定しても、運用成績に結びつかない」(問 23 の 5) は、肯定 24%、否定 26%であった。「公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではない」(問 23 の 6) は、肯定 32%、否定 24%であった。

概ね ESG 投資に前向きな回答が勝る結果となった。ただし、(3) で指摘したのと同様に、「わからない」がそれぞれで 4 割以上あり、また、「どちらかといえば」が多い状況は変わらない。

1-5 企業年金の ESG 投資に関する諸論点について

企業年金による ESG 投資についても様々な観点から意向を聞いた(問 25)。これについても、公的年金の場合と同様、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を肯定、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」は否定とすると次のとおりである。

「企業年金の資金運用でも環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取組みを支援すべきだ」(問 25 の 1) については、肯定 34%、否定 20%であった。「企業年金の資金が環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業に投資されないようにすべきだ」(問 25 の 2) については、肯定 37%、否定 18%であった。「企業年金の資金は、主に企業が支出するものなので、その企業の社会的責任(CSR)に関する方針に沿った運用をすべきだ」(問 25 の 3) については、肯定 36%、否定 18%であった。

「企業年金の資金は将来の年金の支払いだけを考えて運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、労使から明確な意思表示がない限り、慎重であるべきだ」(問 25 の 4) については、肯定 31%、否定 24%であった。「企業年金の資金は、企業の労働者の老後の生活に充てられる資金なので、運用のし方も労働者の意見をよく聞いて決めるべきだ」(問 25 の 5) については、肯定 41%、否定 16%であった。

「企業年金の資金は民間の資金なので、政府が運用に口出しすべきではない」(問 25 の 6) については、肯定 36%、否定 21%であった。

企業年金に関しては、全ての質問で肯定が否定を上回った。ただし、「わからない」がそれぞれで 4 割以上あり、また、「どちらかといえば」が多い。

1-6 CSR、ワーカーズキャピタル責任投資原則などに対する評価

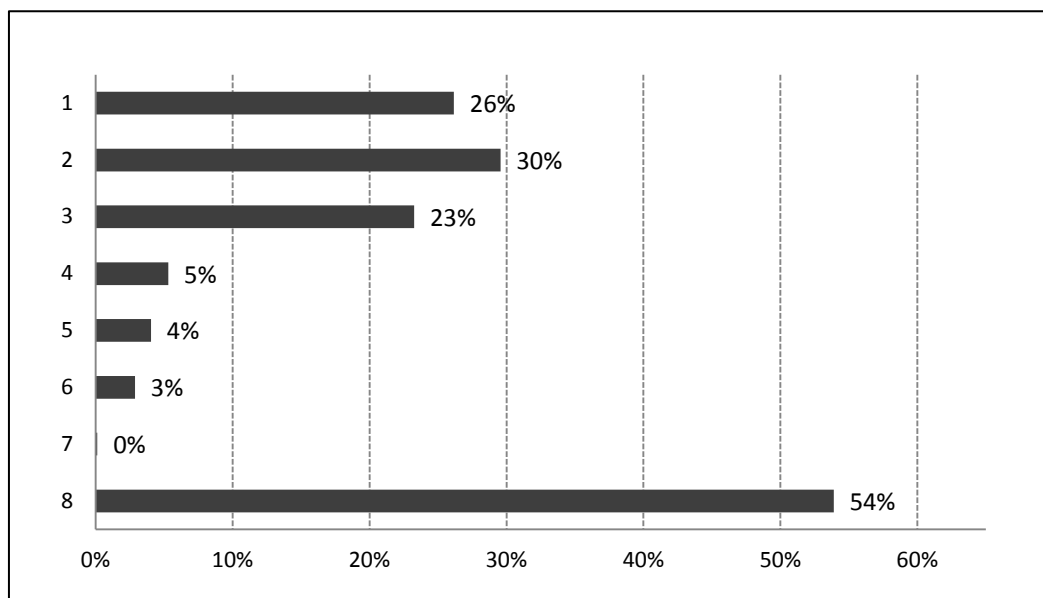
CSR についての考えを聞いた(問 16)。その結果は図表 1-4 のとおりであった。

回答肢のうち 1~3 が CSR に肯定的、4~6 は否定的なものである。両者を比較すると肯定的なものがかかなり上回っている。国民全体として CSR を好意的に受け止めているものと

いうことができる。

ただし、「CSR についてはよくわからない」が 54%あった。半数以上は肯定も否定もしていないことに留意が必要である。なお、本問は複数回答の質問だが、CSR についてよくわからないとしながら何らかの考えを示したものがごく少数（0.1%）あった。

〔図表 1-4〕 CSR についての考え方



1. CSR は企業経営が適切に行われるための基本であり、企業は率先して取り組むべきだ。
2. CSR に積極的に取り組んでいる企業には好感が持てる。
3. 多くの企業が CSR に取り組めば、経済全体の発展や成長にもつながる。
4. 企業は利益を追求することが目的なので、CSR は法令や規制の範囲でやればよい。
5. CSR は企業のイメージアップ活動に過ぎないので、特に評価する必要はない。
6. CSR に取り組む余裕があるなら、製品やサービスの価格を下げてほしい。
7. その他
8. CSR についてはよくわからない。

労働組合の連合が 2010 年 12 月に策定（2015 年 9 月改訂）した「ワーカーズキャピタル責任投資ガイドライン」についての考えを聞いた（問 18）。この結果は、図表 1-5 のとおりである。連合の取組みに対し好意的な回答（「とてもよい」と「まあよい」の合計）が 40%、否定的な回答（「あまりよくない」と「まったくよくない」の合計）が 10%であった。また、「わからない」などが 49%であった。

スチュワードシップ・コードの考えや取組みについての考えを聞いた（問 20）。好意的な回答が 34%、否定的な回答が 9%、「わからない」などが 56%であった。

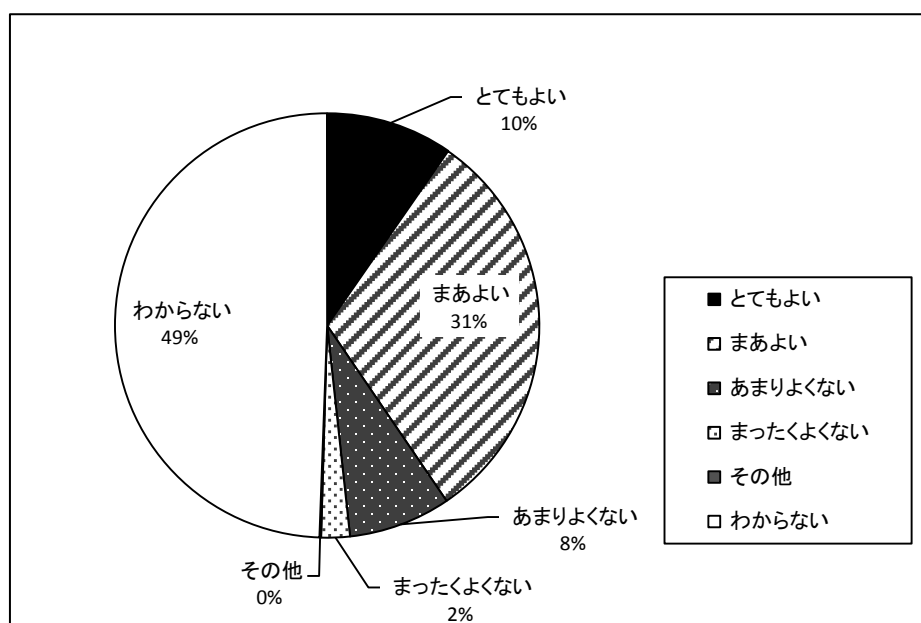
労働参加促進に重点を置いた ESG 投資を進めるべきであるという考え方について聞いた（問 21）。好意的な回答が 40%、否定的な回答が 12%、「わからない」などが 49%であった。

PRI の考えや取組みについて聞いた（問 22）。好意的な回答が 34%、否定的な回答が

12%、「わからない」などが 55%であった。

以上についてはいずれも好意的な回答が否定的な回答を大きく上回った。ただし、概ね半数が「わからない」としている。

〔図表 1-5〕 ワーカーズキャピタル責任投資ガイドラインの評価



1-7 スチュワードシップ・コードなどの認知度

スチュワードシップ・コード、コーポレート・ガバナンス・コード及び環境省の ESG 検討会報告書について、認知度を聞いた（問 19）。この回答について、「よく知っている」と「まあ知っている」を合計したもので見ると、スチュワードシップ・コードは 4%、コーポレート・ガバナンス・コードは 8%、ESG 報告書は 4%であった。これに「聞いたことはある」も加えると、スチュワードシップ・コードは 12%、コーポレート・ガバナンス・コードは 24%、ESG 報告書は 14%になる。

これらは比較的最近制定又は公表されたものなので、一般国民の間での認知度が低いことはやむを得ない。国民の拠出した資金の運用にも関わる事項であるので、今後認知度を高めていく努力が望まれる。

1-8 年金資金による ESG 投資に関する今後の方向

DC で投資の指図をする立場になった場合に、自身が ESG 投資をすることについて聞いた（問 27）。「積極的にしたい」、「少しはしたい」という前向きな回答が 31%、「あまりしたくない」、「したくない」という後ろ向きの回答が 23%、「わからない」が 46%であった。

最後に、公的年金・企業年金を通じた日本の年金資金による ESG 投資について、これからどのようにしていくべきか聞いた（問 28）結果は図表 1-6 のとおりであった。

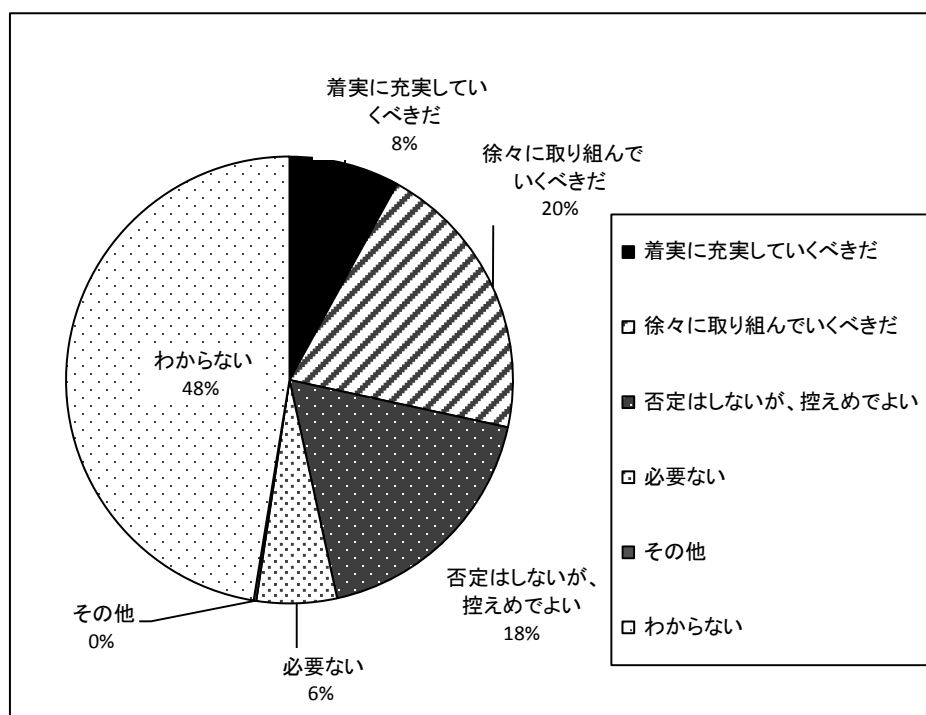
「着実に充実していくべきだ」、「徐々に取り組んでいくべきだ」という前向きな回答が 28%、「否定はしないが、控えめでよい」、「必要ない」という後ろ向きの回答が 24%、「わか

らない」などが 48%であった。

なお、任意でこの回答の理由について自由記載を求めた。空欄あるいは「なし」が多かったほか、「難しい」、「よくわからない」などといった記載が目立ったが、相当数の回答者から何らかの意見のあるコメントが寄せられた。

貴重な生の声であり、よく熟読して今後の検討に生かしていく必要がある。

〔図表 1-6〕 ESG 投資の今後の方向



2 前回調査との比較の概要

今回調査は前回調査のフォローアップ調査であり、質問内容に共通するものが多い。そこで、これらのうち主なものについて、前回調査と今回調査の結果を比較し、検討する。

前回調査は年金加入年齢にある 20～59 歳の者が対象であった。そこで、今回調査の回答者のうち、20～59 歳の者を抜き出して、比較を行う。従って、以下本節に示す今回調査の数値は、60 歳以上の者を含む前節にある数値とは異なるものである。なお、59 歳までは高学歴バイアスの程度はさほど高くないので、ウェイト補正は行っていない¹⁰。

前回調査は、平成 22 年度公的年金各制度の財政状況報告（社会保障審議会年金数理部会）掲載データによる加入者数をもとに、調査対象の割付を行った。そして、予備調査で、公的年金加入状況を反映した調査対象者の構成となるよう、対象者の絞り込みを行った。これに対し、今回調査はそのようなことは行わなかった。

そこで、今回調査の回答者の公的年金加入状況について検討した。その結果は後の第 3 章

¹⁰ 前回調査では学歴は聞いていないので、ウェイト補正するとすれば今回調査だけになり、むしろ不均衡となるとも考えられる。

第2節において詳述するが、このような調査設計上の違いにより、年金に関する認識があいまいな者が前回調査では少なく、今回調査では多いことが寄与している可能性が示唆された。以下で示す通り、前回調査に比べて後退しているように見える項目が少なからず見られるが、それはこのことによるものと考えられる。そして、年齢と居住地だけで割り付けた今回調査の方が、一般国民の状況をよりよく代表しているものと考えられる。

2-1 ESG 投資など及び公的年金資金の市場運用の認知度

ESG 投資、SRI、CSR の認知度について、「よく知っていた」と「まあ知っていた」を合計したものと見ると、ESG 投資は8%から6%へ、SRIは12%から11%へ、CSRは22%から18%へと、それぞれ減少した。これに「聞いたことはあった」も加えると、ESG 投資は24%から15%へ、SRIは29%から24%へ、CSRは40%から35%へと減少する。これらについては、後退したように見えるが、本節冒頭に記した調査設計上の違いが影響していることが考えられる。

公的年金の積立金が株式や債券などに投資されて運用されていることに関する認知度については、「よく知っている」と「まあ知っている」を合わせて45%であったものが、32%へ、これに「聞いたことはある」を加えても、73%から54%へ大きく低下した。公的年金積立金が市場運用されていることを「知らない」とする回答が27%から46%に増えている。

市場運用の認知度もかなり後退している。5年前に比べると、運用状況はアベノミクスを背景に全般に好調である。従って、あまり認識する必要がないということかもしれない。ただし、この間、GPIFでは基本ポートフォリオの変更もあり、マスコミ報道もかなり行われた。認知度が実際にこれほど後退したとは考えにくい。これについても本節冒頭に記した調査設計上の違いが影響していることが考えられる。

2-2 年金資金による ESG 投資に関する一般国民の意向

年金資金による ESG 投資をしてほしいかどうかに関する一般国民の意向を見してみる。なお、前回調査では、「その他」として具体的記述をしてもらう選択肢を用意したが、今回調査では、ESG 投資の実施が具体化する状況の下で、よりストレートに意向を示してもらえよう、そのようなことはしなかった。そのため、前回調査の「その他」の具体的記述を個々に検討し、最も近いと思われる他の選択肢に割り振った。

公的年金による ESG 投資を「してほしい」と明確に積極的な取組みを求める意見は4%でほぼ変わらない。一方、「してほしくない」とはっきりと消極的な意見を表明したものは13%から7%に低下した。

また、「してほしい」と「どちらかといえばしてほしい」を積極、「どちらかといえばしてほしくない」と「してほしくない」を消極とすると、積極が32%から29%へ、消極が35%から22%へと低下した。不明は33%から50%へ増加した。

次に、企業年金による ESG 投資については、「してほしい」は4%でほぼ変わらないが、「してほしくない」が12%から6%へ低下した。積極・消極については、積極が33%から29%へ、消極が32%から18%へと低下した。不明が36%から52%に増大した。

公的年金、企業年金のいずれにおいても、積極が幾分低下、消極がかなり低下し、その分不明が大幅に増大した。前回調査では、積極・消極・不明がそれぞれ 1/3 ずつで拮抗していた。しかし、今回調査では、積極が消極より多いものの、半数は不明という状況になっている。

前回調査と比べて、認識が不明な回答者が相当多数含まれるとすると、全体の割合だけで比較することが必ずしも適切ではない。そこで、「わからない」を除いた回答者数を分母とし、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を賛成、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」は反対として、比較を行うと、賛成が 47%から 57%へ増加し、反対が 53%から 43%へ減少した。

2-3 ESG 投資に関する諸論点について

以下の公的年金積立金で ESG 投資をすることについて様々な観点からの意向についても、「わからない」を除いた回答者数を分母とし、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を賛成、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」は反対とする。賛否の比較を行うと、次の通りである。

まず、ESG などの取組みを支援するよう（前回調査では、環境や社会問題などの取組みにも役立てられるよう）してほしい、という点については、賛成が 48%から 60%へ増え、反対が 52%から 40%へと減り、賛否が逆転した。ESG などに後ろ向きの企業に投資しないようにしてほしい、という点については、賛成が 51%から 65%へ増え、反対が 49%から 35%へと減った。ESG を考慮して投資先を選択することは合理的、という点については、賛成が 43%から 59%へ増え、反対が 57%から 41%へと減り、賛否が逆転した。

以下は反転し、否定的な方向の問いになるが、年金の保険料は将来の年金の支払いのためだけを考えて運用すべきであり、ESG などを考えることはこれに関係がない、という点については、賛成が 49%、反対が 51%で、ほとんど変化がなかった。環境や社会問題で投資先を選定することは投資成績に結びつかない、という点は、賛成が 45%から 47%へ微増、反対が 55%から 53%へ微減であった。公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではない、という点については、賛成が 45%から 54%へ増え、反対が 55%から 46%へと減り、賛否が逆転した。

不明を除き、何らかの意向を表明した者だけで見る限り、ESG 投資について肯定的な考えに対する賛成が増え、否定的な考えに対する賛否はほとんど変わらない。国民が ESG 投資を支持する方向に徐々には動いている状況が見て取れるといえよう。ただし、公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではない、というエンゲージメントなどに否定的とも受け止められる考えについては、賛成が反対を上回ることになった。

2-4 企業年金の ESG 投資に関する諸論点について

企業年金についても、公的年金と同様、「わからない」を除いた回答者数を分母とし、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を賛成、「どちらかといえばそう思わない」と「そ

う思わない」は反対として、比較を行う。

ESG などの取組みを支援する、という観点については、賛成が 51%から 59%へ増え、反対が 49%から 41%へと減った。ESG などに後ろ向きの企業に投資しないよう、という観点からは、賛成が 53%から 63%へ増え、反対が 47%から 37%へと減った。

年金の保険料は将来の年金の支払いのためだけを考えて運用すべきであり、ESG などを考えることはこれに関係がない、という観点については、賛成が 46%から 54%へ増え、反対が 54%から 46%へと減り、賛否が逆転した。ただし、今回調査には前回調査にはなかった「労使から明確な意思表示がない限り」という文言があり、賛成しやすかったと考えられる。企業の労働者の老後の生活に充てられる資金なので、労働者の意見をよく聞いて決めるべき、という観点については、賛成が 70%から 67%へ減り、反対が 30%から 33%へと増えた。

企業年金における ESG 投資についても、全般的には、国民が ESG 投資を支持する方向に徐々に動いている状況が見て取れるといえるだろう。

2-5 CSR、連合のワーカーズキャピタル責任投資原則に対する評価

CSR についての考えについても、後退したように見える。

CSR に肯定的な、「CSR は企業経営が適切に行われるための基本であり、企業は率先して取り組むべきだ」は 36.5%から 20.4%に、「CSR に積極的に取り組んでいる企業には好感が持てる」は 46.6%から 25.2%に、「多くの企業が CSR に取り組めば、経済全体の成長や発展にもつながる」は 33.1%から 18.7%にそれぞれ低下した。

CSR に否定的な、「企業は利益を追求することが目的なので、CSR は法令や規制の範囲でやればよい」は 6%でほぼ変わらず、「CSR は企業のイメージアップ活動に過ぎないので、特に評価する必要はない」は 6%から 5%に、「CSR に取り組む余裕があるなら、製品やサービスの価格を下げてほしい」は 4%から 3%に低下した。

このように、CSR に肯定的な回答は低下し、代わって「CSR についてはよくわからない」が 31%から 57%へと大幅に増えた。肯定的なものが否定的なものをかなり上回っており、国民全体として CSR を好意的に受け止めている状況には変わりないといえるだろう。

ワーカーズキャピタル責任投資ガイドラインについても、「わからない」が 39%から 53%に増えた。しかし、好意的な回答（「とてもよい」が 9%から 7%、「まあよい」が 40%から 29%）が、否定的な回答（「あまりよくない」が 9%から 8%、「まったくよくない」が 2%から 3%）を大きく上回っている状況には変わらない。

3 今回調査の全体的なまとめ

3-1 ESG 投資及び公的年金資金の市場運用の認知度に関して

5 年前と比べると ESG 投資を取り巻く状況は大きく変わり、特に公的年金の資金運用ではこれに取り組む方針が明確となっている。しかし、ESG 投資について知っていたのは 5%、これに「言葉だけは聞いたことはあった」を加えても 14%であった。本調査結果は加入者や受給者という当事者である国民の意識がついていない状況を示している。

ESG 投資は最近着手された投資手法であり、一般国民の多くがまだ知らないというのは必ずしも不自然ではない。むしろ問題なのは、年金積立金が市場運用されていることを知らない者が 4 割近く、国民年金加入年齢にある 20～59 歳の者に限ると半数近くに上ることである。年金積立金は公的年金に加入する全ての国民が支払った年金保険料を積み立てたものであり、当事者である国民の多くが、それがどのように運用されているか知らないというのは、大きな問題である。

調査時点では、公的年金積立金の市場運用が始まった 1986 年度から 31 年、自主運用が開始された 2001 年度からでも 16 年がほぼ経過していた。それでもこのような状況である。

公的年金の積立金は公的年金に加入する全ての国民が支払った年金保険料の一部を積み立てたものである。しかし、当事者である国民の多くが、それがどのように運用されているか知らないというのは、大きな問題である。

年金の資金運用は長期運用である。しかし、市場運用について大方の国民の理解と支持がなければ、長期継続的に運用できる環境条件はいつまでたっても整わないであろう。今回の調査結果は、積立金の市場運用について一般国民に対する普及啓発を促進することの必要性を強く示唆している。

ESG 投資も投資である以上収益の確保が目的である。このために、環境問題や社会的課題、適切な企業統治に取り組む投資先企業に投資をすることを通じて長期的なリターンの向上を図る、あるいは、これらに積極的に取り組まず短期的利益だけを追求する投資先企業を排除することによってリスク低減を図るという投資手法である。この考え方の背後には、投資を通じて環境や社会を良くし、企業経営を適正なものにするという理念がある。

一般の日本人にとって「投資」と言うと、難しい、リスクが大きい、ギャンブルと大差ないといったイメージが先行し、積極的にこれに向き合おうとする意欲がわきにくいかもしれない。しかし、環境や社会の改善、企業経営の適正化に結びつくという側面があることが理解されれば、そのイメージもポジティブなものに変わるのではないだろうか。

公的年金積立金の株式運用にはまだまだ各方面でアレルギーがあるが、ESG 投資はこの解消に資することになる可能性がある。また、積立金の運用については、これまでマスコミ報道も含め短期の運用成績だけに注目が集まりがちであるが、長期に目が向くきっかけになるかもしれない。このように考えると、ESG 投資は公的年金積立金の市場運用に対する国民理解促進の大きな足掛かりになる可能性を秘めているとすることができるだろう。

国民の拠出した資金の運用について、当事者である国民の関心を高めるためにも、まずは、国及び GPIF が年金積立金の市場運用に関する普及啓発を促進すべきである。積立金基本指針においても「主務大臣及び管理運用主体は、積立金の運用に対する被保険者の理解を促進するため、被保険者に対する情報公開及び広報活動を積極的に行うこと」が規定されている¹¹。ESG 投資は格好の題材になるであろう。

それと同時に、国民の理解促進には、幅広い関係者の積極的な参加も必要である。大学な

¹¹ 総務省・財務省・文部科学省・厚生労働省告示第 1 号（平成 26 年 7 月 3 日）「積立金の管理及び運用が長期的な観点から安全かつ効率的に行われるようにするための基本的な指針」第四、三。

どの研究者、運用会社など金融証券関係者、マスコミや研究機関、NGO その他の関係者が、それぞれの立場で、年金積立金の運用や ESG 投資について議論や検討に取り組んでいくことが望まれる。これが適切に進展すれば、年金積立金の運用に関する健全な世論の形成が期待できるであろう。

3-2 前回調査との比較に基づく一般国民の ESG 投資意向について

ESG 投資に関する意向についての前回調査との比較では、調査設計上の違いがあるので厳密な比較にはなじまないが、前回調査を基に、これまで、積極・消極・不明がそれぞれ 1/3 ずつで拮抗していると考えられていたものが、今回調査では、積極が消極より多いものの、半数は不明という状況になった。このように、国民全体としては認識が不明な者がまだまだ多いことが明らかになったことが、そのこと自体は必ずしも好ましいものとはいえないにせよ、今回調査の意義といえよう。

また、「わからない」という認識が不明なものを除いて賛成と反対の者の相対的な関係を見ると、全体に賛成の者が増え、反対の者が減っている。国民が ESG 投資を支持する方向に徐々に動いている状況が見て取れたことも示唆的である。

前回調査時点に比べると、その後、GPIF における基本ポートフォリオの変更や PRI への署名、日本版スチュワードシップ・コード及びコーポレート・ガバナンス・コードの制定などがあった。また、2015 年にはパリで開催された気候変動に関する COP21 においてパリ協定が採択される一方、欧州に中東やアフリカから多数の難民が押し寄せるなど、内外で ESG に対する関心を高める方向に動きがあった。国民の意向もこのような流れの中で一定の変化を見せているものと考えられるであろう。

3-3 本調査を通じた ESG 投資に対する認識の変化

ESG 投資について知っていたのは 5%、これに「言葉だけは聞いたことはあった」を加えても 14%であったことは先に述べた。86%の者は全く知らなかったのである。

本調査では、環境・社会・企業のガバナンスに関する具体的事例を挙げた質問を繰り返して ESG 投資に関するイメージを持ってもらい、また、ESG 投資をめぐる最近の状況に関する質問を行い、そのような状況認識を持ってもらった上で、年金資金による ESG 投資に関する質問をするという設問の流れとした。その結果、公的年金に対する ESG 投資の意向について、「わからない」とした者が 44%いたが、56%の者は何らかの意向を表明した。

ESG 投資について何も知らなければ、その投資の意向については「わからない」としか答えようがないであろう。しかし、この調査に回答する過程で ESG 投資に対する回答者なりの知識やイメージが形成され、「わからない」と回答するはずの者が半減したことになる。

このことは、本調査が ESG 投資に関する何らかの「教育効果」を有することを示すものといえるであろう。

ESG 投資の今後の方向について聞いた最後の問でも「わからない」が半数を割ることになった。また、回答の理由について自由記載で聞いたところ、「わからない」と答えた者については、無記載や「ない」、「難しい」といった記述が多かったものの、一層の情報を求めるも

のや、学んでいきたいという姿勢がうかがえるものもあった。同じ「わからない」という回答者の中でも、そもそも理解ができない者から、イメージはできるがどのように考えればよいか分からない者、さらには、判断に迷う結果「わからない」と回答する者など、様々であることがわかる。

国民が拠出した年金保険料による積立金で ESG 投資は既に始まっている。ほとんどの国民に知られていないという状況は好ましくない。できるだけ多くの国民の理解が進むことを期待したい。

第2章 調査計画の概要

今回調査は当法人の自主研究として行った。調査計画の概要は次の通りである。

1 調査の目的

前回調査のフォローアップ調査として、今日における一般国民の意識の状況等を把握することにより、今後の日本の年金資金における ESG 投資発展のための基礎情報を得ることを目的とする。

2 調査対象

前回調査では、国民皆年金の下で年金加入年齢にある 20 歳から 59 歳までの国民を対象とした。今回調査では、受給者層の意識も把握することとし、20 歳から 59 歳までに加え、60 歳以上も対象とした。一方、前回調査で行った DC 加入者だけに特定した質問は、今回は行わないこととした。

今回調査では、対象者を、性別及び年齢層別（年齢 10 歳きざみ）に加え、ESG 投資に関する情報や関心が首都圏に偏在している、あるいは、3 大都市圏域とその他地域で差がある可能性にかんがみ、全国の都道府県を、4 都県（東京、埼玉、千葉、神奈川）、東海近畿（愛知、岐阜、静岡、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）、その他に区分した。割付けに当たっては、平成 27 年国勢調査による人口割合を基本としたが、前回調査との比較では 20～59 歳が重要であること、人口高齢化で 60 歳以上の人口が多いことから、60 歳以上の出現割合を 59 歳以下の 1/2 とし、4 都県、東海近畿、その他に区分した人口割合を用いた。なお、このことから、必要に応じ、60 歳以上の回答者数を 2 倍に評価して集計し、分析を行っている。

3 質問事項

回答者の基本属性を聞いた上で、年金運用における ESG 投資に関する意識を調査する設計とした。後者が直接的な目的となるが、いきなりこの質問をしてもほとんど内容のある回答が得られないと考えられる。このため、環境・社会・企業のガバナンスに関する具体的事例を挙げた質問を繰り返して ESG 投資に関する認識を持ってもらい、また、ESG 投資をめぐる最近の状況に関する質問を行い、そのような状況認識をもってもらった上で、年金運用に関連した質問をするという設問の流れとした。

前回調査からの変化を把握できるよう、差支えない限り、質問事項は同じものを維持するよう努めた。ただし、フォローアップ調査ではあるが、新規調査と同様の観点に立って、質問内容及び表現を検討した。なお、前回調査では詳細な ESG 投資商品に関する質問などが散見されたが、今回は行わないこととした。

4 調査時期及び調査方法

前回調査のフォローアップという観点から、5年後の同時期とするよう、アンケートは2017年3月に行った。

調査方法は前回調査同様ネットアンケート調査とした。回答者数が多いほど調査の精度は上昇するが、調査経費も増大する。そこで、総サンプル数を4,500とし、上記2調査対象を踏まえ調査対象を図表2-1のように割り付けた。以上について、十分な数のモニターを有する実績のある調査会社数社から見積りを徴した結果、(株)クロス・マーケティングに委託した。

【図表 2-1 今回調査の割付表】

	男性			女性			
年齢	4都県	東海近畿	その他	4都県	東海近畿	その他	合計
20-29	110	97	135	104	95	131	672
30-39	137	118	174	130	117	172	848
40-49	162	144	198	153	144	199	1000
50-59	121	114	184	115	117	190	841
60-69	62	65	112	65	70	118	492
70-	70	75	122	93	104	183	647
合計	662	613	925	660	647	993	4500

5 調査票イメージ

環境や社会、企業のあり方と投資に関する調査

この調査は、公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構の研究チームが学術研究のために実施するものです。

多くの人は企業に就職し、給料を受け取って生活しています。また、様々な製品やサービスが多くの企業によって提供され、私たちもそれらを消費しながら暮らしています。今日では企業なしの社会は考えられません。

それぞれの企業は、利益を上げることが目的に活動していますが、それにともなって、環境や社会に影響が及ぶことも少なくありません。環境汚染や労働災害、企業の不祥事といった形で問題が表面化することもしばしばあります。

この調査では、企業活動によるそのような影響に関し、これに熱心に対応する企業とそうでない企業を投資先としてどう考えるかなどについて、年金とからめて、おたずねします。

問1 あなたの性別、年齢、お住まいの都道府県名をお教えてください。

【それぞれ単一回答、なお、予定回答サンプル数に達したら、問2以下の調査は終了】

- (1) 性別 (1.男 2.女)
- (2) 年齢 (歳)
- (3) 居住都道府県名 ()

問 2 あなたのご職業をおたずねします。次の中から最も当てはまるものを 1 つ選んでください。

【単一回答】

1. 自営業・自由業・家族従業員
2. 会社・団体の経営者または役員
3. 正社員
4. 公務員
5. 契約社員・派遣社員・嘱託
6. パート・アルバイト
7. 学生
8. 無職

問 3 あなたが最後に卒業された学校は、次のどれですか。

【単一回答】

1. 中学校
2. 高等学校
3. 短期大学・高専
4. 大学・大学院
5. 専門学校・専修学校
6. その他 ()

問 4 お子様はいらっしゃいますか。

【単一回答】

1. いる
2. いない

問 5 あなたの公的年金の加入や受給の状況についておたずねします。次のうち、あなたが当てはまるものをすべてお答えください。

【複数回答】

1. 国民年金に加入している（国民年金保険料を支払っているか、手続きをして国民年金保険料を免除または猶予してもらっている）
2. 厚生年金に加入している（会社や官庁にお勤めの方で、給与明細で厚生年金保険料が引かれている）
3. 厚生年金に加入する配偶者の被扶養者（第 3 号被保険者）である

4. 年金には加入しておらず、受給もしていない
5. 基礎年金を受給している
6. 厚生年金を受給している
7. 共済年金を受給している

問 6 企業によっては、従業員のために独自で企業年金を実施するところがあります。また、個人で任意で加入できるものとして、個人型確定拠出年金（iDeCo（イデコ））や国民年金基金があります。次のうち、あなたがあてはまるものをすべてお答えください。

【複数回答、ただし、「9.」は他との重複禁止】

1. 確定拠出型の企業年金（あなたが運用の指図をするタイプの企業年金）に加入している
2. それ以外の企業年金（厚生年金基金、確定給付企業年金など）に加入している
3. 個人型確定拠出年金（iDeCo）に加入している
4. 国民年金基金に加入している
5. 上記 1.～4.のどれかから年金を受給している
6. 上記 1.～4.のどれかから一時金を受給した
7. 上記 1.～4.のどれかから年金を受給していたが、今は受給していない
8. 上記 1.～4.のどれかに加入したことがあるが、受給したことはない。
9. 上記 1.～4.のどれにも加入したことはない

問 7 あなたの昨年の年収（税込）はいくらでしたか。

【単一回答】

1. 200 万円未満
2. 200 万円以上～400 万円未満
3. 400 万円以上～600 万円未満
4. 600 万円以上～800 万円未満
5. 800 万円以上～1,000 万円未満
6. 1,000 万円以上～1,500 万円未満
7. 1,500 万円以上

問 8 あなたの保有する金融資産（現金、預貯金、株式、債券、投資信託など）の額は全部でどれくらいですか。不動産は除いてお答えください。

【単一回答】

1. 200 万円未満
2. 200 万円以上～500 万円未満
3. 500 万円以上～1,000 万円未満
4. 1,000 万円以上～2,000 万円未満
5. 2,000 万円以上～5,000 万円未満

6. 5,000 万円以上～1 億円未満
7. 1 億円以上

問 9 あなたご自身のこれからの暮らし向きについて、どのような希望を持っていますか。次のうち最も近いものを 1 つ選んでください。

【単一回答】

1. 今よりもっともっと豊かになりたい
2. 今より少しは豊かになりたい
3. 今の暮らし向きを維持したい
4. これからの考えると、今より少し厳しくなってもやむを得ないが、できるだけ影響が少なくなしてほしい
5. これからの考えると、大幅に厳しくなってもやむを得ないが、食べていけるだけの収入はほしい
6. これからのことは特に考えていない

問 10 あなたはこれまで次のような投資をした経験がありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

【複数回答、ただし、「7.」は他との重複禁止】

1. 個々の企業の株式
2. 株式に投資する投資信託（株式投資信託又は ETF）
3. 個々の企業の社債
4. 国債又は地方債（個人向けを含みます）
5. 国債、地方債又は社債に投資する投資信託（公社債投資信託）
6. 外国の国債又は国際機関が発行する債券
7. 上記のどれも経験がない

問 11 環境や社会に関わる問題、企業のあり方などについて、毎日のように、新聞やテレビなどで様々なニュースや解説が報じられています。あなたは、そういった問題についてどの程度関心を持っていますか。

【単一回答】

1. 大いに関心がある
2. まあ関心がある
3. あまり関心はない
4. まったく関心がない

問 12 いくつかの企業の製品（性能はほぼ同じ）の中から購入を検討する場面を想像してください。その中に次のような企業がある場合、あなたはその情報を製品選択の際にどの程度考慮すると思いますか。

【項目ごとに、「1. かなり高くてもその企業の製品を選ぶ」、「2. かなりでなく、少し高いだけならその企業の製品を選ぶ」、「3. 値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ」、「4. この情報は製品選択では考慮しない」の中から単一回答】

1. 大気中への二酸化炭素の排出を極力抑制するよう努力をしている企業
2. 産業廃棄物の排出を極力減らすよう努力をしている企業
3. 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業
4. 使う側の利便を考えた製品開発に努力し、苦情に対しては消費者の立場に立った対応をする企業
5. 残業を極力減らし、育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業
6. 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業
7. 発展途上国での取引で、役人からわいろを要求されても毅然として応じない企業
8. 環境保全や労働条件の改善、社会貢献への取組み、経営の体制や方針などについて、きちんとした報告書を公表している企業
9. 社会の公器としての役割を自覚し、社外取締役を重視する企業

問 13 もし、あなたに十分なお金があるとする、次のような企業の株式や社債を買いたいと思いますか。

【項目ごとに、「1. ぜひ買いたい」、「2. 買うことを検討したい」、「3. 買うかどうかわからないが考えてみたい」、「4. この情報があるからといって株式や社債の購入を考えることはない」の中から単一回答】

1. 大気中への二酸化炭素の排出を極力抑制するよう努力をしている企業
2. 産業廃棄物の排出を極力減らすよう努力をしている企業
3. 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業
4. 使う側の利便を考えた製品開発に努力し、苦情に対しては消費者の立場に立った対応をする企業
5. 残業を極力減らし、育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業
6. 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業
7. 発展途上国での取引で、役人からわいろを要求されても毅然として応じない企業
8. 環境保全や労働条件の改善、社会貢献への取組み、経営の体制や方針などについて、きちんとした報告書を公表している企業
9. 社会の公器としての役割を自覚し、社外取締役を重視する企業

問 14 もし、あなたかあなたの親族もしくはあなたの親しい友人が、次のような企業の株式か社債を持っているとすると、どのように感じると思いますか。

【項目ごとに、「1. 損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ」、「2. 損益にもよるが、なるべく手放すべきだ」、「3. 手放すことを検討する方がよい」、「4. この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない」の中から単一回答】

1. 大気中への二酸化炭素の排出を抑制する努力をまったくしない企業
2. 産業廃棄物の不法投棄をしている企業
3. 製品の製造や製品自体がエネルギー多消費や使い捨てであるなど、環境への配慮が後回しになっている企業
4. 使う側のことをあまり考えないで製品開発し、苦情に対しては責任逃れの姿勢を貫く企業
5. サービス残業が日常化し労働災害も時々生じているブラック企業
6. 取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件があっても、自社とは関係がないとして平然としている企業
7. 発展途上国での取引で、役人にわいろを贈って有利な条件を得ている企業
8. 環境保全や労働条件の改善、社会貢献に対する取組み、経営の体制や方針などの開示に後ろ向きの企業
9. 社外取締役は置かないか、置いても形だけの企業

問 15 これまでお答えいただいたような、様々な環境(Environment)や社会(Social)に関わる問題、企業の統治(Governance)を考慮して投資を行うことを、それぞれの英語の頭文字をとって、ESG 投資と呼びます。以前は、社会的責任投資(英語の頭文字をとって「SRI」)と呼ばれていました。また、これら ESG の事項などに取り組む企業の責任を、企業の社会的責任(英語の頭文字をとって「CSR」)と呼びます。企業の統治はコーポレート・ガバナンスともいいます。あなたは、これらの意味を、どの程度知っていましたか。

【項目ごとに「1. よく知っていた」、「2. まあ知っていた」、「3. 言葉だけは聞いたことがあった」、「4. 知らなかった」の中から単一回答】

1. ESG 投資
2. 社会的責任投資(SRI)
3. 企業の社会的責任(CSR)
4. コーポレート・ガバナンス

問 16 環境や社会に関わる問題などに取り組む企業の社会的責任(CSR)についておたずねします。次のうち、あなたのお考えに沿うものをすべて選んでください。

【複数回答】

1. CSR は企業経営が適切に行われるための基本であり、企業は率先して取り組むべきだ。
2. CSR に積極的に取り組んでいる企業には好感が持てる。
3. 多くの企業が CSR に取り組めば、経済全体の発展や成長にもつながる。

4. 企業は利益を追求することが目的なので、CSR は法令や規制の範囲でやればよい。
5. CSR は企業のイメージアップ活動に過ぎないので、特に評価する必要はない。
6. CSR に取り組む余裕があるなら、製品やサービスの価格を下げてほしい。
7. その他 ()
8. CSR についてはよくわからない。

問 17 あなたは、あなたや家族が払った公的年金の保険料の一部が積み立てられ、株式や債券などに投資されて運用されることをどの程度知っていますか。

【単一回答】

1. よく知っている
2. まあ知っている
3. 聞いたことはある
4. 知らない

問 18 労働組合の連合(※)は、社会的責任に配慮した企業行動および金融取引をうながし、公正かつ持続可能な社会形成に貢献するため、2010 年 12 月に「ワーカーズキャピタル責任投資ガイドライン」を策定しています(2015 年 9 月改訂)。労働者が拠出した、ないしは労働者のために拠出された年金基金については、労働者(労働組合)はその所有者として、社会や環境に悪影響を及ぼす企業行動に加担する投資を排除し、公正な市場を確立する社会的責任を認識する必要があるという考え方です。あなたは、この考えや取組みをどのように思いますか。

【単一回答】

1. とてもよい
2. まあよい
3. あまりよくない
4. まったくよくない
5. その他 ()
6. わからない

※ 「連合」は、「日本労働組合総連合会」の略称です。

問 19 2014 年 2 月に金融庁の有識者会議から、機関投資家に投資先企業との建設的な対話などを促す「スチュワードシップ・コード」が公表されました。また、ESG のうちの”G”(※)に関し、2015 年 3 月に金融庁の有識者会議から、「コーポレート・ガバナンス・コード」原案が公表され、同年 6 月に適用が開始されました。2017 年 1 月には、環境省の ESG 検討会から、特に”E”(※)の観点を踏まえた ESG 投資に関する基礎的な理解の向上に資することを目指した報告書が公表されました。あなたは、これらの内容を、どの程度知っていますか。

【項目ごとに「1. よく知っている」、「2. まあ知っている」、「4. 聞いたことはある」、「4. 知らない」の中から単一回答】

1. スチュワードシップ・コード
2. コーポレート・ガバナンス・コード
3. 環境省の ESG 検討会報告書

※ “G”は企業の統治(Governance)、“E”は環境(Environment)の頭文字です。

問 20 2014 年 2 月に金融庁の有識者会議から公表された「スチュワードシップ・コード」では、機関投資家に投資先企業との建設的な「目的を持った対話」を行うよう促しています。これによる当該企業の企業価値の向上や持続的成長を通じて、中長期的な投資成果の拡大を企図します。このコードは、公的年金の運用主体や大半の運用会社が受入れを表明しています。あなたは、この考えや取組みをどのように思いますか。

【単一回答】

1. とてもよい
2. まあよい
3. あまりよくない
4. まったくよくない
5. その他 ()
6. わからない

問 21 公的年金の財政は、保険料を納める国民の労働参加が進めば長期的に持続性が維持されますが、そうでなければいずれ困難になることが示されています(※)。このことから、公的年金の資金運用においては、女性の労働参加や高齢者雇用、非正規雇用の正規化など、労働参加促進に重点を置いた ESG 投資を進めるべきであるという考え方があります。あなたは、この考えをどのように思いますか。

【単一回答】

1. とてもよい
2. まあよい
3. あまりよくない
4. まったくよくない
5. その他 ()
6. わからない

※ 厚生労働省「国民年金及び厚生年金に係る財政の現況及び見通し（平成 26 年財政検証結果）」によります。

問 22 国連事務総長の呼びかけにより 2006 年に取りまとめられた自主的投資原則（国連

PRI) では、投資のプロセスに環境や社会、企業の統治といった ESG の課題を組み込むこと、活動的な株式所有者となって所有方針等に ESG 問題を組み入れることなどを宣言しています。世界の多くの機関投資家が署名しており、日本の公的年金積立金の運用を行う GPIF (※) も 2015 年 9 月にこれに署名しました。あなたは、この考えや取り組みをどのように思いますか。

【単一回答】

1. とてもよい
2. まあよい
3. あまりよくない
4. まったくよくない
5. その他 ()
6. わからない

※ 「GPIF」は、「年金積立金管理運用独立行政法人」の略称です。

問 23 あなたや家族が払った保険料の一部も含まれる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、おうかがいします。あなたは、次のような意見や考えをどう思いますか。

【項目ごとに、「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」、「3. どちらかといえばそう思わない」、「4. そう思わない」、「5. わからない」の中から単一回答】

1. 自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取組みを支援するよう投資してほしい。
2. 自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業には投資しないようにしてほしい。
3. 年金のような長期資金では、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮して投資先を選択することは合理的だ。
4. 年金の積立金は将来の年金の支払いだけを考えて運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、これに関係がないので、慎重であるべきだ。
5. 環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮して投資先を選定しても、運用成績に結びつかない。
6. 公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではない。

問 24 あなたは、あなたや家族が払った保険料の一部が積み立てられ、将来受け取る年金の財源になる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。

【単一回答】

1. してほしい

2. どちらかといえばしてほしい
3. どちらかといえばしてほしくない
4. してほしくない
5. わからない

問 25 企業の中には独自で企業年金を実施するところがあります。企業年金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、次のような意見や考えをどう思いますか。企業年金へのご加入の有無にかかわらず、一般的なお考えとしてお答えください。

【項目ごとに、「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」、「3. どちらかといえばそう思わない」、「4. そう思わない」、「5. わからない」の中から単一回答】

1. 企業年金の資金運用でも環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取組みを支援すべきだ。
2. 企業年金の資金が環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業に投資されないようにすべきだ。
3. 企業年金の資金は、主に企業が支出するものなので、その企業の社会的責任（CSR）に関する方針に沿った運用をすべきだ。
4. 企業年金の資金は将来の年金の支払いだけを考えて運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、労使から明確な意思表示がない限り、慎重であるべきだ。
5. 企業年金の資金は、企業の労働者の老後の生活に充てられる資金なので、運用のし方も労働者の意見をよく聞いて決めるべきだ。
6. 企業年金の資金は民間の資金なので、政府が運用に口出しすべきではない。

問 26 あなたは、企業が実施する企業年金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。企業年金に加入されていない方も、企業年金への希望としてお答えください。

【単一回答】

1. してほしい
2. どちらかといえばしてほしい
3. どちらかといえばしてほしくない
4. してほしくない
5. わからない

問 27 企業年金の中には、加入者が運用の指図をするタイプの年金（確定拠出年金といいます）があります。また、個人で任意で加入できる個人型確定拠出年金（iDeCo）もあります。あなたは、これらを通じて、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。現在これらに加入し

【单一回答】

- 【単一回答、理由は自由記載】

- 理由 ()

第3章 今回のアンケートデータについて

一般に、ネットアンケートには、回答者に高学歴バイアスがあるといわれている。また、前回調査では公的年金加入割合をもとに割付を行ったが、今回そのようなことはしていないため、加入状況に偏りがある可能性がある。そこで、今回のアンケートデータについて、これらのことを検証する。

1 回答者の学歴について

今回調査では回答者の学歴について、1) 中学校、2) 高等学校、3) 短期大学・高専、4) 大学・大学院、5) 専門学校・専修学校、6) その他、の6択で聞いている。6) その他の回答者は2人であり、昔の女学校、国民学校、とのことであった。

学歴については国勢調査で調査が行われている。直近が平成22年国勢調査である。今回のアンケート調査は平成27年国勢調査を基に割り付けたので、学歴に関する平成22年国勢調査結果を5年ずらせて比較を行う。女性は短大への進学者が多いことから、高学歴者を大学・大学院と短大・高専の卒業者とする。国勢調査結果では、各学校を卒業したか在学中かを聞いており、20歳台¹²は在学者の割合が高いため、比較対象外とする。また、在学者は一括して表章されており、卒業校が不詳という区分もある。そこで、国勢調査による大学・短大卒業者割合の算出は、「大学・大学院」と「短大・高専」の卒業者の、在学者と不詳を除いた人口に対する割合とした。

これを性別、年齢10歳ごとで集計すると、図表3-1のとおりとなる。

〔図表3-1〕大学・短大卒の回答者割合と全国の卒業者割合の比較

年齢	全回答者 A【人】	大短卒回答者 B【人】	回答者割合 B/A【%】	国調大短割合 C【%】	倍率 (B/A)/C【%】
《男性》					
20-29	342	213	62.3	—	—
30-39	429	261	60.8	53.3	14.1
40-49	504	304	60.3	48.1	25.5
50-59	419	251	59.9	46.0	30.3
60-69	239	145	60.7	32.1	88.9
70-	267	142	53.2	21.2	151.1
《女性》					
20-29	330	180	54.5	—	—
30-39	419	265	63.2	60.8	4.1
40-49	496	270	54.4	51.2	6.3
50-59	422	215	50.9	42.9	18.7
60-69	253	137	54.2	23.6	129.8
70-	380	134	35.3	9.6	265.9

¹² 平成22年国勢調査の時点では15歳～24歳。

これを見ると、今回調査の大学・短大卒の回答者割合が国勢調査による大学・短大卒業者割合を上回り、年齢層が上がるにしたがって、倍率がかかなり高くなる。男性 70 歳台、女性 60 歳台以上は倍（100%）を超えている。このことから、今回調査のデータには高学歴バイアスがあり、年齢層が高くなるほどバイアスの程度が高まっているといえる。

問題はこれが無視できるかである。本調査で最も関心が高い質問は、公的年金資金による ESG 投資をしてほしいかどうかの一般国民の意向（問 24）である。そこで、これについて、大学・短大卒の回答者とそれ以外の回答者の回答状況を比較¹³したものが図表 3-2 である。

これを見ると大学・短大卒の回答者とそれ以外の回答者の回答状況はかなり異なっている。全体的に、大学・短大卒は積極的な回答が多く、分からないという回答は少ない。表示は省略するが、それ以外の質問でも概してこの傾向が認められた。ESG 投資を進める観点からは好ましいが、このままで集計・分析すると、一般国民の意向を客観的に把握するという観点からは、問題があると考えられる。また、ESG 投資に好意的な回答が多くなるような結果を導き出すためバイアスを放置したのではないかといった批判を受ける恐れがある。

〔図表 3-2〕 大学・短大卒とそれ以外の者の回答状況（問 24）

問24	公的年金によるESG投資 に関する意向	全体 %	大学・短大卒 %	それ以外 %
1	してほしい	5.02	6.05	3.78
2	どちらかといえばしてほしい	28.68	33.37	23.05
3	どちらかといえばしてほしくない	15.52	16.03	14.90
4	してほしくない	7.86	6.41	9.59
5	わからない	42.93	38.15	48.67
	合計	100.00	100.00	100.00

そこで、事後的な調整になるが、性別、各年齢 10 歳きざみに、大学・短大卒の回答者割合が国勢調査の卒業者割合と同じになるよう、ウェイト補正を行うこととする¹⁴。この補正の前後で、どのような違いになるかを比較すると図表 3-3 のとおりである。

これを見ると、「2 どちらかというとしてほしい」で 1.8%ポイント、「5 わからない」で 1.5%ポイントほどの違いがある。四捨五入すると 2%ポイントの違いになる。そこで、今回調査では、全ての質問について、ウェイト補正をして集計することとした。この違いをどの程度重大なものと見るかは議論がありうるが、補正をすることによって上記のような批判は回避できるであろう。

ただし、前回調査との比較が可能な 20～59 歳は、60 歳台以上に比べるとバイアスの程度

¹³ 60 歳以上の抽出率を 1/2 としたことから、同年齢以上の回答者を 2 倍に評価している。

¹⁴ 性別、年齢層ごとに、図表 3-1 に沿って、全回答者数を A、大学・短大卒回答者数を B、国勢調査による大学・短大卒業者割合を c（％ではなく小数）として、大学・短大卒回答者数には $c A/B$ のウェイトを、それ以外の回答者数には $(1-c) A/(A-B)$ のウェイトを乗じることによる。

はごく緩い。従って、前回調査との比較ではウェイト補正をするほどの必要性はないと考えられる。なお、前回調査では学歴は聞いていない。

〔図表 3-3〕 ウェイト補正前後の比較（問 24）

問24	公的年金によるESG投資 に関する意向	オリジナル %	補正後 %
1	してほしい	5.02	4.62
2	どちらかといえばほしい	28.68	26.88
3	どちらかといえばほしくない	15.52	15.60
4	してほしくない	7.86	8.46
5	わからない	42.93	44.44
	合計	100.00	100.00

2 回答者の公的年金加入状況について

今回調査では公的年金への加入と受給について、1) 国民年金に加入している（国民年金保険料を支払っているか、手続きをして国民年金保険料を免除または猶予してもらっている）、2) 厚生年金に加入している（会社や官庁にお勤めの方で、給与明細で厚生年金保険料が引かれている）、3) 厚生年金に加入する配偶者の被扶養者（第 3 号被保険者）である、4) 年金には加入しておらず、受給もしていない、5) 基礎年金を受給している、6) 厚生年金を受給している、7) 共済年金を受給している、の 7 つについて、1) ～3) は互いに排他、4) は完全排他、他は複数回答可で聞いている。

このうち、公的年金加入に関係するのは 1) ～4) である。なお、制度上、国民年金は 59 歳までが強制加入であり、64 歳まで任意加入が可能（25 年の老齢基礎年金受給要件を満たさない者は、65～69 歳の任意加入も可能）である。厚生年金は、加入は 69 歳までである。

公的年金の加入については、業務統計である厚生年金保険・国民年金事業年報が加入の実績値を正確に表すものと考えられる。事業年報では各年度末の年齢 5 歳階級別加入者数が表章されている。今回調査は、2015 年 10 月 1 日現在の人口等を調べる国勢調査結果により割付を行った。6 カ月の期間差はあるが、ほぼ同じと考え、年齢 10 歳きざみの加入割合を集計すると、図表 3-4 のとおりとなる。

全国とは、平成 26 年度厚生年金保険・国民年金事業年報による 2015 年 3 月末の被保険者数を平成 27 年国勢調査の数値で割ったものであり、6 カ月のずれがあることから、正確な加入率ではない。また、非加入の全国は、国勢調査の人口から事業年報による被保険者数を控除したものの人口に対する割合であり、実際の非加入割合を示すものではない。一方、非加入の回答者には、4) 年金には加入しておらず、受給もしていない、と答えたものの他、1) ～3) のいずれにも回答せず、5) ～7) のいずれかの年金を受給していると回答したものが含まれている。

これを見ると、今回調査の回答者には、第 1 号被保険者が多いこと（50 歳台男性は例外）、第 2 号被保険者が少ないこと（50 歳台男性は例外）、第 3 号被保険者は男性では多く、女性

では少ないこと（20歳台女性は例外）、非加入が多いこと（ただし、50歳台は男女とも少ない）、が指摘できる。

【図表 3-4 回答者と全国の公的年金加入割合の比較】

年齢	第1号		第2号		第3号		非加入	
	回答者	全国	回答者	全国	回答者	全国	回答者	全国
《 男性 》								
20-29	48.2	44.5	33.9	53.7	2.0	0.1	15.8	1.8
30-39	34.0	24.0	60.4	72.3	0.5	0.3	5.1	3.5
40-49	27.0	23.8	67.3	68.3	1.0	0.4	4.8	7.6
50-59	24.3	26.0	68.3	61.3	1.4	0.6	6.0	12.1
60-69	13.8	0.8	18.8	30.3	0.8	0.0	66.5	68.9
70-	6.0	0.0	3.0	0.0	0.7	0.0	90.3	100.0
《 女性 》								
20-29	40.9	41.2	34.5	45.6	13.3	10.3	11.2	2.8
30-39	31.5	21.1	41.1	42.2	23.6	34.3	3.8	2.4
40-49	31.3	21.3	36.1	36.6	27.2	37.5	5.4	4.6
50-59	40.8	29.0	26.3	32.4	28.9	32.4	4.0	6.2
60-69	15.8	1.4	4.3	11.9	8.7	0.0	71.1	86.7
70-	15.8	0.0	1.6	0.0	2.4	0.0	80.3	100.0

ただし、更に60歳台以降を見ると、制度上任意加入者のみの60歳台でも国民年金に加入しているとの回答の比率がかなり高い。また、制度上国民年金に加入できない70歳台の者のうち男性6%、女性16%の回答者が国民年金に加入していると回答している。同じく、制度的にはありえない60歳台以上の第3号被保険者の回答割合もある程度見られる。50歳台の回答者の状況が他の年齢層とかなり異なった傾向を示しているが、50歳台は定年退職や年金受給が間近に迫り、年金制度に対する関心が最も高くなる年齢層である。

このことから、50歳台を除き、実はあまり年金制度の加入に関する認識が高くないことが推察される。自分のことなので、今回調査の選択肢には「わからない」は用意しなかった。そこで、多くの回答者が、最初の選択肢である1) 国民年金に加入している、を選んだのではないかと思われる。従って、公的年金加入に着目して詳細な分析を行うことはあまり意味がないであろう。

自分自身の年金制度への加入にすら認識があいまいな者は、年金の資金運用を含む年金に関する認識もあいまいであろう。今回調査にはそのような者が多く含まれている。一方、前回調査では、そのような者を予備調査の段階で排除した。前回調査に比べて後退しているように見える項目が少なからず見られるが、これは、このような調査設計上の違いにより、年金に関する認識があいまいな者が前回調査では少なく、今回調査では多いことが寄与している可能性がある。そして、年齢と居住地域だけで割り付けた今回調査が、一般国民をよりよく代表しているものと考えられる。

第 4 章 今回調査の集計結果

以下では、実際の質問項目ごとに、全体・性別及び年齢層別の集計結果を示す。今回調査は 60 歳以上の抽出率を 59 歳以下の 1/2 としたので、60 歳以上の回答者を 2 倍に評価し、更に、前節で述べたように高学歴バイアスを補正するためのウエイト補正をして集計している。ウエイト補正をしたことから、サンプル数は表章されない。

問 1 あなたの性別、年齢、お住まいの都道府県名をお教えてください。【それぞれ単一回答】

年齢層	全体	男性	女性
	%	%	%
20歳台	11.92	12.64	11.25
30歳台	15.04	15.85	14.29
40歳台	17.73	18.63	16.91
50歳台	14.91	15.48	14.39
60歳台	17.45	17.66	17.25
70歳以上	22.95	19.73	25.91
合計	100.00	100.00	100.00

地域別		全体	男性	女性
		%	%	%
1	4都県	27.25	27.45	27.05
2	東海近畿	27.91	28.11	27.72
3	その他	44.85	44.44	45.23
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	31.85	30.95	31.15	26.84	24.57	21.71
2	28.57	27.49	28.41	27.57	26.27	28.90
3	39.58	41.55	40.43	45.59	49.16	49.39
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 2 あなたのご職業をおたずねします。次の中から最も当てはまるものを 1 つ選んでください。【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	自営業・自由業・家族従業員	8.38	11.82	5.21
2	会社・団体の経営者または役員	2.83	4.64	1.16
3	正社員	22.75	33.17	13.13
4	公務員	2.74	4.09	1.50
5	契約社員・派遣社員・嘱託	5.57	5.99	5.19
6	パート・アルバイト	12.04	6.58	17.08
7	学生	1.65	2.14	1.19
8	無職	44.04	31.58	55.53
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	3.72	7.12	9.14	11.86	12.34	5.77
2	3.27	3.10	3.99	3.99	2.35	1.13
3	32.44	41.84	36.50	33.58	5.95	0.30
4	3.87	4.04	3.94	4.88	1.37	0.04
5	6.99	8.25	7.84	4.76	6.97	0.79
6	15.92	13.04	15.80	16.98	9.30	5.34
7	13.84	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
8	19.94	22.62	22.79	23.95	61.72	86.62
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問3 あなたが最後に卒業された学校は、次のどれですか。【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	中学校	4.19	4.09	4.28
2	高等学校	46.27	44.34	48.06
3	短期大学・高専	8.43	2.81	13.61
4	大学・大学院	30.68	39.43	22.61
5	専門学校・専修学校	10.32	9.20	11.35
6	その他	0.11	0.12	0.10
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	3.13	2.96	3.89	1.54	3.44	8.08
2	27.68	27.20	31.84	41.48	60.59	71.81
3	6.70	10.04	13.31	12.39	6.60	3.30
4	51.79	46.95	36.31	32.05	21.12	11.10
5	10.71	12.84	14.65	12.55	8.25	5.23
6	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.48
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 4 お子様はいらっしゃいますか。【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	いる	57.72	54.49	60.69
2	いない	42.28	45.51	39.31
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	14.73	34.00	44.31	64.29	79.25	85.30
2	85.27	66.00	55.69	35.71	20.75	14.70
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 5 あなたの公的年金の加入や受給の状況についておたずねします。次のうち、あなたがあてはまるものをすべてお答えください。【複数回答】

1. 国民年金に加入している（国民年金保険料を支払っているか、手続きをして国民年金保険料を免除または猶予してもらっている）
2. 厚生年金に加入している（会社や官庁にお勤めの方で、給与明細で厚生年金保険料が引かれている）
3. 厚生年金に加入する配偶者の被扶養者（第3号被保険者）である
4. 年金には加入しておらず、受給もしていない
5. 基礎年金を受給している
6. 厚生年金を受給している
7. 共済年金を受給している

	全体	男性	女性
	%	%	%
1	28.23%	27.19	29.19
2	30.84%	41.30	21.19
3	9.12%	1.02	16.59
4	3.44%	4.21	2.72
5	18.53%	14.86	21.91
6	23.61%	25.24	22.10
7	4.47%	5.19	3.81

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	44.94	33.92	30.65	33.35	20.44	16.55
2	34.52	49.74	50.45	46.67	15.67	2.64
3	7.59	11.88	13.97	15.28	5.41	3.18
4	8.33	2.56	3.08	2.96	5.06	0.82
5	0.60	0.87	0.93	1.07	38.39	49.25
6	1.49	0.23	0.86	0.78	49.53	63.13
7	3.13	1.18	0.80	0.55	9.58	8.84

問 6 企業によっては、従業員のために独自で企業年金を実施するところがあります。また、個人で任意で加入できるものとして、個人型確定拠出年金（iDeCo（イデコ））や国民年金基金があります。次のうち、あなたがあてはまるものをすべてお答えください。【複数回答、ただし、「9.」は他との重複禁止】

1. 確定拠出型の企業年金（あなたが運用の指図をするタイプの企業年金）に加入している
2. それ以外の企業年金（厚生年金基金、確定給付企業年金など）に加入している
3. 個人型確定拠出年金（iDeCo）に加入している
4. 国民年金基金に加入している
5. 上記 1.～4.のどれかから年金を受給している
6. 上記 1.～4.のどれかから一時金を受給した
7. 上記 1.～4.のどれかから年金を受給していたが、今は受給していない
8. 上記 1.～4.のどれかに加入したことがあるが、受給したことはない
9. 上記 1.～4.のどれにも加入したことはない

	全体	男性	女性
	%	%	%
1	9.03%	13.04	5.32
2	12.03%	14.35	9.88
3	2.49%	3.07	1.95
4	8.45%	8.05	8.81
5	16.06%	15.53	16.56
6	1.64%	1.63	1.65
7	0.75%	0.87	0.64
8	4.65%	3.88	5.36
9	49.37%	44.55	53.81

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	10.27	13.05	13.09	15.83	4.15	1.88
2	10.71	13.93	15.16	14.66	11.43	7.79
3	2.68	2.83	4.01	3.72	2.08	0.49
4	12.95	10.00	10.39	7.03	5.83	6.50
5	1.49	1.20	1.13	0.99	31.66	42.84
6	0.00	0.43	0.60	1.01	3.99	2.70
7	0.00	0.27	0.19	0.54	0.71	2.06
8	4.91	4.61	7.41	7.27	4.53	0.78
9	59.08	55.74	50.63	51.74	44.79	41.10

問 7 あなたの昨年の年収（税込）はいくらでしたか。【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	200万円未満	49.02	26.66	69.65
2	200万円以上～400万円未満	27.81	35.52	20.70
3	400万円以上～600万円未満	11.98	18.69	5.79
4	600万円以上～800万円未満	6.11	10.26	2.27
5	800万円以上～1,000万円未満	2.59	4.70	0.65
6	1,000万円以上～1,500万円未満	1.29	2.33	0.34
7	1,500万円以上	1.19	1.84	0.59
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	53.72	38.98	41.48	46.69	55.81	55.35
2	29.17	29.25	23.87	17.07	30.00	34.53
3	12.05	18.85	15.70	12.46	7.14	7.93
4	3.27	7.81	11.06	11.75	3.21	1.17
5	0.89	2.68	4.08	7.21	1.28	0.27
6	0.15	1.19	2.23	3.01	1.01	0.33
7	0.74	1.24	1.58	1.82	1.55	0.42
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 8 あなたの保有する金融資産（現金、預貯金、株式、債券、投資信託など）の額は全部でどれくらいですか。不動産は除いてお答えください。【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	200万円未満	45.44	41.06	49.48
2	200万円以上～500万円未満	18.01	17.73	18.28
3	500万円以上～1,000万円未満	13.73	14.85	12.71
4	1,000万円以上～2,000万円未満	10.51	12.10	9.05
5	2,000万円以上～5,000万円未満	8.29	9.65	7.04
6	5,000万円以上～1億円未満	2.85	3.06	2.65
7	1億円以上	1.16	1.55	0.80
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	69.49	50.34	52.32	44.81	37.53	30.84
2	17.56	20.43	15.48	17.75	17.64	19.09
3	7.74	14.40	12.67	13.40	15.55	16.08
4	2.83	7.98	9.67	9.74	11.76	16.38
5	1.49	4.59	7.08	9.59	11.92	11.59
6	0.30	1.35	1.48	3.04	4.58	4.76
7	0.60	0.91	1.31	1.67	1.03	1.26
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 9 あなたご自身のこれからの暮らし向きについて、どのような希望を持っていますか。次のうち最も近いものを1つ選んでください。【単一回答】

1. 今よりもっともっと豊かになりたい
2. 今より少しは豊かになりたい
3. 今の暮らし向きを維持したい

4. これからを考えると、今より少し厳しくなってもやむを得ないが、できるだけ影響が少なくなしてほしい
5. これからを考えると、大幅に厳しくなってもやむを得ないが、食べていけるだけの収入はほしい
6. これからのことは特に考えていない

	全体	男性	女性
	%	%	%
1	32.60	34.17	31.15
2	22.11	21.79	22.40
3	23.80	21.35	26.06
4	8.39	7.76	8.98
5	4.07	3.24	4.84
6	9.02	11.69	6.57
合計	100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	42.71	47.37	44.84	33.78	23.86	14.09
2	26.79	24.82	23.34	21.67	23.04	16.52
3	9.08	9.36	14.46	20.52	31.86	44.12
4	3.72	4.27	5.44	10.34	10.91	12.63
5	3.13	2.76	3.52	5.18	4.13	5.09
6	14.58	11.41	8.40	8.51	6.20	7.54
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 10 あなたはこれまで次のような投資をした経験がありますか。あてはまるものをすべて選んでください。【複数回答、ただし、「7.」は他との重複禁止】

1. 個々の企業の株式
2. 株式に投資する投資信託（株式投資信託又は ETF）
3. 個々の企業の社債
4. 国債又は地方債（個人向けを含みます）
5. 国債、地方債又は社債に投資する投資信託（公社債投資信託）
6. 外国の国債又は国際機関が発行する債券
7. 上記のどれも経験がない

	全体	男性	女性
	%	%	%
1	24.86%	31.81	18.44
2	15.50%	18.44	12.79
3	4.39%	5.34	3.51
4	9.00%	9.02	8.98
5	3.26%	3.92	2.65
6	3.01%	3.15	2.88
7	63.66%	56.83	69.97

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	9.97	17.83	19.68	25.84	29.77	36.81
2	7.29	9.84	14.18	15.37	18.61	22.22
3	2.68	3.62	2.97	5.08	5.36	5.70
4	2.83	5.48	5.55	8.80	10.67	16.03
5	2.23	2.40	2.53	3.44	4.62	3.78
6	1.49	2.12	1.88	3.20	3.52	4.74
7	82.59	74.16	69.74	61.99	55.59	49.48
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 11 環境や社会に関わる問題、企業のあり方などについて、毎日のように、新聞やテレビなどで様々なニュースや解説が報じられています。あなたは、そういった問題についてどの程度関心を持っていますか。【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	大いに関心がある	16.78	20.82	13.06
2	まあ関心がある	45.03	43.49	46.45
3	あまり関心はない	20.68	18.27	22.90
4	まったく関心がない	17.51	17.42	17.59
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	13.69	15.25	16.10	14.81	17.76	20.46
2	37.05	41.06	41.65	46.76	50.50	49.09
3	20.24	20.18	21.66	22.72	20.35	19.40
4	29.02	23.50	20.58	15.71	11.39	11.05
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 12 いくつかの企業の製品（性能はほぼ同じ）の中から購入を検討する場面を想像してください。その中に次のような企業がある場合、あなたはその情報を製品選択の際にどの程度考慮すると思いますか。

【項目ごとに、「1. かなり高くてもその企業の製品を選ぶ」、「2. かなりでなく、少し高いだけならその企業の製品を選ぶ」、「3. 値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ」、「4. この情報は製品選択では考慮しない」の中から単一回答】

1. 大気中への二酸化炭素の排出を極力抑制するよう努力をしている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くても選ぶ	3.28	3.70	2.89
2	少し高いだけなら選ぶ	23.12	23.14	23.11
3	値段が変わらなければ選ぶ	43.39	39.77	46.73
4	考慮しない	30.21	33.40	27.28
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	3.87	2.80	3.26	2.95	1.59	4.79
2	25.00	17.37	20.40	20.28	24.62	28.74
3	32.59	43.21	40.39	45.07	49.20	45.90
4	38.54	36.62	35.95	31.71	24.58	20.57
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

2. 産業廃棄物の排出を極力減らすよう努力をしている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くても選ぶ	3.08	3.06	3.10
2	少し高いだけなら選ぶ	23.20	22.87	23.52
3	値段が変わらなければ選ぶ	44.01	41.04	46.75
4	考慮しない	29.70	33.04	26.63
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	4.17	1.81	2.93	1.84	2.51	4.71
2	22.92	17.61	21.07	20.62	24.81	29.13
3	34.67	44.45	40.47	47.25	47.68	46.42
4	38.24	36.13	35.53	30.29	25.00	19.74
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

3. 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くても選ぶ	3.81	3.80	3.83
2	少し高いだけなら選ぶ	23.40	22.69	24.05
3	値段が変わらなければ選ぶ	44.56	41.75	47.15
4	考慮しない	28.23	31.75	24.97
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	3.57	2.94	3.06	3.26	4.11	5.23
2	24.55	17.24	20.97	22.05	23.40	29.59
3	36.01	44.74	41.38	46.02	47.88	47.85
4	35.86	35.07	34.58	28.67	24.61	17.32
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

4. 使う側の利便を考えた製品開発に努力し、苦情に対しては消費者の立場に立った対応をする企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くても選ぶ	5.62	6.33	4.96
2	少し高いだけなら選ぶ	28.80	29.98	27.71
3	値段が変わらなければ選ぶ	39.87	36.12	43.32
4	考慮しない	25.72	27.57	24.01
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	5.36	4.25	3.60	5.28	4.81	9.04
2	26.93	22.77	25.90	29.52	28.56	35.67
3	32.44	40.86	39.24	40.25	44.72	39.61
4	35.27	32.12	31.27	24.95	21.92	15.67
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

5. 残業を極力減らし、育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くても選ぶ	3.73	3.83	3.65
2	少し高いだけなら選ぶ	21.18	20.55	21.75
3	値段が変わらなければ選ぶ	40.80	38.46	42.97
4	考慮しない	34.28	37.16	31.63
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	5.51	3.78	3.00	2.39	2.55	5.13
2	23.51	18.44	18.24	19.16	21.26	25.28
3	31.25	37.98	37.72	40.86	45.60	46.32
4	39.73	39.80	41.05	37.59	30.59	23.27
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

6. 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くても選ぶ	3.61	3.90	3.34
2	少し高いだけなら選ぶ	21.25	21.71	20.82
3	値段が変わらなければ選ぶ	42.67	39.12	45.95
4	考慮しない	32.47	35.27	29.89
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	4.76	3.79	3.07	2.05	2.91	4.84
2	22.77	17.25	19.63	20.01	21.55	24.92
3	32.44	40.83	37.22	44.38	47.67	48.51
4	40.03	38.14	40.08	33.56	27.87	21.73
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

7. 発展途上国での取引で、役人からわいろを要求されても毅然として応じない企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くても選ぶ	4.05	4.75	3.40
2	少し高いだけなら選ぶ	21.10	21.52	20.71
3	値段が変わらなければ選ぶ	39.50	35.66	43.04
4	考慮しない	35.36	38.07	32.85
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	4.46	2.43	4.35	3.55	2.77	5.96
2	23.51	17.15	17.98	18.75	20.62	26.72
3	29.61	40.85	36.32	40.83	44.22	41.73
4	42.41	39.57	41.35	36.86	32.39	25.59
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

8. 環境保全や労働条件の改善、社会貢献への取組み、経営の体制や方針などについて、きちんとした報告書を公表している企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くても選ぶ	4.05	4.38	3.74
2	少し高いだけなら選ぶ	23.13	23.72	22.59
3	値段が変わらなければ選ぶ	42.35	38.53	45.88
4	考慮しない	30.46	33.37	27.78
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	4.02	3.12	3.21	3.33	3.06	6.56
2	24.11	18.01	20.71	20.85	22.45	29.86
3	30.80	42.14	39.06	44.79	49.15	44.28
4	41.07	36.73	37.02	31.03	25.35	19.31
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

9. 社会の公器としての役割を自覚し、社外取締役を重視する企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	かなり高くても選ぶ	3.31	3.87	2.80
2	少し高いだけなら選ぶ	19.69	20.23	19.19
3	値段が変わらなければ選ぶ	40.53	37.25	43.54
4	考慮しない	36.48	38.65	34.47
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	3.42	2.99	3.14	2.38	2.94	4.48
2	22.17	15.89	17.64	17.17	19.08	24.56
3	32.29	39.02	35.95	42.07	45.69	44.40
4	42.11	42.10	43.28	38.37	32.28	26.56
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 13 もし、あなたに十分なお金があるとする、次のような企業の株式や社債を買いたいと思いますか。

【項目ごとに、「1. ぜひ買いたい」、「2. 買うことを検討したい」、「3. 買うかどうかかわからないが考えてみたい」、「4. この情報があるからといって株式や社債の購入を考えることはない」の中から単一回答】

1. 大気中への二酸化炭素の排出を極力抑制するよう努力をしている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	6.14	6.09	6.19
2	買うことを検討したい	21.99	22.56	21.45
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	30.24	28.84	31.53
4	購入を考えることはない	41.63	42.50	40.82
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	6.25	5.77	5.32	5.11	5.49	8.13
2	20.09	18.36	19.83	21.14	24.51	25.64
3	30.51	31.12	32.29	30.61	28.01	29.40
4	43.15	44.75	42.56	43.13	41.98	36.83
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

2. 産業廃棄物の排出を極力減らすよう努力をしている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	5.84	5.93	5.76
2	買うことを検討したい	22.09	21.90	22.26
3	買うかどうか分からないが考えてみたい	30.37	29.83	30.88
4	購入を考えるとはない	41.69	42.34	41.10
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	6.70	4.44	5.05	4.67	5.15	8.22
2	19.79	20.26	19.82	21.29	24.99	24.54
3	31.40	31.49	32.67	30.44	27.86	29.20
4	42.11	43.81	42.45	43.60	41.99	38.04
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

3. 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	6.81	6.43	7.15
2	買うことを検討したい	23.55	24.14	23.01
3	買うかどうか分からないが考えてみたい	29.37	28.85	29.84
4	購入を考えるとはない	40.28	40.58	40.00
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	6.40	5.58	5.47	5.68	6.52	9.81
2	22.62	20.17	21.16	23.31	26.52	26.00
3	28.27	31.42	32.13	29.65	26.14	28.72
4	42.71	42.82	41.24	41.36	40.82	35.47
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

4. 使う側の利便を考えた製品開発に努力し、苦情に対しては消費者の立場に立った対応をする企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	8.40	8.39	8.41
2	買うことを検討したい	23.22	24.12	22.39
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	28.45	27.16	29.65
4	購入を考えるとはない	39.92	40.33	39.55
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	7.89	6.82	6.49	7.58	7.97	12.04
2	20.54	20.29	21.12	22.69	25.46	26.79
3	28.72	31.20	30.91	29.17	26.30	25.79
4	42.86	41.69	41.47	40.56	40.27	35.38
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

5. 残業を極力減らし、育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	5.54	5.33	5.72
2	買うことを検討したい	20.98	20.12	21.78
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	29.95	30.19	29.72
4	購入を考えるとはない	43.53	44.36	42.77
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	8.33	6.17	4.67	4.24	3.06	7.06
2	21.13	18.96	16.84	19.48	25.54	22.94
3	29.61	29.54	32.66	31.97	28.65	27.96
4	40.92	45.32	45.82	44.31	42.74	42.04
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

6. 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	5.41	5.29	5.53
2	買うことを検討したい	20.55	20.93	20.20
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	31.06	30.23	31.83
4	購入を考えるとしない	42.98	43.55	42.45
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	6.10	5.44	4.78	4.73	4.06	7.01
2	21.73	17.81	17.58	18.62	24.26	22.45
3	29.32	30.82	33.47	32.61	28.21	31.41
4	42.86	45.93	44.17	44.04	43.46	39.12
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

7. 発展途上国での取引で、役人からわいろを要求されても毅然として応じない企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	5.23	5.01	5.44
2	買うことを検討したい	19.48	19.93	19.06
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	30.66	29.86	31.39
4	購入を考えるとしない	44.63	45.20	44.11
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	5.51	5.50	4.19	4.23	4.19	7.16
2	18.90	17.14	17.32	17.96	22.83	21.43
3	30.51	29.61	32.36	31.93	28.43	30.96
4	45.09	47.75	46.13	45.89	44.55	40.44
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

8. 環境保全や労働条件の改善、社会貢献への取組み、経営の体制や方針などについて、きちんとした報告書を公表している企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	6.54	6.21	6.84
2	買うことを検討したい	22.77	23.82	21.81
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	29.40	28.50	30.23
4	購入を考えるとしない	41.29	41.47	41.12
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	6.85	4.87	5.95	4.73	5.89	9.59
2	21.13	19.44	20.39	22.78	25.72	25.40
3	30.06	32.26	30.46	29.67	25.55	29.11
4	41.96	43.42	43.21	42.82	42.83	35.90
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

9. 社会の公器としての役割を自覚し、社外取締役を重視する企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	ぜひ買いたい	4.69	4.77	4.62
2	買うことを検討したい	20.48	21.48	19.56
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	29.91	29.26	30.52
4	購入を考えることはない	44.92	44.50	45.30
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	4.17	4.30	3.60	3.68	4.51	6.86
2	21.28	17.02	17.50	19.17	22.84	23.69
3	28.27	31.05	31.64	31.47	27.25	29.70
4	46.28	47.62	47.26	45.68	45.40	39.76
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 14 もし、あなたかあなたの親族もしくはあなたの親しい友人が、次のような企業の株式か社債を持っているとすると、どのように感じると思いますか。

【項目ごとに、「1. 損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ」、「2. 損益にもよるが、なるべく手放すべきだ」、「3. 手放すことを検討する方がよい」、「4. この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない」の中から単一回答】

1. 大気中への二酸化炭素の排出を抑制する努力をまったくしない企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	すぐ手放すべきだ	9.96	9.15	10.70
2	なるべく手放すべきだ	18.90	19.15	18.67
3	手放すことを検討する方がよい	22.55	20.60	24.35
4	特に感じることはない	48.59	51.10	46.27
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	7.14	7.47	8.12	9.37	11.44	13.73
2	19.94	18.44	18.05	19.18	19.69	18.53
3	21.28	22.66	20.62	22.92	21.66	25.08
4	51.64	51.43	53.21	48.53	47.21	42.66
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

2. 産業廃棄物の不法投棄をしている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	すぐ手放すべきだ	18.89	17.50	20.17
2	なるべく手放すべきだ	17.10	18.22	16.07
3	手放すことを検討する方がよい	19.97	17.93	21.85
4	特に感じることはない	44.04	46.35	41.91
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	12.95	15.80	16.83	20.31	20.16	23.69
2	20.83	18.15	16.03	18.45	16.59	14.80
3	19.35	18.52	19.34	17.24	21.39	22.43
4	46.88	47.53	47.80	44.01	41.85	39.07
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

3. 製品の製造や製品自体がエネルギー多消費や使い捨てであるなど、環境への配慮が後回しになっている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	すぐ手放すべきだ	10.99	10.86	11.11
2	なるべく手放すべきだ	20.97	20.27	21.62
3	手放すことを検討する方がよい	21.78	19.89	23.52
4	特に感じることはない	46.26	48.98	43.75
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	8.33	7.83	8.69	11.24	13.74	13.96
2	22.17	20.28	18.98	22.01	22.65	20.38
3	19.35	21.55	22.21	20.24	19.54	25.56
4	50.15	50.34	50.12	46.52	44.07	40.10
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

4. 使う側のことをあまり考えないで製品開発し、苦情に対しては責任逃れの姿勢を貫く企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	すぐ手放すべきだ	18.29	17.74	18.79
2	なるべく手放すべきだ	17.43	17.41	17.45
3	手放すことを検討する方がよい	19.58	17.72	21.30
4	特に感じることはない	44.71	47.14	42.47
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	12.80	14.48	15.46	20.42	20.33	22.87
2	20.83	18.21	17.00	17.78	16.87	15.67
3	19.94	18.21	19.64	17.45	19.88	21.39
4	46.43	49.11	47.90	44.35	42.92	40.07
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

5. サービス残業が日常化し労働災害も時々生じているブラック企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	すぐ手放すべきだ	18.51	16.93	19.96
2	なるべく手放すべきだ	17.18	17.70	16.70
3	手放すことを検討する方がよい	20.62	18.85	22.25
4	特に感じることはない	43.69	46.52	41.09
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	16.52	15.97	15.66	19.08	19.36	22.37
2	19.20	16.90	16.08	18.13	17.38	16.40
3	18.45	19.63	21.04	19.01	22.27	21.87
4	45.83	47.50	47.22	43.77	41.00	39.36
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

6. 取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件があっても、自社とは関係がないとして平然としている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	すぐ手放すべきだ	16.82	16.04	17.53
2	なるべく手放すべきだ	17.30	17.28	17.31
3	手放すことを検討する方がよい	20.84	18.54	22.97
4	特に感じることはない	45.04	48.13	42.19
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	12.80	13.61	13.76	16.95	19.46	21.28
2	19.49	18.29	17.75	18.32	16.54	15.07
3	19.05	19.16	20.52	19.99	21.78	22.97
4	48.66	48.93	47.97	44.75	42.22	40.68
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

7. 発展途上国での取引で、役人にわいろを贈って有利な条件を得ている企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	すぐ手放すべきだ	16.12	14.54	17.58
2	なるべく手放すべきだ	17.80	17.75	17.85
3	手放すことを検討する方がよい	20.68	19.17	22.07
4	特に感じることはない	45.40	48.54	42.50
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	13.84	12.63	13.88	16.03	17.04	20.69
2	19.05	18.64	16.74	18.71	18.63	16.20
3	18.75	19.30	20.29	19.21	21.57	23.16
4	48.36	49.43	49.09	46.04	42.76	39.95
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

8. 環境保全や労働条件の改善、社会貢献に対する取組み、経営の体制や方針などの開示に後ろ向きの企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	すぐ手放すべきだ	12.93	11.64	14.13
2	なるべく手放すべきだ	19.76	19.87	19.66
3	手放すことを検討する方がよい	21.76	20.25	23.16
4	特に感じることはない	45.55	48.25	43.05
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	9.67	9.59	10.41	12.69	15.26	17.17
2	22.32	18.40	19.00	20.49	20.24	19.07
3	19.35	21.93	21.73	20.52	21.67	23.80
4	48.66	50.08	48.86	46.29	42.84	39.97
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

9. 社外取締役は置かないか、置いても形だけの企業

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	すぐ手放すべきだ	11.25	9.92	12.48
2	なるべく手放すべきだ	18.88	18.69	19.05
3	手放すことを検討する方がよい	21.84	20.40	23.16
4	特に感じることはない	48.03	50.99	45.30
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	9.23	7.62	8.42	13.09	11.83	15.24
2	19.35	17.93	17.69	17.03	21.53	19.36
3	21.58	21.95	21.93	20.32	21.89	22.77
4	49.85	52.50	51.96	49.56	44.75	42.64
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 15 これまでお答えいただいたような、様々な環境(Environment)や社会(Social)に関わる問題、企業の統治(Governance)を考慮して投資を行うことを、それぞれの英語の頭文字をとって、ESG 投資と呼びます。以前は、社会的責任投資(英語の頭文字をとって「SRI」と呼ばれていました。また、これら ESG の各事項などに取り組む企業の責任を、企業の社会的責任(英語の頭文字をとって「CSR」)と呼びます。企業の統治はコーポレート・ガバナンスともいいます。あなたは、これらの意味を、どの程度知っていましたか。

【項目ごとに「1. よく知っていた」、「2. まあ知っていた」、「3. 言葉だけは聞いたことがあった」、「4. 知らなかった」の中から単一回答】

1. ESG 投資

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っていた	0.83	1.12	0.56
2	まあ知っていた	4.23	6.35	2.27
3	聞いたことはあった	9.27	10.29	8.33
4	知らなかった	85.67	82.23	88.84
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	2.08	1.43	0.85	0.57	0.11	0.48
2	5.65	4.28	5.34	3.12	3.49	3.87
3	11.31	9.18	8.18	9.44	8.69	9.47
4	80.95	85.11	85.63	86.87	87.72	86.18
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

2. 社会的責任投資(SRI)

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っていた	1.83	2.51	1.19
2	まあ知っていた	7.17	10.56	4.05
3	聞いたことはあった	13.48	15.23	11.87
4	知らなかった	77.51	71.69	82.89
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	3.13	2.63	1.10	2.05	1.65	1.18
2	8.78	7.48	9.14	6.77	5.04	6.51
3	12.65	11.61	11.06	15.14	13.30	16.08
4	75.45	78.28	78.70	76.04	80.01	76.23
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

3. 企業の社会的責任(CSR)

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っていた	5.18	8.25	2.36
2	まあ知っていた	11.13	15.76	6.87
3	聞いたことはあった	17.72	18.79	16.73
4	知らなかった	65.96	57.21	74.04
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	6.10	4.84	4.32	6.28	6.10	4.18
2	11.76	11.89	12.33	12.06	8.26	10.98
3	19.49	15.29	14.52	17.89	17.83	20.66
4	62.65	67.98	68.83	63.76	67.81	64.17
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

4. コーポレート・ガバナンス

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っていた	5.74	9.47	2.29
2	まあ知っていた	14.04	20.98	7.63
3	聞いたことはあった	22.69	23.07	22.34
4	知らなかった	57.53	46.48	67.74
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	5.80	4.08	5.75	6.94	6.43	5.47
2	11.90	13.00	14.12	14.29	14.86	14.96
3	25.30	19.59	19.87	21.38	24.23	25.24
4	56.99	63.32	60.26	57.38	54.48	54.34
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問16 環境や社会に関わる問題などに取り組む企業の社会的責任(CSR)についておたずねします。次のうち、あなたのお考えに沿うものをすべて選んでください。【複数回答】

1. CSRは企業経営が適切に行われるための基本であり、企業は率先して取り組むべきだ。
2. CSRに積極的に取り組んでいる企業には好感が持てる。
3. 多くの企業がCSRに取り組めば、経済全体の発展や成長にもつながる。
4. 企業は利益を追求することが目的なので、CSRは法令や規制の範囲でやればよい。
5. CSRは企業のイメージアップ活動に過ぎないので、特に評価する必要はない。
6. CSRに取り組む余裕があるなら、製品やサービスの価格を下げてほしい。

7. その他（ ）
8. CSR についてはよくわからない。

	全体	男性	女性
	%	%	%
1	26.16%	30.32	22.32
2	29.56%	31.09	28.15
3	23.26%	23.54	23.00
4	5.31%	6.44	4.26
5	4.04%	4.93	3.21
6	2.87%	3.33	2.46
7	0.13%	0.19	0.07
8	53.89%	49.29	58.13

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	15.92	18.29	19.61	23.89	31.86	38.83
2	18.30	23.38	24.70	29.64	35.24	38.85
3	14.88	17.70	18.75	21.31	26.71	33.39
4	5.95	7.31	5.00	4.84	6.52	3.28
5	4.02	5.80	4.59	3.80	4.00	2.64
6	2.08	4.21	2.65	3.08	3.10	2.28
7	0.00	0.10	0.28	0.00	0.00	0.26
8	65.18	58.17	58.10	51.41	49.53	46.88
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

なお、7.その他には5人が、「特に、社会への利益還元に取り組む企業で有って欲しい」、「CSRを掲げながら法令の網目をうまく利用しているNTTグループのような大企業をきちんと行政指導実行させてほしい」、「大企業と中小で違う」、「興味がない」、「企業の評価対象とはしないが今の社会では大切な活動なので行うべき」と回答した。

問 17 あなたは、あなたや家族が払った公的年金の保険料の一部が積み立てられ、株式や債券などに投資されて運用されることをどの程度知っていますか。【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っている	12.95	18.24	8.07
2	まあ知っている	26.61	29.49	23.95
3	聞いたことはある	23.06	20.61	25.33
4	知らない	37.38	31.67	42.65
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	7.44	7.63	9.38	11.07	16.37	20.68
2	15.33	18.63	23.34	28.76	31.53	35.08
3	17.86	21.47	21.10	26.64	25.26	24.32
4	59.38	52.27	46.17	33.53	26.84	19.92
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 18 労働組合の連合(※)は、社会的責任に配慮した企業行動および金融取引をうながし、公正かつ持続可能な社会形成に貢献するため、2010 年 12 月に「ワーカーズキャピタル責任投資ガイドライン」を策定しています(2015 年 9 月改訂)。労働者が拠出した、ないしは労働者のために拠出された年金基金については、労働者(労働組合)はその所有者として、社会や環境に悪影響を及ぼす企業行動に加担する投資を排除し、公正な市場を確立する社会的責任を認識する必要があるという考え方です。あなたは、この考えや取組みをどのように思いますか。【単一回答】

※ 「連合」は、「日本労働組合総連合会」の略称です。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	とてもよい	9.65	10.51	8.86
2	まあよい	30.83	32.74	29.07
3	あまりよくない	7.79	9.56	6.16
4	まったくよくない	2.18	2.75	1.65
5	その他	0.13	0.03	0.22
6	わからない	49.41	44.40	54.04
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	5.51	5.94	7.12	7.78	9.73	17.36
2	23.07	26.78	29.79	33.79	33.68	34.24
3	8.33	8.69	7.02	7.99	10.78	5.13
4	2.83	3.00	2.10	2.47	1.58	1.64
5	0.15	0.00	0.28	0.00	0.00	0.26
6	60.12	55.59	53.69	47.97	44.23	41.39
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

なお、5.その他には6人が、「責任逃れはしようと思えばどうにでもやるだろうし、普段は社会的責任なんて言ってもいざとなれば魔が差したなどいうものだから仕組みを作っても仕方ないと思っている」、「労働組合自体が信用が出来ない」、「仕方ないと思う」、「連合そのものがおかしい組織」、「もはや労働組合の存在意義はない」、「あまりよく理解できない」と回答した。

問 19 2014 年 2 月に金融庁の有識者会議から、機関投資家に投資先企業との建設的な対話などを促す「スチュワードシップ・コード」が公表されました。また、ESG のうちの”G”（※）に関し、2015 年 3 月に金融庁の有識者会議から、「コーポレート・ガバナンス・コード」原案が公表され、同年 6 月に適用が開始されました。2017 年 1 月には、環境省の ESG 検討会から、特に”E”（※）の観点を踏まえた ESG 投資に関する基礎的な理解の向上に資することを目指した報告書が公表されました。あなたは、これらの内容を、どの程度知っていますか。

【項目ごとに「1. よく知っている」、「2. まあ知っている」、「4. 聞いたことはある」、「4. 知らない」の中から単一回答】

※ “G”は企業の統治(Governance)、“E”は環境(Environment)の頭文字です。

1. スチュワードシップ・コード

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っている	1.11	1.38	0.85
2	まあ知っている	3.14	4.63	1.77
3	聞いたことはある	7.42	9.67	5.34
4	知らない	88.33	84.31	92.04
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	2.38	1.63	1.20	0.86	1.01	0.26
2	5.80	4.86	3.62	2.52	1.57	1.86
3	6.85	7.86	6.46	6.97	6.03	9.51
4	84.97	85.65	88.72	89.65	91.39	88.37
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

2. コーポレート・ガバナンス・コード

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っている	1.62	2.35	0.94
2	まあ知っている	6.31	9.14	3.70
3	聞いたことはある	16.36	18.86	14.06
4	知らない	75.71	69.64	81.31
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	3.27	2.05	0.99	2.24	1.31	0.79
2	6.99	6.44	6.00	5.85	6.06	6.60
3	10.71	12.38	14.68	14.98	15.19	24.99
4	79.02	79.13	78.33	76.93	77.45	67.62
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

3. 環境省の ESG 検討会報告書

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	よく知っている	0.72	0.88	0.57
2	まあ知っている	3.62	4.93	2.41
3	聞いたことはある	9.96	12.40	7.71
4	知らない	85.70	81.78	89.32
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	1.93	1.24	0.65	0.49	0.30	0.26
2	4.76	4.69	3.59	3.17	3.44	2.79
3	8.33	8.46	9.48	8.41	8.37	14.38
4	84.97	85.61	86.28	87.93	87.89	82.57
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 20 2014 年 2 月に金融庁の有識者会議から公表された「スチュワードシップ・コード」では、機関投資家に投資先企業との建設的な「目的を持った対話」を行うよう促しています。これによる当該企業の企業価値の向上や持続的成長を通じて、中長期的な投資成果の拡大を企図します。このコードは、公的年金の運用主体や大半の運用会社が受入れを表明しています。あなたは、この考えや取組みをどのように思いますか。【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	とてもよい	6.34	7.69	5.10
2	まあよい	28.12	31.35	25.15
3	あまりよくない	6.84	7.87	5.89
4	まったくよくない	2.21	2.51	1.93
5	その他	0.07	0.00	0.13
6	わからない	56.42	50.59	61.80
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	4.02	4.41	4.30	5.29	7.33	10.33
2	24.40	23.74	27.71	29.18	27.14	33.31
3	7.74	8.20	5.75	7.04	8.49	4.94
4	2.53	2.67	2.52	2.25	1.55	1.96
5	0.00	0.00	0.09	0.00	0.00	0.22
6	61.31	60.98	59.63	56.24	55.49	49.24
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

なお、5.その他には2人が「意味がない」、「意味が分からない」と回答した。

問 21 公的年金の財政は、保険料を納める国民の労働参加が進めば長期的に持続性が維持されますが、そうでなければいずれ困難になることが示されています（※）。このことから、公的年金の資金運用においては、女性の労働参加や高齢者雇用、非正規雇用の正規化など、労働参加促進に重点を置いた ESG 投資を進めるべきであるという考え方があります。あなたは、この考えをどのように思いますか。【単一回答】

※ 厚生労働省「国民年金及び厚生年金に係る財政の現況及び見通し（平成 26 年財政検証結果）」によります。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	とてもよい	9.23	9.57	8.92
2	まあよい	30.27	30.81	29.77
3	あまりよくない	8.98	10.26	7.79
4	まったくよくない	2.64	3.02	2.30
5	その他	0.15	0.14	0.15
6	わからない	48.73	46.20	51.06
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	6.25	6.45	6.80	7.14	10.68	14.73
2	22.92	24.65	27.50	30.48	32.79	37.87
3	9.52	10.18	9.39	8.94	9.95	6.87
4	3.42	2.47	3.31	1.97	2.69	2.23
5	0.15	0.10	0.37	0.25	0.00	0.04
6	57.74	56.14	52.63	51.23	43.88	38.25
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

なお、5.その他には9人が「年金の財源を変えるほうが効率的。年金にかかる職員数も減らすべき」、「内容による」、「運用をメインであるならば運用益をメインに投資すべきだ」、「第三号被保険者問題を放置している以上口だけ」、「女性は要らない」、「定年退職という

概念をなくすべき」、「難しい」、「困難と言う言葉を使いであらめな事をするな」、「どちらでもない」と回答した。

問 22 国連事務総長の呼びかけにより 2006 年に取りまとめられた自主的投資原則（国連 PRI）では、投資のプロセスに環境や社会、企業の統治といった ESG の課題を組み込むこと、活動的な株式所有者となって所有方針等に ESG 問題を組み入れることなどを宣言しています。世界の多くの機関投資家が署名しており、日本の公的年金積立金の運用を行う GPIF（※）も 2015 年 9 月にこれに署名しました。あなたは、この考えや取り組みをどのように思いますか。【単一回答】

※ 「GPIF」は、「年金積立金管理運用独立行政法人」の略称です。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	とてもよい	6.13	7.24	5.10
2	まあよい	27.69	29.62	25.91
3	あまりよくない	9.18	10.34	8.12
4	まったくよくない	2.39	3.11	1.72
5	その他	0.12	0.03	0.21
6	わからない	54.49	49.66	58.94
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	4.76	4.43	5.18	5.39	5.34	9.76
2	21.13	21.88	25.21	28.10	28.25	36.14
3	10.57	9.39	8.56	8.91	12.62	6.38
4	1.93	2.49	2.97	1.28	2.11	3.03
5	0.00	0.00	0.28	0.09	0.34	0.00
6	61.61	61.82	57.81	56.22	51.33	44.69
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

なお、5.その他には 5 人が「基準が不明」、「イメージだけで意味が無い」、「実現できること、できたことを聞いてから参考にする」、「難しい課題」、「どちらでもない」と回答した。

問 23 あなたや家族が払った保険料の一部も含まれる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、おうかがいします。あなたは、次のような意見や考えをどう思いますか。

【項目ごとに、「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」、「3. どちらかといえばそう思わない」、「4. そう思わない」、「5. わからない」の中から単一回答】

1. 自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取組みを支援するよう投資してほしい。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	6.46	7.41	5.58
2	どちらかといえばそう思う	28.38	28.84	27.95
3	どちらかといえばそう思わない	12.63	14.71	10.72
4	そう思わない	7.74	8.57	6.97
5	わからない	44.79	40.46	48.78
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	5.80	3.94	6.13	5.53	7.00	8.92
2	21.13	21.78	26.65	28.44	32.26	34.81
3	15.03	14.89	10.58	12.29	11.30	12.72
4	8.04	7.27	6.76	8.37	8.36	7.77
5	50.00	52.12	49.88	45.37	41.08	35.77
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

2. 自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業には投資しないようにしてほしい。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	12.27	11.87	12.64
2	どちらかといえばそう思う	27.25	28.28	26.31
3	どちらかといえばそう思わない	10.89	13.41	8.56
4	そう思わない	6.71	7.61	5.88
5	わからない	42.88	38.84	46.62
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	9.67	7.68	9.69	11.51	14.11	17.70
2	19.94	21.97	25.03	28.67	31.82	31.85
3	13.84	13.01	11.15	10.97	8.48	9.53
4	6.99	6.90	5.59	5.79	7.52	7.28
5	49.55	50.43	48.53	43.06	38.07	33.64
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

3. 年金のような長期資金では、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなど

を考慮して投資先を選択することは合理的だ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	6.96	8.29	5.73
2	どちらかといえばそう思う	27.12	28.34	26.00
3	どちらかといえばそう思わない	13.57	14.95	12.30
4	そう思わない	6.51	7.43	5.66
5	わからない	45.84	40.99	50.30
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	5.65	3.77	5.19	5.83	8.06	10.98
2	21.28	20.62	24.30	27.65	29.76	34.26
3	14.73	15.68	12.44	12.83	12.62	13.67
4	6.25	6.85	6.14	6.33	7.60	5.99
5	52.08	53.08	51.94	47.37	41.95	35.10
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

4. 年金の積立金は将来の年金の支払いだけを考えて運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、これに関係がないので、慎重であるべきだ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	7.50	6.94	8.02
2	どちらかといえばそう思う	20.30	20.28	20.32
3	どちらかといえばそう思わない	18.54	21.50	15.81
4	そう思わない	9.73	11.50	8.11
5	わからない	43.92	39.78	47.74
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	4.91	5.98	6.05	6.47	8.62	10.79
2	16.22	16.56	18.86	22.15	22.04	23.47
3	19.05	18.03	16.11	18.25	18.80	20.48
4	8.04	7.14	8.92	8.57	12.04	11.95
5	51.79	52.29	50.06	44.57	38.50	33.31
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

5. 環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮して投資先を選定しても、運用成績に結びつかない。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	4.39	4.97	3.85
2	どちらかといえばそう思う	19.48	19.83	19.17
3	どちらかといえばそう思わない	18.24	21.21	15.50
4	そう思わない	8.25	9.99	6.65
5	わからない	49.64	44.01	54.83
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	4.02	3.92	3.83	5.77	4.91	4.02
2	14.43	14.79	17.55	20.00	21.00	25.19
3	19.94	17.45	16.11	16.62	20.54	18.81
4	6.10	7.36	7.13	7.50	9.63	10.26
5	55.51	56.48	55.37	50.11	43.92	41.72
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

6. 公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではない。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	9.89	10.14	9.67
2	どちらかといえばそう思う	22.54	22.08	22.96
3	どちらかといえばそう思わない	16.25	18.81	13.88
4	そう思わない	8.14	9.92	6.50
5	わからない	43.18	39.04	47.00
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	7.89	7.07	8.58	11.61	11.54	11.44
2	16.96	17.86	19.84	21.39	27.83	27.30
3	17.71	17.29	15.14	17.28	15.13	15.83
4	8.48	6.80	7.75	6.27	8.34	10.22
5	48.96	50.98	48.69	43.45	37.15	35.22
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 24 あなたは、あなたや家族が払った保険料の一部が積み立てられ、将来受け取る年金の財源になる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	してほしい	4.62	6.06	3.28
2	どちらかといえばしてほしい	26.88	30.84	23.24
3	どちらかといえばしてほしくない	15.60	13.73	17.32
4	してほしくない	8.46	8.36	8.54
5	わからない	44.44	41.00	47.61
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	3.87	4.50	4.06	4.14	3.89	6.38
2	21.58	20.79	23.89	27.50	30.32	32.93
3	15.77	13.41	14.66	13.25	21.84	14.46
4	5.80	7.58	7.71	8.51	11.17	8.88
5	52.98	53.73	49.67	46.59	32.77	37.35
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 25 企業の中には独自で企業年金を実施するところがあります。企業年金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、次のような意見や考えをどう思いますか。企業年金へのご加入の有無にかかわらず、一般的なお考えとしてお答えください。

【項目ごとに、「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」、「3. どちらかといえばそう思わない」、「4. そう思わない」、「5. わからない」の中から単一回答】

1. 企業年金の資金運用でも環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取組みを支援すべきだ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	4.90	6.42	3.50
2	どちらかといえばそう思う	28.65	30.91	26.56
3	どちらかといえばそう思わない	12.73	13.48	12.05
4	そう思わない	7.14	8.28	6.08
5	わからない	46.58	40.91	51.81
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	6.25	3.97	4.66	4.60	3.70	6.09
2	19.79	21.93	25.05	28.43	33.60	36.82
3	16.22	13.06	10.24	13.29	13.27	11.87
4	6.40	8.01	7.85	6.67	6.27	7.36
5	51.34	53.04	52.21	47.00	43.16	37.85
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

2. 企業年金の資金が環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業に投資されないようにすべきだ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	8.58	9.30	7.92
2	どちらかといえばそう思う	28.26	28.49	28.05
3	どちらかといえばそう思わない	12.23	14.31	10.31
4	そう思わない	5.38	6.88	3.99
5	わからない	45.55	41.02	49.73
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	7.44	6.69	7.31	7.97	8.36	11.97
2	19.49	21.59	24.07	28.92	34.48	35.26
3	15.48	12.62	11.59	11.50	12.02	11.40
4	7.14	6.43	6.08	4.99	4.49	4.16
5	50.45	52.67	50.95	46.62	40.65	37.21
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

3. 企業年金の資金は、主に企業が支出するものなので、その企業の社会的責任（CSR）に関する方針に沿った運用をすべきだ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	5.55	6.16	4.99
2	どちらかといえばそう思う	30.47	30.54	30.42
3	どちらかといえばそう思わない	12.91	15.75	10.29
4	そう思わない	4.83	6.32	3.45
5	わからない	46.24	41.24	50.85
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	6.40	4.80	4.33	7.26	6.10	5.03
2	22.17	22.79	25.80	31.16	33.99	40.31
3	13.39	13.58	12.16	10.39	15.08	12.78
4	6.99	6.02	4.10	4.79	3.44	4.56
5	51.04	52.81	53.60	46.39	41.39	37.32
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

4. 企業年金の資金は将来の年金の支払いだけを考えて運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、労使から明確な意思表示がない限り、慎重であるべきだ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	6.94	6.98	6.90
2	どちらかといえばそう思う	24.08	22.99	25.09
3	どちらかといえばそう思わない	17.17	20.60	14.00
4	そう思わない	6.34	8.28	4.54
5	わからない	45.47	41.15	49.47
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	5.06	6.58	5.26	7.35	7.32	8.88
2	17.41	19.87	20.23	23.72	29.43	29.46
3	18.30	15.76	15.07	16.37	16.31	20.30
4	7.44	5.61	7.62	5.43	6.63	5.62
5	51.79	52.18	51.82	47.14	40.32	35.74
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

5. 企業年金の資金は、企業の労働者の老後の生活に充てられる資金なので、運用のし方も労働者の意見をよく聞いて決めるべきだ。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	10.96	10.28	11.59
2	どちらかといえばそう思う	29.74	29.45	30.00
3	どちらかといえばそう思わない	12.04	15.40	8.95
4	そう思わない	4.18	5.26	3.18
5	わからない	43.08	39.61	46.28
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	9.08	10.30	8.93	10.43	12.09	13.43
2	21.88	21.31	25.46	30.66	33.49	39.19
3	14.14	12.88	12.25	11.63	11.18	11.16
4	5.36	4.67	4.41	3.82	4.44	3.09
5	49.55	50.85	48.93	43.46	38.80	33.12
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

6. 企業年金の資金は民間の資金なので、政府が運用に口出しすべきではない。

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	そう思う	11.13	12.23	10.10
2	どちらかといえばそう思う	24.61	24.37	24.83
3	どちらかといえばそう思わない	14.81	17.61	12.23
4	そう思わない	6.39	7.82	5.08
5	わからない	43.06	37.97	47.75
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	7.14	9.37	7.87	11.66	11.63	16.14
2	18.15	18.00	21.00	24.43	33.34	28.55
3	19.05	16.82	14.88	14.69	11.70	13.70
4	6.55	4.95	6.54	6.23	6.76	6.97
5	49.11	50.87	49.71	42.99	36.57	34.64
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 26 あなたは、企業が実施する企業年金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。企業年金に加入されていない方も、企業年金への希望としてお答えください。【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	してほしい	4.47	6.19	2.88
2	どちらかといえばしてほしい	28.59	31.74	25.68
3	どちらかといえばしてほしくない	12.73	12.43	13.00
4	してほしくない	6.51	6.58	6.45
5	わからない	47.70	43.05	52.00
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	4.17	3.06	3.75	4.48	4.54	6.05
2	21.88	21.92	26.22	27.09	31.92	36.72
3	13.54	11.16	11.28	12.72	16.29	11.74
4	5.51	7.26	6.25	6.42	7.09	6.37
5	54.91	56.60	52.51	49.29	40.17	39.12
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 27 企業年金の中には、加入者が運用の指図をするタイプの年金（確定拠出年金といいます）があります。また、個人で任意で加入できる個人型確定拠出年金（iDeCo）もあります。あなたは、これらを通じて、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。現在これらに加入していない方も、仮にご自分が運用の指図をする立場になった場合を想像してお答えください。【単一回答】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	積極的にしたい	4.83	6.90	2.92
2	少しはしたい	26.54	27.98	25.22
3	あまりしたくない	15.79	17.00	14.68
4	したくない	6.78	6.73	6.82
5	わからない	46.06	41.40	50.36
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	5.06	4.22	3.63	4.04	5.16	6.28
2	18.75	22.22	25.03	25.66	29.12	33.21
3	15.48	15.08	13.79	16.21	20.76	13.93
4	5.65	7.60	6.54	7.33	6.33	6.97
5	55.06	50.88	51.01	46.75	38.62	39.61
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

問 28 最後の質問です。あなたは、公的年金、企業年金をあわせた日本の年金資金による ESG 投資（環境や社会、コーポレート・ガバナンスを考慮した投資）について、これからどのようにしていくべきだと思いますか。また、よろしければ、その理由を簡潔にお書きください。【単一回答、理由は自由記載】

		全体	男性	女性
		%	%	%
1	着実に充実していくべきだ	7.99	9.91	6.22
2	徐々に取り組んでいくべきだ	20.41	23.75	17.34
3	否定はしないが、控えめでよい	18.18	18.12	18.23
4	必要ない	5.80	6.43	5.21
5	その他	0.19	0.25	0.13
6	わからない	47.43	41.54	52.86
合計		100.00	100.00	100.00

	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	70歳以上
1	6.10	5.10	6.44	6.78	6.55	13.13
2	16.52	17.34	17.44	21.10	24.66	22.47
3	16.67	15.91	16.11	17.08	19.31	21.57
4	4.32	5.81	6.26	6.71	6.99	4.97
5	0.15	0.28	0.09	0.24	0.11	0.26
6	56.25	55.56	53.66	48.09	42.39	37.59
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

理由 (第6章第5節参照)

第5章 前回調査との比較

以下では前回調査との比較が可能なものに限って、調査項目ごとに、回答の集計結果を示す。

1 年齢10歳階級別、性別回答者数

	人数		%	
	前回	今回	前回	今回
《全体》				
20-29	993	672	21.23	19.99
30-39	1306	848	27.92	25.23
40-49	1224	1000	26.17	29.75
50-59	1155	841	24.69	25.02
合計	4678	3361	100.00	100.00
《うち男性》				
20-29	510	342	21.52	20.19
30-39	668	429	28.19	25.32
40-49	619	504	26.12	29.75
50-59	573	419	24.18	24.73
合計	2,370	1,694	100.00	100.00
《うち女性》				
20-29	483	330	20.93	19.80
30-39	638	419	27.64	25.13
40-49	605	496	26.21	29.75
50-59	582	422	25.22	25.31
合計	2,308	1,667	100.00	100.00

2 前回調査と質問内容が重複する項目についての集計結果の比較

問2 あなたのご職業をおたずねします。次の中から最も当てはまるものを1つ選んでください。【単一回答】

《前回調査では問18、質問内容は同じ》

【職業】		前回	今回
		%	%
1	自営業・自由業・家族従業員	11.48	8.03
2	会社・団体の経営者または役員	3.61	3.87
3	正社員	51.15	36.83
4	公務員	6.37	4.46
5	契約社員・派遣社員・嘱託	6.43	6.87
6	パート・アルバイト	7.97	15.08
7	学生	0.13	2.77
8	無職	12.85	22.08
合計		100.00	100.00

問 4 お子様はいらっしゃいますか。【単一回答】

《前回調査では問 17、質問内容は同じ》

【子どもの有無】		前回	今回
		%	%
1	いる	48.70	41.09
2	いない	51.30	58.91
合計		100.00	100.00

問 5 あなたの公的年金の加入や受給の状況についておたずねします。次のうち、あなたがあてはまるものをすべてお答えください。

【複数回答】

1. 国民年金に加入している（国民年金保険料を支払っているか、手続きをして国民年金保険料を免除または猶予してもらっている）
2. 厚生年金に加入している（会社や官庁にお勤めの方で、給与明細で厚生年金保険料が引かれている）
3. 厚生年金に加入する配偶者の被扶養者（第3号被保険者）である
4. 年金には加入しておらず、受給もしていない
5. 基礎年金を受給している
6. 厚生年金を受給している
7. 共済年金を受給している

《前回調査では予備調査問 3 日本では 20 歳以上の方は年金制度に加入することになっています。あなたは次のどれに当てはまりますか。（単一回答）

1. 国民年金に加入（国民年金保険料を支払っているか、手続きをして国民年金保険料を免除してもらっている）

2. 厚生年金に加入（会社にお勤めの方で、給与明細で厚生年金保険料が引かれている）
3. 共済年金に加入（公務員の方などで、給与明細で共済組合掛金が引かれている）
4. 厚生年金か共済年金に加入する配偶者の被扶養者（第3号被保険者）
5. わからない》

【公的年金加入】	前回	今回
	%	%
国民年金に加入	31.02	34.39
厚生年金に加入	55.84	47.01
第3号被保険者	13.15	12.50
未加入・未受給	0.00	3.72
その他(受給等)	0.00	2.38
合計	100.00	100.00

問6 企業によっては、従業員のために独自で企業年金を実施するところがあります。また、個人で任意で加入できるものとして、個人型確定拠出年金（iDeCo（イデコ））や国民年金基金があります。次のうち、あなたがあてはまるものをすべてお答えください。

【複数回答、ただし、「9.」は他との重複禁止】

1. 確定拠出型の企業年金（あなたが運用の指図をするタイプの企業年金）に加入している
2. それ以外の企業年金（厚生年金基金、確定給付企業年金など）に加入している
3. 個人型確定拠出年金（iDeCo）に加入している
4. 国民年金基金に加入している
5. 上記1～4.のどれかから年金を受給している
6. 上記1～4.のどれかから一時金を受給した
7. 上記1～4.のどれかから年金を受給していたが、今は受給していない
8. 上記1～4.のどれかに加入したことがあるが、受給したことはない。
9. 上記1～4.のどれにも加入したことはない

《前回調査では予備調査問4 「会社によっては、独自の企業年金を実施するところがあります。あなたは、お勤めの会社で、企業年金に加入しておられますか。加入しておられる場合はどのタイプの企業年金でしょうか。当てはまるものをお選びください。（1.と2.の両方当てはまることがあるため、複数回答、ただし、「3.」または「4.」は他との重複禁止）

1. 確定拠出年金型の企業年金（あなたが運用の指図をするタイプの企業年金）に加入している。
2. それ以外の企業年金（厚生年金基金、確定給付企業年金、適格退職年金など）に加入している。
3. 企業年金には加入していない。

4. わからない」》

【企業等年金加入】	前回	今回
	%	%
確定拠出型の企業年金に加入	4.90	12.47
それ以外の企業年金(DB)に加入	17.51	13.72
iDeCo、国民年金基金に加入	0.00	13.09
非加入	25.22	53.23
その他(わからない、受給等)	52.37	7.50
合計	100.00	100.00

問 7 あなたの昨年の年収（税込）はいくらでしたか。【単一回答】

《前回調査では問 16、質問内容は同じ》

【昨年の年収】		前回	今回
		%	%
1	200万円未満	22.04	43.71
2	200万円以上～400万円未満	29.59	23.98
3	400万円以上～600万円未満	22.06	15.17
4	600万円以上～800万円未満	11.91	9.46
5	800万円以上～1,000万円未満	5.39	4.14
6	1,000万円以上～1,500万円未満	2.99	1.96
7	1,500万円以上	0.81	1.58
8	わからない	5.22	0.00
合計		100.00	100.00

問 10 あなたはこれまで次のような投資をした経験がありますか。あてはまるものをすべて選んでください。【複数回答、ただし、「7.」は他との重複禁止】

1. 個々の企業の株式
2. 株式に投資する投資信託（株式投資信託又は ETF）
3. 個々の企業の社債
4. 国債又は地方債（個人向けを含みます）
5. 国債、地方債又は社債に投資する投資信託（公社債投資信託）
6. 外国の国債又は国際機関が発行する債券
7. 上記のどれも経験がない

《前回調査では問 2 、質問本文は同じだが、回答肢は次の通り

1. 株式の購入
2. 社債の購入

3. 環境問題に積極的に取り組んでいる企業等を選択して投資する投資信託（エコファンド、温暖化対策関連ファンド、水資源関連ファンドなど）
4. 企業の社会的責任を積極的に推進している企業等を選択して投資する投資信託（グッドカンパニーファンド、社会的責任投資ファンドなど）
5. 女性、健康、雇用など特定の社会問題に積極的に取り組んでいる企業等を選択して投資する投資信託（健康応援ファンド、ウーマノミクス・ファンド、ファミリー・フレンドリー・ファンドなど）
6. 企業の経営体制の改革や経営情報の透明化などに積極的に取り組んでいる企業を選択して投資する投資信託（コーポレートガバナンスファンドなど）
7. 世界の環境対策を促進するために国際機関が発行する債券（グリーン債、エコロジー債、ウォーター債など）
8. 発展途上国の子供の医療や教育を促進するために国際機関が発行する債券（ワクチン債、教育債、子育て支援債など）
9. 上記以外の投資信託
10. 上記のどれも経験がない》

【投資経験】	前回	今回
	%	%
株式投資	33.45	19.73
債券投資	7.55	5.27
投資信託	18.53	14.01
経験なし	56.88	70.25

問 11 環境や社会に関わる問題、企業のあり方などについて、毎日のように、新聞やテレビなどで様々なニュースや解説が報じられています。あなたは、そういった問題についてどの程度関心を持っていますか。【単一回答】

《前回調査では問 1、質問内容は同じ》

【環境、社会、企業への関心】		前回	今回
		%	%
1	大いに関心がある	21.95	15.62
2	まあ関心がある	57.80	42.13
3	あまり関心はない	15.50	20.77
4	まったく関心がない	4.75	21.48
合計		100.00	100.00

問 12 いくつかの企業の製品（性能はほぼ同じ）の中から購入を検討する場面を想像してく

ださい。その中に次のような企業がある場合、あなたはその情報を製品選択の際にどの程度考慮すると思いますか。

【項目ごとに、「1. かなり高くてもその企業の製品を選ぶ」、「2. かなりでなく、少し高いだけならその企業の製品を選ぶ」、「3. 値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ」、「4. この情報は製品選択では考慮しない」の中から単一回答】

《前回調査では問3 「環境や社会問題への対応に熱心に取り組む企業の製品を優先して購入することは、その企業を支援することにつながります。いくつかの企業の製品（性能はほぼ同じ）の中から購入を検討する場面を想像してください。その中の1社が次のような企業であるという情報を得ていたとすると、あなたはそれを商品選択の際にどの程度考慮すると思いますか。項目ごとに、あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。》

1. 大気中への二酸化炭素の排出を極力抑制するよう努力をしている企業

《前回調査は「大気中への二酸化炭素の排出を抑制する努力をしている企業」》

		前回	今回
		%	%
1	かなり高くても選ぶ	2.39	3.27
2	少し高いだけなら選ぶ	22.04	20.77
3	値段が変わらなければ選ぶ	52.78	41.12
4	考慮しない	22.79	34.84
合計		100.00	100.00

2. 産業廃棄物の排出を極力減らすよう努力をしている企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	かなり高くても選ぶ	2.54	2.74
2	少し高いだけなら選ぶ	23.09	20.68
3	値段が変わらなければ選ぶ	53.21	42.40
4	考慮しない	21.16	34.19
合計		100.00	100.00

3. 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	かなり高くても選ぶ	2.95	3.33
2	少し高いだけなら選ぶ	26.64	21.18
3	値段が変わらなければ選ぶ	51.92	42.76
4	考慮しない	18.49	32.73
合計		100.00	100.00

4. 使う側の利便を考えた製品開発に努力し、苦情に対しては消費者の立場に立った対応をする企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	かなり高くても選ぶ	6.2	4.61
2	少し高いだけなら選ぶ	33.95	26.51
3	値段が変わらなければ選ぶ	43.2	38.86
4	考慮しない	16.65	30.02
合計		100.00	100.00

5. 残業を極力減らし、育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業

《前回調査は「育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業」》

		前回	今回
		%	%
1	かなり高くても選ぶ	3.25	3.60
2	少し高いだけなら選ぶ	16.16	19.79
3	値段が変わらなければ選ぶ	43.29	37.55
4	考慮しない	37.30	39.07
合計		100.00	100.00

6. 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業

《前回調査に同じ》

		男性	女性
		%	%
1	かなり高くても選ぶ	3.81	3.42
2	少し高いだけなら選ぶ	20.54	20.05
3	値段が変わらなければ選ぶ	47.16	39.33
4	考慮しない	28.50	37.19
合計		100.00	100.00

7. 発展途上国での取引で、役人からわいろを要求されても毅然として応じない企業
《前回調査に同じ》

		男性	女性
		%	%
1	かなり高くても選ぶ	4.64	3.81
2	少し高いだけなら選ぶ	20.01	19.22
3	値段が変わらなければ選ぶ	44.36	37.76
4	考慮しない	31.00	39.21
合計		100.00	100.00

8. 環境保全や労働条件の改善、社会貢献への取組み、経営の体制や方針などについて、
きちんとした報告書を公表している企業

《前回調査は「環境保全や労働条件の改善、社会問題に対する取組み、経営の体制や方針などについて、報告書を公表している企業」》

		前回	今回
		%	%
1	かなり高くても選ぶ	3.36	3.51
2	少し高いだけなら選ぶ	21.08	20.92
3	値段が変わらなければ選ぶ	49.36	40.17
4	考慮しない	26.21	35.41
合計		100.00	100.00

9. 社会の公器としての役割を自覚し、社外取締役を重視する企業
《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	かなり高くても選ぶ	2.69	3.03
2	少し高いだけなら選ぶ	15.50	18.15
3	値段が変わらなければ選ぶ	45.25	37.91
4	考慮しない	36.55	40.91
合計		100.00	100.00

問 13 もし、あなたに十分なお金があるとする、次のような企業の株式や社債を買いたいと思いますか。

《前回調査では問 4 「環境や社会問題への対応に熱心に取り組む企業の株式や社債を購入することも、その企業を支援することにつながります。もし、あなたにお金があるとする、次のような企業の株式や社債を買いたいと思いますか。項目ごとに、あなたのお考えに最も近いものを 1 つ選んでください。》

【項目ごとに、「1. ぜひ買いたい」、「2. 買うことを検討したい」、「3. 買うかどうかわからないが考えてみたい」、「4. この情報があるからといって株式や社債の購入を考えることはない」の中から単一回答】

1. 大気中への二酸化炭素の排出を極力抑制するよう努力をしている企業

《前回調査は「大気中への二酸化炭素の排出を抑制する努力をしている企業」》

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	4.92	5.56
2	買うことを検討したい	19.77	20.20
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	33.88	31.39
4	購入を考えることはない	41.43	42.84
合計		100.00	100.00

2. 産業廃棄物の排出を極力減らすよう努力をしている企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	4.85	5.12
2	買うことを検討したい	20.46	20.56
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	34.05	31.81
4	購入を考えるとことはない	40.64	42.52
合計		100.00	100.00

3. 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	6.09	5.77
2	買うことを検討したい	21.83	21.99
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	33.37	30.79
4	購入を考えるとことはない	38.71	41.45
合計		100.00	100.00

4. 使う側の利便を考えた製品開発に努力し、苦情に対しては消費者の立場に立った対応をする企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	7.44	7.08
2	買うことを検討したい	21.78	21.51
3	買うかどうかわからないが考えてみたい	32.26	30.38
4	購入を考えるとことはない	38.52	41.03
合計		100.00	100.00

5. 残業を極力減らし、育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業

《前回調査は「育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業」》

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	4.32	5.62
2	買うことを検討したい	14.75	19.13
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	32.60	31.24
4	購入を考慮することはない	48.33	44.00
合計		100.00	100.00

6. 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	4.83	5.15
2	買うことを検討したい	17.10	19.01
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	33.11	32.01
4	購入を考慮することはない	44.96	43.83
合計		100.00	100.00

7. 発展途上国での取引で、役人からわいろを要求されても毅然として応じない企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	4.77	4.79
2	買うことを検討したい	15.41	17.97
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	33.18	31.48
4	購入を考慮することはない	46.64	45.76
合計		100.00	100.00

8. 環境保全や労働条件の改善、社会貢献への取組み、経営の体制や方針などについて、きちんとした報告書を公表している企業

《前回調査は「環境保全や労働条件の改善、社会問題に対する取組み、経営の体制や方針などについて、報告書を公表している企業」》

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	4.79	5.47
2	買うことを検討したい	18.77	21.24
3	買うかどうか分からないが考えてみたい	33.37	30.97
4	購入を考えるとしない	43.07	42.31
合計		100.00	100.00

9. 社会の公器としての役割を自覚し、社外取締役を重視する企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	ぜひ買いたい	3.87	3.90
2	買うことを検討したい	15.80	18.77
3	買うかどうか分からないが考えてみたい	32.39	31.09
4	購入を考えるとしない	47.95	46.24
合計		100.00	100.00

問 14 もし、あなたかあなたの親族もしくはあなたの親しい友人が、次のような企業の株式か社債を持っているとすると、どのように感じるとおもいますか。

《前回調査では問 5 「あなたかあなたの親族もしくはあなたの親しい友人が、次のような企業の株式か社債を持っているとすると、どのように感じるとおもいますか。項目ごとに、あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。》

【項目ごとに、「1. 損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ」、「2. 損益にもよるが、なるべく手放すべきだ」、「3. 手放すことを検討する方がよい」、「4. この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない」の中から単一回答】

1. 大気中への二酸化炭素の排出を抑制する努力をまったくしない企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	すぐ手放すべきだ	8.61	8.00
2	なるべく手放すべきだ	21.80	19.13
3	手放すことを検討する方がよい	23.69	22.11
4	特に感じることはない	45.90	50.76
合計		100.00	100.00

2. 産業廃棄物の不法投棄をしている企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	すぐ手放すべきだ	23.13	16.66
2	なるべく手放すべきだ	19.82	18.39
3	手放すことを検討する方がよい	18.64	18.95
4	特に感じることはない	38.41	46.00
合計		100.00	100.00

3. 製品の製造や製品自体がエネルギー多消費や使い捨てであるなど、環境への配慮が後回しになっている企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	すぐ手放すべきだ	10.28	9.07
2	なるべく手放すべきだ	23.77	20.89
3	手放すことを検討する方がよい	23.60	21.36
4	特に感じることはない	42.35	48.68
合計		100.00	100.00

4. 使う側のことをあまり考えないで製品開発し、苦情に対しては責任逃れの姿勢を貫く企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	すぐ手放すべきだ	21.78	15.86
2	なるべく手放すべきだ	20.16	18.66
3	手放すことを検討する方がよい	19.52	19.04
4	特に感じることはない	38.54	46.44
合計		100.00	100.00

5. サービス残業が日常化し労働災害も時々生じているブラック企業

《前回調査は「サービス残業が日常化し労働災害も時々生じている企業」》

		前回	今回
		%	%
1	すぐ手放すべきだ	15.73	16.75
2	なるべく手放すべきだ	22.12	17.79
3	手放すことを検討する方がよい	21.40	19.85
4	特に感じることはない	40.74	45.61
合計		100.00	100.00

6. 取引先（海外の取引先を含みます）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件があっても、自社とは関係がないとして平然としている企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	すぐ手放すべきだ	18.92	14.40
2	なるべく手放すべきだ	21.03	18.60
3	手放すことを検討する方がよい	20.82	20.08
4	特に感じることはない	39.23	46.92
合計		100.00	100.00

7. 発展途上国での取引で、役人にわいろを贈って有利な条件を得ている企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	すぐ手放すべきだ	18.62	14.10
2	なるべく手放すべきだ	20.27	18.45
3	手放すことを検討する方がよい	20.74	19.76
4	特に感じることはない	40.38	47.69
合計		100.00	100.00

8. 環境保全や労働条件の改善、社会貢献に対する取組み、経営の体制や方針などの開示に後ろ向きの企業

《前回調査は「環境保全や社会問題に対する取り組みの必要性について、認識がない企業」》

		前回	今回
		%	%
1	すぐ手放すべきだ	13.34	10.62
2	なるべく手放すべきだ	22.51	20.14
3	手放すことを検討する方がよい	23.02	21.27
4	特に感じることはない	41.13	47.96
合計		100.00	100.00

9. 社外取締役は置かないか、置いても形だけの企業

《前回調査に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	すぐ手放すべきだ	10.00	9.43
2	なるべく手放すべきだ	20.56	18.15
3	手放すことを検討する方がよい	23.41	21.78
4	特に感じることはない	46.02	50.64
合計		100.00	100.00

問 15 これまでお答えいただいたような、様々な環境(Environment)や社会(Social)に関わる問題、企業の統治(Governance)を考慮して投資を行うことを、それぞれの英語の頭文字をとって、ESG 投資と呼びます。以前は、社会的責任投資(英語の頭文字をとって「SRI」)と呼ばれていました。また、これら ESG の各事項などに取り組む企業の責任を、企業の社会的責任(英語の頭文字をとって「CSR」)と呼びます。企業の統治はコーポレート・ガバナンスともいいます。あなたは、これらの意味を、どの程度知っていましたか。

《前回調査では問 6 「これまでお答えいただいたような、様々な環境(Environment)や社会(Social)問題、企業の統治(Governance)を考慮して投資を行うことを、それぞれの英語の頭文字をとって、ESG 投資と呼びます。社会問題に重点を置く場合には、社会的責任投資(Socially Responsible Investment、頭文字をとって「SRI」)とも呼びます。また、これらに取り組む企業の責任を、企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility、頭文字をとって「CSR」)と呼びます。あなたは、これらの意味を、それぞれの程度知っていましたか。》

【項目ごとに「1. よく知っていた」、「2. まあ知っていた」、「3. 言葉だけは聞いたことがあった」、「4. 知らなかった」の中から単一回答】

1. ESG 投資

		前回	今回
		%	%
1	よく知っていた	1.62	1.25
2	まあ知っていた	6.80	4.79
3	聞いたことはあった	15.50	9.43
4	知らなかった	76.08	84.53
合計		100.00	100.00

2. 社会的責任投資(SRI)

		前回	今回
		%	%
1	よく知っていた	2.52	2.26
2	まあ知っていた	9.32	8.54
3	聞いたことはあった	17.17	12.79
4	知らなかった	70.99	76.41
合計		100.00	100.00

3. 企業の社会的責任(CSR)

		前回	今回
		%	%
1	よく知っていた	7.82	5.71
2	まあ知っていた	14.13	12.76
3	聞いたことはあった	17.81	16.66
4	知らなかった	60.24	64.86
合計		100.00	100.00

問16 環境や社会に関わる問題などに取り組む企業の社会的責任(CSR)についておたずねします。次のうち、あなたのお考えに沿うものをすべて選んでください。【複数回答】

1. CSR は企業経営が適切に行われるための基本であり、企業は率先して取り組むべきだ。
2. CSR に積極的に取り組んでいる企業には好感が持てる。
3. 多くの企業が CSR に取り組めば、経済全体の発展や成長にもつながる。
4. 企業は利益を追求することが目的なので、CSR は法令や規制の範囲でやればよい。
5. CSR は企業のイメージアップ活動に過ぎないので、特に評価する必要はない。
6. CSR に取り組む余裕があるなら、製品やサービスの価格を下げてほしい。
7. その他 ()
8. CSR についてはよくわからない。

《前回調査では問 7 「環境や社会問題などに関する企業の社会的責任(CSR)の取り組み

について、あなたはどのように考えますか。あなたのお考えに沿うものを選んでください。」、回答肢は前回に同じ》

	前回	今回
	%	%
1	36.47	20.44
2	46.56	25.17
3	33.11	18.71
4	6.46	5.83
5	5.60	4.64
6	4.45	3.09
7	0.62	0.12
8	30.72	56.65

問 17 あなたは、あなたや家族が払った公的年金の保険料の一部が積み立てられ、株式や債券などに投資されて運用されることをどの程度知っていますか。【単一回答】

《前回調査では問 9、質問内容は基本的に同じだが「払った」→「払う」、「ご存知ですか」→「知っていますか」とした》

		前回	今回
		%	%
1	よく知っている	11.03	9.49
2	まあ知っている	34.14	22.52
3	聞いたことはある	28.17	21.60
4	知らない	26.66	46.39
合計		100.00	100.00

問 18 労働組合の連合(※)は、社会的責任に配慮した企業行動および金融取引をうながし、公正かつ持続可能な社会形成に貢献するため、2010 年 12 月に「ワーカーズキャピタル責任投資ガイドライン」を策定しています(2015 年 9 月改訂)。労働者が拠出した、ないしは労働者のために拠出された年金基金については、労働者(労働組合)はその所有者として、社会や環境に悪影響を及ぼす企業行動に加担する投資を排除し、公正な市場を確立する社会的責任を認識する必要があるという考え方です。あなたは、この考えや取組みをどのように思いますか。【単一回答】

※ 「連合」は、「日本労働組合総連合会」の略称です。

《前回調査では問 15、質問内容は基本的に同じだが「(2015 年 9 月改訂)」を加えた)

		前回	今回
		%	%
1	とてもよい	9.19	6.96
2	まあよい	39.59	29.40
3	あまりよくない	9.13	7.94
4	まったくよくない	2.37	2.53
5	その他	0.43	0.12
6	わからない	39.29	53.05
合計		100.00	100.00

問 23 あなたや家族が払った保険料の一部も含まれる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、おうかがいします。あなたは、次のような意見や考えをどう思いますか。

《前回調査では問 10 「あなたや家族が払った保険料の一部も含まれる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をするかどうかについて、おうかがいします。あなたは、次のような考え方をどう思いますか。それぞれについて、あなたのお考えに沿うものを選んでください。》

【項目ごとに、「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」、「3. どちらかといえばそう思わない」、「4. そう思わない」、「5. わからない」の中から単一回答】

1. 自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取組みを支援するよう投資してほしい。

《前回調査は「自分や家族の払った保険料を環境や社会問題などの取組みにも役立てられるよう、公的年金の積立金で、ESG 投資をすべきだ。》

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	4.68	5.56
2	どちらかといえばそう思う	27.15	25.56
3	どちらかといえばそう思わない	17.08	13.06
4	そう思わない	17.29	7.41
5	わからない	33.80	48.41
合計		100.00	100.00

2. 自分や家族の払った保険料は、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業には投資しないようにしてほしい。

《前回調査は「自分や家族の払った保険料は、環境や社会問題などに後ろ向きの企業に投資しないよう、公的年金の積立金で、ESG 投資をすべきだ。》

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	5.90	9.94
2	どちらかといえばそう思う	28.02	24.72
3	どちらかといえばそう思わない	16.29	12.26
4	そう思わない	15.95	6.22
5	わからない	33.84	46.86
合計		100.00	100.00

3. 年金のような長期資金では、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮して投資先を選択することは合理的だ。

《前回調査は「環境や社会問題などで投資先を選択することは経済的に合理的だと思うので、公的年金の積立金で、ESG 投資をすべきだ。」》

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	3.33	5.27
2	どちらかといえばそう思う	24.05	24.34
3	どちらかといえばそう思わない	18.98	14.04
4	そう思わない	17.61	6.31
5	わからない	36.02	50.04
合計		100.00	100.00

4. 年金の積立金は将来の年金の支払いだけを考えて運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、これに関係がないので、慎重であるべきだ。

《前回調査は「年金の保険料は将来の年金の支払いのためだけを考えて運用すべきであり、環境や社会問題などを考える ESG 投資は、これに関係がないので、公的年金の積立金ではすべきではない。」》

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	11.31	5.95
2	どちらかといえばそう思う	21.93	19.01
3	どちらかといえばそう思わない	21.57	18.09
4	そう思わない	13.21	8.36
5	わからない	31.98	48.59
合計		100.00	100.00

5. 環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考慮して投資先を選定し

ても、運用成績に結びつかない。

《前回調査は「環境や社会問題などで投資先を選定することは投資成績に結びつかないと思うので、公的年金の積立金で ESG 投資はすべきではない。」》

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	8.68	4.40
2	どちらかといえばそう思う	20.52	17.29
3	どちらかといえばそう思わない	23.02	17.64
4	そう思わない	13.10	7.26
5	わからない	34.67	53.41
合計		100.00	100.00

6. 公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではない。

《前回調査は「公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではないので、公的年金の積立金で ESG 投資はすべきではない。」》

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	9.28	8.90
2	どちらかといえばそう思う	20.03	19.58
3	どちらかといえばそう思わない	22.64	17.02
4	そう思わない	13.38	7.47
5	わからない	34.67	47.04
合計		100.00	100.00

問 24 あなたは、あなたや家族が払った保険料の一部が積み立てられ、将来受け取る年金の財源になる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。【単一回答】

《前回調査では問 11、質問内容は同じ》

		前回	今回
		%	%
1	してほしい	4.30	4.25
2	どちらかといえばしてほしい	27.49	24.31
3	どちらかといえばしてほしくない	22.77	14.31
4	してほしくない	12.65	7.35
5	わからない	32.79	49.78
合計		100.00	100.00

問 25 企業の中には独自で企業年金を実施するところがあります。企業年金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、次のような意見や考えをどう思いますか。企業年金へのご加入の有無にかかわらず、一般的なお考えとしてお答えください。

《前回調査では問 12 「公的年金だけでなく、企業の中にも従業員のために独自の企業年金を実施するところがあります。企業年金も法律に基づく年金の仕組みの 1 つです。企業年金で、環境や社会、企業の統治（ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、次のような考え方をどう思いますか。それぞれについて、あなたのお考えに沿うものを選んでください。》

【項目ごとに、「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」、「3. どちらかといえばそう思わない」、「4. そう思わない」、「5. わからない」の中から単一回答】

1. 企業年金の資金運用でも環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどの取組みを支援すべきだ。

《前回調査は「企業年金でも環境や社会問題などの取組みを支援するため、ESG 投資をすべきだ。》

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	4.08	5.00
2	どちらかといえばそう思う	28.58	24.72
3	どちらかといえばそう思わない	16.44	13.09
4	そう思わない	14.81	7.23
5	わからない	36.08	49.96
合計		100.00	100.00

2. 企業年金の資金が環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどに後ろ向きの企業に投資されないようにすべきだ。

《前回調査は「企業年金の資金が環境や社会問題などに後ろ向きの企業に投資されないよう、ESG 投資をすべきだ。》

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	4.47	7.50
2	どちらかといえばそう思う	29.39	24.46
3	どちらかといえばそう思わない	15.78	12.70
4	そう思わない	14.26	6.22
5	わからない	36.11	49.12
合計		100.00	100.00

4. 企業年金の資金は将来の年金の支払いだけを考えて運用すべきであり、環境や社会に関わる問題、コーポレート・ガバナンスなどを考えることは、労使から明確な意思表示がない限り、慎重であるべきだ。

《前回調査は「年金の保険料は将来の年金の支払いのためだけを考えて運用すべきであり、環境や社会問題などを考える ESG 投資は、これに関係がないので、すべきではない。」》

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	8.85	6.10
2	どちらかといえばそう思う	20.88	21.12
3	どちらかといえばそう思わない	23.09	16.42
4	そう思わない	12.10	6.63
5	わからない	35.08	49.72
合計		100.00	100.00

5. 企業年金の資金は、企業の労働者の老後の生活に充てられる資金なので、運用のし方も労働者の意見をよく聞いて決めるべきだ。

《前回調査の質問 6.に同じ》

		前回	今回
		%	%
1	そう思う	19.11	9.64
2	どちらかといえばそう思う	28.26	25.65
3	どちらかといえばそう思わない	13.02	12.94
4	そう思わない	7.27	4.52
5	わからない	32.34	47.25
合計		100.00	100.00

- 問 26 あなたは、企業が実施する企業年金で、環境や社会、企業の統治（コーポレート・ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。企業年金に加入されていない方も、企業年金への希望としてお答えください。

《前回調査では問 13 「あなたは、企業年金で、環境や社会、企業の統治（ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。」》

		前回	今回
		%	%
1	してほしい	4.23	3.93
2	どちらかといえばしてほしい	28.56	25.26
3	どちらかといえばしてほしくない	19.94	12.14
4	してほしくない	11.63	6.31
5	わからない	35.63	52.37
合計		100.00	100.00

第6章 ESG投資の今後の方向に関する理由について の自由記載欄の主なコメント

最後の問いである問28では、日本の年金資金によるESG投資についてこれからどのようにしていくべきか聞き、その回答について、任意で理由の自由記載を求めた。空欄あるいは「なし」、「特になし」が多かったほか、「難しい」、「わからない」、「興味がない」、「なんとなく」といった記載が目立ったが、それ以外の何らかのメッセージを含むと思われるものを、回答の内容ごとに、性別・年齢層別にまとめて以下に示す。原文のまま示すことを原則とするが、明らかな誤字脱字などは適宜修正した。

1 「着実に充実していくべきだ」と回答した者

1-1 20歳台男性

- ・企業責任
- ・良さそう
- ・今の閉塞感を打開するのに必要な気がするから
- ・年金資金は長期投資になるので長い目で見れば利益に結び付くと思うから。
- ・すべての人々に平等な処遇を与えるべき。
- ・当然のことだから
- ・そうすべきだとかんじたから
- ・安定した財源を確保すれば、将来の不安要素が消え景気が上向きになる
- ・自分に合ったものになると思うから
- ・企業としてあたりまえのこと
- ・自らで積極的に運用資金を獲得していかなければならない時代なので、多少のリスクを負ってでも運用に取り組んでいくべき
- ・良質な企業へ積極的に投資してほしいから。

1-2 20歳台女性

- ・ただ持っているだけでなく、増やす投資がしたいから
- ・これから主流となるテーマだと思うため、積極的に取り入れていくべきだと思うため。
- ・それにより社会的に不適切な企業が淘汰されていくようになっていくのが望ましいから
- ・そのほうがいい？
- ・守りに入るよりは攻めた方がよい
- ・いままで以上に活躍させてほしい
- ・環境に投資すべきだから
- ・今後の未来に必要なだと思う

1-3 30 歳台男性

- ・より堅実にいきたいので
- ・実施していくことで企業の意識改革になると思うから
- ・特に環境に対する企業意識を向上させる意味でも有効だと思う。
- ・利益最優先
- ・よくしてほしい
- ・年金の運用先は長期的に安定した成長が見込まれる企業がのぞましく、環境や社会、コーポレートガバナンスに配慮した企業は、短期的には費用が掛かることとなっても、長期的には安定した成長となるだろうから。
- ・日本企業の意識改革に繋がる。
- ・そうでもしないと破綻すると思うので。
- ・社会に対する最近を果たしてほしい
- ・破綻するなら投資した方がまし
- ・これからは国に頼れない時代だから
- ・大事なことから
- ・法令順守は義務だから
- ・環境に配慮し公正な取引を行う企業を推進していくため
- ・長期的な観点で必要とされるならば基本それは必要
- ・良い方向であれば
- ・良い企業が残っていくようになると思うので。
- ・自社の利益だけを重視した生産活動はやがて地球環境を破壊することにつながってしまう。自社の利益はどうでもいいとまではいかなくても、地球環境に配慮している企業への投資に力を入れるべきである。
- ・そのような企業が投資されやすい状況を作れば、投資を通じてよりよい社会が形成されるはずだから。
- ・安心して老後を迎えたい
- ・企業倫理を改善してほしい働く意味がない会社が多すぎる

1-4 30 歳台女性

- ・一般消費者の観点からだけ見ると、その企業がどれだけ環境に配慮したり、社会的貢献をしているかわかりにくいので、是非、投資では、そういった有益な企業を応援したい。
- ・顧客のためになる
- ・これから必要になっていく
- ・少子高齢化で財源が少なくなる中で、新たに年金資産の増産を構築していくことは必要不可欠であると考えから。
- ・将来自分の為になるから
- ・正しいことをしてほしいから
- ・そのほうがいいと思うから

- ・今だけでなく数十年、数百年先のことを見据えて投資してもらいたいので
- ・年金が足りないと思うから
- ・益が多そうだから
- ・日本が良い方向に進むと思う

1-5 40 歳台男性

- ・大規模投資となれば、企業に対しても影響力が見込めるから
- ・環境や社会への配慮が必要だから
- ・日本の企業は世界的な趨勢から周回遅れになっているので、積極的に取り組むべきだと思います。
- ・重要なことだから
- ・これから超高齢化社会となるため、従来の年金システムでは厳しいので
- ・利益追求ばかりでは、最終的には個々の利益にならないと思うから。
- ・少しでもまともな世の中になって欲しいので。
- ・やるべき
- ・ESG 投資は結果として企業、年金にとって有益だから
- ・社会責任上、すべき
- ・日本の倫理観が乱れすぎているので正しいことをしている人が報われるべき社会になってほしい。
- ・高齢化社会で安心の担保
- ・した方がいい
- ・環境問題は深刻な状態にあると感じ早急に対処すべき事だと思うので。
- ・ESG に反した企業は淘汰される。ESG の基準を明確にした上で実施すべき。
- ・べき論としてよいものは実施すべき
- ・投資するなら、健全な、企業にしてほしい。
- ・その通り。
- ・社会全体の利益になるから
- ・ただ利益を出す企業ではなく、ESG 投資は、長期的に見て、国民全体のためになると思うので、国民全体に、広くわかりやすく説明したうえで、合意を得て、促進するのは良いことだと思うからです。
- ・そのとおりでしょ
- ・ESG 投資を続けることで、企業が環境や社会などに配慮した経営を進めることにつながるから
- ・少子化で 年金受給率を上げるには、これしかないと思う。
- ・投資先もまた社会を作る一つの方法であるから。
- ・当たり前のことだから
- ・ドラスティックにやるべき

1-6 40 歳台女性

- ・非 ESG が選択されないことにより、社会全体が着実に良い方向へ向かって行くと思うので。
- ・安心した年金受給にむけて、企業も年金資金基盤を作る責務があると思う。
- ・豊かな生活にするため
- ・秩序のある会社を応援するのは当然
- ・社会をよりよくしていくための貢献であるべきだと思うから
- ・そういった取り組みが、社会を真つ当な方向へ導き、経済の安定化を促して報われない労働者の割合を減らすことに貢献すると思う。
- ・社会全体が良い方向へ向かいそうだから
- ・必然だから
- ・正しいことだから
- ・地球温暖化などの問題が改善されると思うから
- ・ESG に取り組んでいる企業に資金が流れることは労働者の働き易さにつながり、さらに労働者の精神的な幸福感は今の閉塞感から活発な活動に向くため、結果的に経済活動に繋がる。
- ・現状を考えると、徐々&控えめに取り組むゆとりは無いと思うため
- ・年金資金は安全性を考えた資金運用がすべき。
- ・必要だから
- ・ESG 投資は世界の潮流であり、無視、軽視することは年金受給者にとってだけでなく、日本経済にとって長期的に大きな損失になると考えるから。

1-7 50 歳台男性

- ・戦略的に対応すべき。
- ・年金が減る可能性があるから
- ・世の流れ
- ・企業の考え方が変わる
- ・そう思うから
- ・ESG 投資を考慮していくのは当然の事となっていくと考えられるから。
- ・早く成果が、出ると良いな。
- ・企業の社会的責任も重要であると同時に、今後の生活も安心できる社会にしたいから。
- ・日本の国のあり方を考えるべきだ
- ・小池東京都知事が述べたように日本人は横並びの姿勢が強いので、きっかけを作って全体的に取り組む仕掛けが必要
- ・ESG に後ろ向きな企業を減らしたい
- ・日本の未来を長い目で見ていき、明るい将来を子孫に残すことはとても重要
- ・他者任せにせず、政治や社会をより良くしていくことに、全国民が積極的に参加すべきである。

- ・コーポレートガバナンスは大事なので。
- ・よりよい社会を築くことは不可欠だから
- ・年金資金を豊かにしてもらいたい
- ・現実には営利企業などなく借金返済に振り回されているだけなので、その対抗策となることは必要。これをきれいごとというやつは一種の引きこもり。
- ・時代の趨勢によるものと考えます
- ・世界的潮流がC S Rであることを見極めてのことであれば、実施すべき。

1-8 50 歳台女性

- ・有能な企業に投資すべき
- ・年金の安定化につながると思う
- ・社会的意識を全ての人がもたなければ、未来が明るくないと思うから。
- ・環境問題を考える事はこの地球上に暮らす者の責任だとおもうから
- ・日本は労働環境が良くないと思うから
- ・日本は年金の運用に真剣に取り組んでいるとはいえないので。
- ・社会のため
- ・結果として投資先の業績が上がれば運用益も上がり、よいサイクルが生まれるから
- ・将来の不安感。
- ・自然環境も社会環境も、今現在、さまざまな深刻な問題が露呈している。それらを解決するためには、企業活動がそういう問題をさらに悪化させないものである、逆により理想的な社会につながる活動をすることが重要だからだ。
- ・結果的に日本経済の利となるので
- ・利益追求にかまけて社会的責任を果たさない会社は結局ボロボロになるよね。三菱自動車しかり、タカタしかり、東芝しかり。ダメな企業に国民の大切な年金を投資運用しないでほしい。
- ・国だけに頼れなくなってきたから
- ・企業の健全性を明白にし着実に投資すべき
- ・預かっているお金として企業のあるべき投資の姿をみせていくべき
- ・これからの社会のために考慮すべきだと痛感するから
- ・世の中がよくなるように率先して行う何かが必要だと思うから
- ・してほしいです
- ・初めは考えなくて良いと思っていたが、そんなにも影響があるなら、真剣に取り組むべきだと思う。
- ・賛同者が多くなれば、効果も大きいと思います。
- ・公的年金は信用していない
- ・自分の利益だけを考えるのではなく社会を動かす企業を考えることが未来の子供たちに与える財産となることを考えるべきだと思う。
- ・個人だけでなく大きな視野から考える時期に来ていると思うから

- ・年金についてみんなが不安に思っている社会だから

1-9 60 歳台男性

- ・良い事だから
- ・表向き ESG に合致していることを宣伝している企業もあり得るので、裏付けを確実に取る必要があるが、健全な企業市民として実践している企業に対しては、投資対象としてよいと思う。
- ・巨大な額であるので慎重を期すべきであるが、地球全体を考えた投資を行うべきとおもいます。
- ・公正な社会実現のため
- ・ESG 投資は、人類社会全体の発展にとって必要な要請とおもいます
- ・世の中が良くなる
- ・質の改善
- ・世界が狭くなっている現状では、自分だけがゴミをポイ捨てする考え方は通用しなくなる。
- ・老後の生活を豊かな老後生活にするためにも大切な行動計画である。
- ・共生社会をつくるうえで大変重要であると考えから。
- ・そうゆう風に考えるから
- ・公的年金の運用は着実性を優先すべきで、債券中心の運用とすべきだが、どうしても株式に投資するなら ESG 投資とすべき。
- ・将来的に生き残る企業は ESG に積極的だと期待しているから。
- ・日本の将来のため
- ・そうすることが社会を豊にしたいと思います
- ・全ての結果が良い方に進むと思う

1-10 60 歳台女性

- ・何もしなければ資金は増えない
- ・私自身が、良いことには積極的に行動していくタイプなので。
- ・年金の受給の安定は大事けれども日本の企業がよくなって積立てていくという積極性も大事だと思うから
- ・環境やコーポレートガバナンスを考慮した投資は、社会全体を変えていく力を持っているので、推進するべきだ。
- ・個の利益追求でなく、地球規模で考えるべきだ。
- ・自国によってメリットがあるから
- ・環境、人的保護は、将来に対する企業犯罪（原発事故など）への防止となり、市場の拡大につながり、経済の根幹を健全に支えるものであるから。
- ・実現すべきです。
- ・着実に取り組んで行かなければならない問題だと思う。未来を考えると。

- ・積極的に収益を求めるべきである。
- ・社会全体が改善されていくと思います
- ・少子化で他に方法がない

1-11 70 歳以上男性

- ・環境の保全改善は最大の努力をすべきものであるから
- ・年金資金の運用を応援したい
- ・これからの日本のため
- ・社会的責任は年金の補償と同様に重要
- ・少しでも、将来の受給額に大きな変動が生じ無い状態に、努めるべきと考えます。
- ・ESG は企業体質そのものであり、即、業績に係わる。
- ・明確に
- ・責任
- ・それを否定する理由がないから。
- ・よい社会のために
- ・国民が鋭意努力して貯めた年金資金を着実に増やす努力をするべきである。
- ・これからも着実に持続可能な年金の支給ができるように希望するから
- ・積極的に実施すべきだと思うので
- ・資金の有効利用。
- ・安定した生活を送りたいから・・・
- ・社会の役に立つ企業を助ける（投資による資金提供）ことは、国民生活向上に関わると思われるから。
- ・東芝の例を見ても、今後は ESG が大事
- ・将来のことを考えて、、
- ・損失防止のため、ローリターンで良い。自分の金と思って、投資を願います。
- ・企業の社会的責任や、コーポレートガバナンスの順守は基本中の基本だと思います。それらを守っている企業には応援したい。
- ・社会全体が良くなる方向に投資すべきである。
- ・持続可能で安定成長を目指す企業に投資すべき。
- ・皆で助け合う
- ・環境や社会が良くならない限り、実りも返って来ないでしょうが。
- ・環境改善は人類の幸福につながる
- ・年金は、永続的だ（期間が長い）から、ESG 投資を無視できないであろう。
- ・役人が投資をすると素人故に失敗することが多く、しかも責任を取らない。やはり投資はプロに委託すべきだと思う。その際はキチンとした経過報告など情報を開示することが肝要。
- ・地球の環境と社会が存在しなければ会社の存続はない
- ・そうでなければ、企業も永続しないから。

- ・利益だけの投資はいずれ破たんする
- ・環境や労働条件に後ろ向きな会社は、衰退とされると思われるので、投資せず、積極的に援助し、監視していく方針が良いと思う
- ・将来の安定のために充実して行きべきです
- ・社会の健全な発展の為に必要な取組と思うから。
- ・生活も大事だが、次の世代に引き継ぐ国の在り方を充分考慮した運用であるべき。
- ・地球の希望
- ・老後の生活を安泰としたい
- ・将来の為に。
- ・そのほうがより良い社会を作ることができる。又そのような会社のほうがより良い投資効果がある
- ・安定的に年金運用を進めてほしい。リスク管理を徹底してほしい。

1-12 70 歳以上女性

- ・何とか将来に希望の持てるよう努力してほしいから
- ・世界的に ESG に積極的な企業の成長に繋がると思うから。
- ・年金は、いろいろな観点から検討を続けるべきと考えます。
- ・運用の成績が良くても受給者の受取額は増えない。しかし 悪い時はすぐ解散手続きをするので受け取り額を減額する仕組みをやめてほしい
- ・社会の基盤を形成する経済活動を正しい方向に動かすことになるから
- ・必要性です。
- ・現在の 0 金利政策では、なんらかの方法で投資をしなければ、将来の年金が増えないから
- ・ESG 投資は良く分からないが、安定した投資をしてほしい
- ・年金資金の運用が広がる。
- ・環境や社会を良くしていく為
- ・将来の生活安心の為に。
- ・年金受給者にとって将来不明、不安なので充実してほしい。
- ・とにかく国民が少しでも豊かになるような方へ動いてほしい
- ・色々な方面から一番良い方法でより多くの金額になるようになるといい
- ・未来の日本にとって良い結果に、なると思うから
- ・地球を存続させるために
- ・利益だけでなく社会がよくなることを考慮すべき
- ・それにより、着実に社会全体も上がっていくはず。
- ・年金資金のより長い実施のために必要と思う。
- ・大事な年金だから
- ・今まで不当に役人が使いすぎた感があるので受け取り年金が少しでも多くなるように努力すべきだ

- ・環境の向上
- ・老後と言われる年になっても、社会との接点は待っていたいから。見守っていきたい。
- ・さきゆき大変心配なので慎重にするべきだと思います、その昔多額の年金財産の管理に失敗した役人がいたので今大変な事になっていると思いますが慎重にしないといけないと思います
- ・投資先選別は企業の強化につながりそう。
- ・大局的に見て、大いに取り組んでほしい。
- ・掛金支払者の不利にならないことを大前提としたうえでやってほしい
- ・私は企業年金を頂いていましたが、4月から無くなります。国が保証して下さるとの事です何が何だかよくわかりません。これから先が心配です。
- ・年金資金を国民の加入資金だけでは、将来の支払いに不安がある
- ・将来の年金支払いのため専門的に、着実に成果を上げてもらいた。
- ・先行きが不透明なだけに年金制度で生活を安定させていきたい

2 「徐々に取り組んでいくべきだ」と回答した者

2-1 20 歳台男性

- ・今の日本より確実によくなると思うため
- ・それによって状態が改善されるなら、リスクはあるもののやったほうが良いと思ったから。
- ・自分では投資をしないから
- ・徐々に規模を拡大すれば良いと思う
- ・将来に備えたいから
- ・利益優先の投資だと失敗する可能性があるから
- ・環境についても考えていく時代の流れになってきているから。
- ・必要な部分には投資したほうが良い
- ・運用不可欠な時代
- ・環境負荷に対する社会的責任を企業は強く持つべきだと考えるので取り組むべきだと思う。
- ・投資が経済を活性化するから
- ・どんどん増やして欲しいから
- ・資産を増やすべき
- ・良いと思う
- ・その方が日本として良くなりそうだから
- ・塵も積もれば山となる。急がば回れ。
- ・年金資金の維持は必要だが、単に経済的な利益だけにとらわれるべきでないと考えるから。
- ・これから年金なども将来もらえる金額も減っていくと思うので、早くから対策をしてい

ってほしいと思っています。

- ・一度に制度の変革をすると混乱が起きる。
- ・社会全体の利益になることだから。
- ・良くなりたい
- ・理想に近づく努力はすべきだと思う
- ・ESG 投資で支援した企業が育っていくと思うから。
- ・海外の動向も含めて慎重に
- ・急激に変化させるのではなく少しずつ進めていったほうがいいと思うから
- ・投資である以上損益は出ます。不安はありますが、しかし、だからといって何も使わないのはもったいない気がします。国内外に幅広く投資してリスク分散をし、幅広く収益を得られるようになればと思います。
- ・インフラが整備されているのは個々の企業からだから。
- ・あんまりよくわからなかったが、理解出来るとこもあったので頑張ってみてもらいたいと思う。
- ・ブラック企業が問題になっている今、そういった企業を淘汰していくために、ESG 投資はある意味合理的だと思われるから。
- ・投資を身近にするために
- ・まずは周知をしていく事が大切。セミナー等を企業、もしくは職員で勉強をしていく事が必要。
- ・わからない部分が多いが良さそうな印象があるので。
- ・よい方向に進む運営をしてほしい

2-2 20 歳台女性

- ・いきなり全部やると息切れしてしまうから
- ・あきらめないこと
- ・これからの日本のため
- ・まずは ESG について世間が知ることから。
- ・すぐにはできなさそう
- ・個人個人の微量な投資でも、大人数になれば投資額が増えて、よりよい環境や社会を作っていけると思うから。
- ・今後も高齢化が進んでいくので、そのような取り組みが必要となるのではないかなと思ったから。
- ・日本に合った取り組み方を模索しながら進めてほしい
- ・悪くないように感じたので
- ・取り組むことは大切だけど、いきなり変わるのには不安があるので徐々に進めてほしいと思うから。
- ・今の時代に合っているし、現状の年金の仕組みではいつか必ず破綻すると思うので、何かしらの変革は必要だと思うから。

- ・社会に良いことは少しずつでも取り組んで欲しいと思います。
- ・あまり一般市民に影響をないようにこれからをみつめて行って欲しい
- ・年金は大事だから。
- ・社会正義のため
- ・将来的には、環境や社会貢献を重視している企業が成長していくと思う
- ・有効活用
- ・興味があるから
- ・取り組みがしっかりしていくことで、生活が豊かになればと思うから
- ・前向きに進めていくべきだとは思いますが、弊害もあるかもしれないので、様々な側面から検討しながら進めるべきだと思うから。
- ・将来的に必要な気がするので。
- ・一気に取り組みといってもできないだろうから、少しずつ
- ・私には難しくてよく分からないが、日本が良くなるためにお金を遣って欲しいから。
- ・経済の循環を更に促進して欲しいから
- ・今のままではいけないから
- ・よく分からないが、多分社会に必要なことだと思うから
- ・投資は確実性がないことと、現段階で環境保全などに取り組む会社も今後どうなっていくか分からないため、徐々に取り組むのがいいと思う。

2-3 30 歳台男性

- ・そういった企業を評価すべきだと思うので
- ・徐々に進めることで、社会を良くしてほしい
- ・目的の必要性、重要性は分かるが、収益性にも配慮する必要があると思うから。
- ・労働者の質を維持するのに役立ちそうだから
- ・急激に変えていくと、どこかに歪みが起きそうなので。
- ・儲かるからと言ってなんでも好き勝手にやってはいけないから
- ・妥当な進行スピードで良い
- ・今はよく分からないから
- ・日本は少子化なんだから運用に力を入れるべき
- ・まずは周知とそれに伴う理解というように手順を踏むべき
- ・急な対応は無理なので、徐々に浸透させる方が良い
- ・変わりゆく世界情勢と年金の安定受給を支えるためには、多様な運用方法を検討するべき
- ・トータルで物事をみるべき
- ・有益ならばそうしたほうがよいから
- ・リターンを確保できるかわからないから。
- ・今後は人口が減って行くので自分で考えて取り組む姿勢は必要
- ・社会の一員としてやるべきことであると思う

- ・人任せではなく、自分で管理できるようになるのが、理想である。
- ・安定した額を支給するためにも、損失リスクはあるが、投資をしていくべきだと思う。
- ・必要な時代だから
- ・自分でなんとかしないといけない
- ・なにもしないよりは少しでも動いてくれた方が納得できると思ったから。
- ・より良い社会になるよう、いろいろな工夫をしていくべき
- ・できる範囲で
- ・すぐには無理と思うから
- ・リスクを重んじる性格なので
- ・安定的運用が優先されるべき。
- ・必要であれば
- ・取り組みそのものはあってしかるべきだと強く思うが、投資成績は ESG の取り組みとイコールになるわけではない(東芝のように上辺は綺麗で内実が酷い大企業も多くある)。基本は収益性を第一に考えるべきだと思う。
- ・企業を考えるべき
- ・改革が必要だから
- ・日本人は投資について深く知るべきだと思うので。
- ・社会的責任は、株価にも影響する話であるとおもう。
- ・環境に配慮すべきだから
- ・日本の年金制度の維持・充実のために必要であるから。
- ・とても良いことだとは思いますが、あくまで年金は老後のためのもの。本来の役割をきっちり果たせることが大前提。年金の資金が動くことが大きな支援になるのだろうが他の支援方法も考えるべき。
- ・急に取り組むとしわ寄せが来そうなのでゆっくの方がいい。
- ・運用の見える化につながる
- ・社会貢献にもなるから。
- ・よくわからないから
- ・社会全体でのコンセンサスが取れていないと思う
- ・結局よく理解出来なかったが様々な企業や分野が潤っていくなら
- ・投資にはリスクが伴うのでほどほどにしてほしい
- ・少しずつ浸透させていくようにしていけばよいと思う
- ・長期的にはそういう企業の方が長く残って行きそうだから。
- ・いつまでも環境や社会の途上国とは言わせたくない
- ・いきなりでなく様子を見て
- ・少子化社会において、財源を確保することが優先課題であるから。
- ・過去とのバランスも考慮すべき
- ・少しでも資金の足しになるに越したことはない
- ・良い事だと思うから。

- ・社会が良くなるのであれば投資してほしいから
- ・徐々に良い形で変化して行くのが良いと思う
- ・成功できるように、徐々にね
- ・社会全体でより良い方向へ向かっていく姿勢はとても大切だから
- ・日本を良くする為。
- ・投資をして増やしていくべきだと思うから
- ・老後の年金が不安なので
- ・長期的には環境や遵法をないがしろにする企業は衰退していくと考えられるため、その前に徐々に ESG 投資の比率を増やしていくのが合理的ではないかと考えた。
- ・社会的に評価されている企業への投資によって、確実な運用をしてほしい。
- ・投資してマイナスにならないよう確実性をもって投資してほしい
- ・時代の流れだから
- ・国民の資金によって、社会全体がプラスに向かっていくから

2-4 30 歳台女性

- ・将来、年金が確実にもらえないだろうから
- ・公的年金だけではあまりに不安があるから
- ・利益ばかりではなく、企業として社会に貢献していくことは必要だから
- ・まずは ESG 自体がどのようなものか、それに投資することで企業および社会へもたらす効果への理解を広めることをすべき。急に始めても、よく分からないから賛同も否定もできない、という人は多いと思います。
- ・いきなりすると反発が起こるので、徐々に理解を得るべきである。
- ・よいとは思うがその結果がまだ未確定な試して慎重に着手すべきなのかなと
- ・ガンガン進めていくと怖いのでゆっくり経過を見ながらの方が良い
- ・必要な事だと思うから。
- ・ESG 投資にすれば、環境や社会に有益な企業が成長して行くだろうから、賛成である。しかし、年金を受け取る側の立場で考えると、確実に利益を出して欲しい。従って、利益を取れるように、徐々に取り組んで欲しい。
- ・社会の一端を担う我々個人も、これからの社会全体のことを考えることが必要な時代に突入したのではないかと考えるから。
- ・世界水準に合わせた方が良いと思うため
- ・借金が多い日本であるので、国レベルで取り組んで欲しいから
- ・みんな得しそう
- ・機関投資家などが ESG 投資を推進することで、長い目で見て将来の環境や社会が良くなっていくと思うから。
- ・EGS は後々企業の経営に関わって来ると思うので。
- ・将来のために
- ・健全なところへの投資をすべきだが、少しずつでよい。

- ・ 今後に活かされた投資を考えてほしいから。
- ・ 責任だから
- ・ 制度の詳細を決めながら行っていく事が必要だと思うから
- ・ 国と企業が協力してほしい
- ・ 状況をふまえてしていくべきだと思います
- ・ 難しいですね。でも今のままでは駄目だと思うのでこれで。
- ・ 年金の投資は堅実にしてほしい
- ・ 良い社会になりそうなので
- ・ 少しずつできることから取り組んでほしい。
- ・ 大切なことだと思う
- ・ これからはそういう考え方が必要になってくると思うので
- ・ 大切な資金なので慎重に行ってほしい
- ・ 政府は納税者にもっと分かりやすく説明をして欲しい
- ・ 民間に任せるだけでは進まないと思うから
- ・ 急にすると弊害がでそう

2-5 40 歳台男性

- ・ コスト負担が大きいと企業も大変だと思うから
- ・ 全体像がつかめにくいですが、そこに投資してある程度の利益が見込めるなら、行うべきだと思う。
- ・ 不透明だが、現状維持
- ・ 日本の将来のため
- ・ 環境や CSR を無視できる時代ではない。
- ・ 少しずつ対応していき、効果を検証すべき。
- ・ 問題点を解決しながら少しずつ取り組めばいいと思う
- ・ いきなり変えることは難しい
- ・ 企業価値の向上のため
- ・ お金の事だけを考える時代は終わったような気がする。
- ・ 将来の年金支給に影響しない程度なら取り組んでもいいと思います。
- ・ 国や企業の健全な発展に寄与すると思うから。
- ・ ブラック企業が減ることにつながりそう。
- ・ 投資と言うのは何だかんだで儲けた者勝ちな部分ではありますがそれでもいろいろと公明正大であって欲しいとは思っています。
- ・ 急にはむずかしい
- ・ 取組みは必要だがバランスも必要で様子をみながら自分でできる範囲で参加したい
- ・ 積極的に評価されるべき
- ・ 無理をせず、しかし確実に実施して欲しい

- ・有益に使うべきだと感じたので。
- ・リターンが保てればそうしてもいいとは思う
- ・企業評価に繋がる活動は積極的におこなわれるべき
- ・なかなかよい
- ・現状では先細り確実だから
- ・社会全体にメリットがあることだと思うから
- ・判断の基準となる情報開示を参考にしながら
- ・何らかの公的資金で優遇してあげるべき
- ・出来る範囲で
- ・それを怠ると環境が破壊されるおそれがあり、人類の生命に影響を与える恐れがあるから
- ・以前働いていた業界で年金の運用が破綻しました。本当に難しい問題であります
- ・ルールは守る
- ・運用実績作るのが第一なので増やす目的が結果として実績に繋がるならば、やるべきだと思うから。
- ・増やしたい
- ・環境問題は重要だから
- ・長期的にみると ESG に積極的な企業の方が収益性が高くなる「はず」なので。
- ・年金の財源を大切に
- ・良いようになればよい
- ・正常化に必要
- ・難しいことはあまり解りませんが年金制度改革は国民に、ある程度でいいので情報公開し納得させつつ徐々に確実に進めていくべきです。日本にはまだまだ動かすべき資金が様々な所に大量に眠っているので、ESG 投資にもお金を回し政府も企業も国民も健全な社会的役割を果たし、将来にわたって世界に恥ずかしくない先進国でいてほしいです。
- ・年金は人口の推移から現在の労働者が将来もらえる金額があきらかに出すより少ないと考えられるので、試行錯誤を繰り返してするべきものではないかと思う。
- ・一気に運用は無理だから
- ・先進的な考え方をもっている会社は、短期の利益よりも長期の視点での戦略を持っているため、経営も安定していると思われるから。
- ・すきにやれば
- ・まだモデルがはっきりしていないと思うから
- ・急な変革は危険もあるので影響を考えてから。
- ・社会全体として考えていくべき問題については、様々な機会投資などを進めていった方が良いと感じたから
- ・世界標準
- ・そもそも、ガバナンスが出来ている企業の指針が明確でない。
- ・社会や環境とまったく関係のない企業活動はないのでそういう投資や企業姿勢はあって

もよい

- ・ バランスも踏まえ段階を踏んで取り組むべき。
- ・ 急な方針変更は周囲の不信感を招く。
- ・ それぞれの長所、短所をカバーできれば、よりよくなると思う
- ・ これから必要なことだから
- ・ 必要だとおもうので
- ・ いずれ必要になるから
- ・ その方がみんなのためになる
- ・ いきなりは無理だと思うから
- ・ よいことは少しずつでもやっていけばいつか大きな力になる。
- ・ そういった企業を応援する
- ・ 今後のトレンド
- ・ 一石二鳥で、資金を援助することによって、それ以上のものが、帰ってくるのであれば。
- ・ 成長しそう
- ・ 理想はそうであるが、運用益の方が優先されるべきでもある。

2-6 40 歳台女性

- ・ 社会の成熟には必要だと思うので
- ・ 先々の良い環境も必要なことは理解できるが、効率的な運用もしてほしい為
- ・ 長期的収益性による
- ・ 性急な実施は失敗のもとだと思うので。
- ・ 個人がしっかり考えることが大切だと思います
- ・ 理念だけでもダメ。利益だけでもダメ。両方のバランスがよい投資先かどうか、見極める必要がある。
- ・ 将来を見据えるとそう思う
- ・ 世界に通用する、成長性のある企業を育てる事は、最終的には長く存続する長期投資に適する企業になりうるから。
- ・ 責任がある
- ・ 理想として掲げるには良いが、所々の事情や問題もあるだろうから、慎重にじっくりと検討したうえで、確実に取り組んでほしいと思います。
- ・ 環境や社会に目を向けた取り組みをするべき。
- ・ 政治や経済が変わると考え方や生活が変わるが 本当はそうであってはいけない 環境はその考え方は未来と自分の子供である
- ・ 私たちの投資したお金を将来を見据えた正しい方向に使ってほしいと思うから。
- ・ 経済の流れや発展のためにも世の中に合わせて取り組んでいくべきだと思う。
- ・ 年金資金は莫大な資金なので、その運用の仕方が経済や企業文化にも大きく影響すると思うから
- ・ 環境問題等に考慮しない考え方をしているのは、将来の地球が危機的状況になる恐れがあ

と思われるから

- ・環境がないと人間が住めないから
- ・今の老人に比べて私達が年金をもらう額が少ないので多くなるように何か増える事をし
ていかなければならないと思う。
- ・様子を見ながらゆっくりと進めて欲しい。リスクを軽減するために
- ・取り組んでほしい
- ・より安定性を求めたいから
- ・これからは利益を追求するだけでは成り立っていかないと思うから。環境やその他いろ
いろなことを考慮すべきだと思う。
- ・よりよい理念を持ち実行に移している会社を応援すべきだとは思いますが、自身に損にな
ることはなかなか積極的には勧められないので徐々に取り組んでほしい
- ・急な変化には歪みが生じやすいと思うから。
- ・もう少し投資に積極的であるべきかと思うから
- ・未来に向けて環境を守るのは当然の事。このような取り組みは世界各国に発信して広め
るべきと思う。
- ・日本のような先進国としては取り組んで行くべきだと思う
- ・優良企業が増えればいいと思ったから
- ・いきなりたくさんするのは拙速だと思うので状況を見つつ勧めていけばよいと思う

2-7 50 歳台男性

- ・まだまだ未知の部分も多いとは思いますが、よい方向に進められるよう努力すべしと思う。
過去に考えられた制度は、ある意味、限界にきている部分もあり、新しい形を模索する
も必要なことなのかも
- ・有効活用
- ・公的年金制度が破たんしてはならない。利益を追求すべきである。利益追求しながら、
徐々に取り組むことが必要で、コーポレートガバナンスのみで、投資の可否をしてはなら
ない。
- ・公的年金は加入者たちの老後の大切な収入源なので慎重に考えて投資してほしい。
- ・どのような投資でも、顕在化していなくても負の側面があると思うので、慎重に組み
組むべきだと考える。
- ・今後は重要になるだろう
- ・必要なもの
- ・運用成績が心配
- ・経済は一時的なものではなく永続性を考えて取り組まなくてはならないので、あるべき
社会の姿を考え取り組む必要があるが急激な変化は危険と思う。
- ・海外投資家にとって良い情報になると思う
- ・環境や社会が良くなって欲しい
- ・急な変化は影響が大きい

- ・不正がおきにくいように少しずつ取り組む方が良い
- ・年金問題は重要なこと
- ・様々な企業活動が行われる中で、全ての企業が一気にというわけにはいかないだろうから。
- ・必要だ
- ・必要なことだと思うから
- ・企業活動はチェックすべき
- ・よい
- ・ベターというだけ
- ・実績が伴うか不安なため
- ・良い企業は良い業績につながる
- ・趣旨的には賛同しますが、一つのことに執着することがどういう結果になるかは、目に見えることなので徐々に取り組んでゆく方が良いと思う。
- ・利権につながるのが心配
- ・状況を確認しながら
- ・運用は大事
- ・年金が潤沢になるような経済効果を生む施策をお願いしたい。
- ・慎重に検討すべきことだから
- ・いっぺんにやっても追いつかない
- ・チャレンジするべき
- ・まだまだ日本企業には対応できてなく、対応には時間コストがかかるから。
- ・これ以上悪化しないように環境維持を考えている企業を応援するべきだ。
- ・なんとなくよさそうなので
- ・社会・国際貢献も考えるべき
- ・結局結果が大事であり、賛否両論あり。 時間をもって徐々に浸透すべきだ。
- ・徐々に様子を見ながらの方がいい
- ・安定的な年金を確保するために
- ・資金的に破たんが起こる、可能性がある
- ・運用益が重要なので、利益をどの程度犠牲にするかは今後、少しずつ取り組んで行けばいい。
- ・みんなのお金なので
- ・社会全体として取り組んでいくべき課題と考える
- ・企業体質を変えるためにも必要性だとは思いますが、段階的に進めるべきだと思うから
- ・環境や社会、コーポレートガバナンスを軽視する企業はいずれ問題を起こす可能性があるから、徐々に投資割合を減らしていくのが良いと思うから。
- ・金を稼ぎたい
- ・その方が良い
- ・環境に対しては考慮して欲しいから。

- ・地球環境重視
- ・ESG は企業倫理に通じる
- ・一気に取り組むと、劇的な変化が起こり混乱する可能性がある
- ・将来の年金支給に備え、リスクは回避するべきだ

2-8 50 歳台女性

- ・自分が加入していた厚生年金基金が破綻し、昨年 100 分の 1 程しか受け取れないと通知された。加入者数の減少もあるが運用に失敗すると実際に困るのは加入者だから。加入者の意見は反映されるべきかと思っています。
- ・いろいろな意見を聞き、理解を得ながら、進めてほしい。
- ・年金制度を充実させるためにいい手段なのかもしれない
- ・今後、自分が年金をもらうことだけを考えるのではなく、次世代以降も年金をもらえるように企業への投資はしていったほうが良いのではないかなと思うから。
- ・環境対策は重要だと思うから
- ・何かするべきだと思うから
- ・環境の改善は必要だから
- ・会社が良くなると、個人にも回ってこないと思います。
- ・社会環境は幸せに不可欠
- ・よくなるに越したことはない
- ・時代の流れだと思うので
- ・有効な資金繰りで活性化できると思うから
- ・ESG 投資というものがなければ、また別の形で税金が増えるのではないかな？と思ったので。
- ・ESG 投資は今後の日本にとって大切だと思うから
- ・リスクが無いように進めてもらいたい
- ・政府の年金だけでは将来不安だから
- ・今の状況が不安定なので、安定的な投資をしてほしい。
- ・慎重にしてほしい
- ・透明性をもって取り組んで欲しい
- ・温暖化等の環境問題は急務なので。
- ・安定した運用になる
- ・このままでは頭打ちだと思うから。
- ・大きな資金で ESG 投資を後押しするほうが効果が高いと思うから
- ・それによって損失が出てしまうと将来の年金支給額に影響するから
- ・諸事を考えながらの取り組みをしてほしい
- ・大事だから
- ・大切なことなので
- ・長期的に安定した運用をしてほしいので

- ・リスクがないようにして欲しい
- ・今まで考えてこなかったことについて、もっと真剣に考えることが大切
- ・年金資金は長い目で見たほうがいいと思うから。将来を考えると、ESG 投資をした方がいいと思うから。
- ・企業にも働く人にもよいことだから
- ・いきなりよりは徐々に取り組んだ方が悪いところを直しやすいから。
- ・早急に施行すると問題が起きる。
- ・良い事だと思ったので。
- ・よりよい地球環境のためなら
- ・急にそちらに楫を切るのは危険だと感じる
- ・自分たちの生活に結びつくように環境や社会を考えながら活動している企業を応援して投資すべきだと思う。しかし、リスクが多いなら考慮すべきとも思うから
- ・社会の一員として役割から
- ・この仕組みを排してしまうと、なかなか資金の出所が見つからず、進まないのではないかと思うから。
- ・年金はたくさんのかかかわっているので、賛成の人も反対の人もいると思うので緩やかに取り組んでいくのがよいとおもいます。
- ・現在あるものを慎重に判断して、大きく望むことなく徐々に運用して大きくできるものにしてほしい。
- ・環境に配慮する投資は将来性があると思う
- ・変えるのは難しので徐々に取り組むのが一番良色思う
- ・今は大手企業はクリアできるだろうが、中小企業は環境社会問題に取り組むには時間がかかるため徐々に取り組んで行けばいいと思ったから。
- ・投資すべきだと思うが、いつも日本は外国の投資筋にカモにされている感じがするので、しっかりした機関を作って、日本独自の判断が必要だと思います。
- ・今の日本の年金等公的なものでもある程度政府が運用していくことが必要だと思うので
- ・社会にとって必要なことを推進する起爆剤になり得る
- ・まあいいとおもう
- ・年金を投資資金に利用するならばESG投資に利用してほしいと思う。
- ・ガバナンスの有効性がはっきり証明できるような開示をするべき
- ・未来をよくするはずなので
- ・社会の潮流となっているので
- ・少しずつでも社会や環境が良くなればいいと思うので、
- ・年金の目減りを防いで欲しいから
- ・良い事と思うがリスクは回避できるよう考慮しながら進めて欲しいから。
- ・小さな心がけで、社会は変えられるから。
- ・結果的に全体が良い方向へ改善される
- ・地球環境守る観点から必要だと思う

- ・年金については今のままでは破たんするので、なにかしらのてこ入れが必要だと思うから
- ・これからの高齢化を考えると、何かしらの対策は必要と思う
- ・ESG 投資は、長期的に経済に良い影響を与えると思うので、ゆっくりと取り組むべきだと思う。急だと弊害がありそうなので。
- ・一気に行うのは無理があると思う
- ・投資に詳しくない

2-9 60 歳台男性

- ・充実させることは良いことだが、どのような投資にすべきかは慎重に
- ・世の中が進むべき道を応援する投資を公的資金が担うことは正しいと思うから
- ・役に立っていないのではないかな
- ・社会情勢が急変しているので慎重にすべき
- ・より良い社会を皆で創出していかなければならないと思う。
- ・年金に頼って生活している国民が多いので堅実な運用が第一であるべき
- ・安定した運用が望ましい。
- ・年金資金の安定が第一。
- ・社会貢献
- ・自分で責任を持ったほうが良い
- ・環境や社会を考慮しないと日本経済の発展は有り得ないから
- ・大気汚染が少なく出来たら嬉しい?
- ・優先して投資していくべき
- ・取り組みはよい。
- ・ESG 投資の運用実績を見ながら徐々に取り組むべき
- ・安心が重要
- ・投資には考え方の姿勢も重要だ
- ・様子を見ながら運用すべき
- ・環境は重要な問題である。
- ・安全性の確保が必要
- ・年金積立金の運用は長期にわたることから、長期的なスパンで ESG 投資を進めていかなければならない。
- ・魅力的
- ・急激はよくない
- ・利益と ESG 投資のバランスが大事だと思うから。
- ・ESG 投資は良いことだが、損失を出してまでやるものではない。
- ・新しいことは進めていけばいいと思う
- ・確実な運用方法はない
- ・世界的な流れと思う。

- ・発展のため
- ・年金制度の新しい補助策として
- ・メリット、デメリットをじっくり考えながら行っていくべきである
- ・いきなり全体的な対応は無理と考える。
- ・余り偏った考えをして欲しくない。
- ・企業は人なり。社会貢献なくして企業なし。社会の為に努力している企業であれば。
- ・慎重に取り組むべき
- ・将来の世代のことを考えれば、取り組んでいくべき
- ・運用の方針を明確にし、遂行する基準を明示すること
- ・環境問題等には、積極的に参加してほしい。
- ・コーポレートガバナンスが確立された会社は、投資をしてもプラスになるなる可能性が高いと思う。
- ・ガバナンスは必要と思うから
- ・その事によって日本の経済が良くなれば良い。
- ・今の年金制度の破綻を招かないためにも、根本から見直す必要がある。
- ・環境重視
- ・急には出来ないでしょう

2-10 60 歳台女性

- ・若い世代の人が年金に関心を持つようになるから。
- ・良いことだが見極めが難しい
- ・多くの企業が取り組むことによって効果が期待できる
- ・払っただけの年金はもらいたい
- ・社会全体の意識レベルが上がっていない
- ・積み立てだけでは将来不安
- ・いいことは すべきだけど 徐々のほうがいい
- ・今のままではだめなので、打開策を見つけるべきだと思う。
- ・徐々にやればいい
- ・急には無理かな
- ・環境に良いことはしてほしい
- ・自分たちの子や孫の世代まで見据えた長期的な視点で取り組んでほしい。
- ・後ろ向きな企業も、投資されるように企業の姿勢が改まる可能性がある
- ・長い目で見たなら良いかなとおもいます。
- ・年金問題や環境問題は国民がしっかりと考えていくべきなので
- ・少子化問題があり、これからの年金受給者は、大変になると思うので。
- ・必要だと思う
- ・E S G投資をすることによって、社会は変わっていくと思う
- ・現代にマッチしている

- ・理想を追求するのはむつかしいが、よりよい社会になってほしいから。
- ・企業の社会的責任を果たすことを応援すべきだと思うので
- ・手段の一つとしては取り組む方が良いと思う
- ・良いことだから
- ・そうでもしなければ追いつかないから
- ・日本の企業にとっていいことだ
- ・経済全体を見て考えてほしい
- ・リスク管理の点に不安があるので正直よくわからない
- ・環境問題は子供たちの未来につながる物なので 皆で考えるべきだ。
- ・必要なことなので
- ・何事も急激な変化は不安をあおる
- ・必要なことだが社会情勢を考えながら徐々に取り組む
- ・将来の公的年金に備えるべきだと思うので
- ・将来の生活が安定しなければ、豊かに暮らすことができない
- ・まだ結果がどう出るかわからないので慎重に行ってほしい
- ・自然環境、社会環境ともに改善していったらいいと思うので。
- ・社会の中で企業が考えていく問題だとも思う。

2-11 70 歳以上男性

- ・地球環境を総合的に考える必要がある。
- ・社会全体、世界全体が考慮すべき
- ・コーポレート・ガバナンスの先進企業と言われている企業が、今問題になっています。お題目で掲げている企業と実施している企業の区別が付きません。慎重に見極めながら、投資していくべきと思います。
- ・投資は利益を得るだけではなく、可能な限り社会的貢献を考慮して実施すべきと思う。
- ・運用について 各者の意見が 異なり 透明性 政治的な影響など考えると難しい課題を抱えているのでは。
- ・日本の年金資金は将来先細りが見込まれ、若い年層の人達に負担が多くなる、既に年金不払いの人が増えつつある中、政府はもっと負担多くすべきで ESC 投資はその次であろう。
- ・今後の事であり、イメージとしての考えです。
- ・社会に対しての責任がある
- ・今後も継続すべきである。
- ・相対の資金を増やすことにはさんせいです
- ・この分野への投資は余り利益をあられないことが多い。ある程度は利益も得るべきと考えるので。
- ・年金資金運用が主であるので、着実に益が出るようなものに投資すべき。
- ・なんとなくその方向にいくように感じる

- ・もっと議論を積み重ねて世界全体を見る
- ・方向性には全面的に賛成だが、年金そのものに影響がでないよう、慎重さも大切だ。
- ・支給年金の原資として、健全、且つ有効な運用は必要と思うが、大きなリスクはとるべきではない。
- ・問題が起こってからでは意味がない
- ・年金という大きな金を遊ばせておくのは勿体ない。預金金利がもっと UP すれば別だが、年金を増やすことは考えるべき。チョット前まで行っていた年金で箱モノ施設を造るようなバカはしないことです。
- ・利潤だけを求めるべきでない
- ・国民の理解を深めていくことが大切だと思う
- ・運用益を重視しながら
- ・第一の目的は老後に受けとる年金確保の為だから、コーポレートガバナンスを考慮したために年金確保が困難になるのなら止めるべきである。
- ・企業にも格差がある。余力のある企業から取り組むべきだ。
- ・年金の運用は、将来のための資金の確保重要だが、国民の生活を豊かにするための取り組みも必要と思うから。
- ・将来を考えて考慮していくべきだと思います。
- ・いろんな意味で資金は社会の中で運用し回すことによって活性化する。
- ・確実におねがいします。
- ・社会と無関係でいられるはずがなく、社会の健全な発展が結果的に個人委帰結してくる。
- ・公的年金の運用先は社会貢献をどの程度しているかも考慮して長期的観点で闘志をすべきではと考えている。
- ・多くの企業が取り組んでこそレベルアップに繋がっていくと思う。
- ・慎重に考慮して対応してみたいから
- ・国民全体の問題は公私にかかわらず取り組むべきだが性急はよくない。
- ・これから年金生活者が確実に増えていくので投資して利益の獲得と留保は必要だとおもう。
- ・企業発展と社会発展共に実施して欲しい。
- ・日本の企業が中国等と違って ESG 投資に叙々にシフトしていけば、将来その差はおおきくなる。
- ・極端な資金運用はしないほうがよい
- ・安定した年金額の支給を実施するために必要である。
- ・優良企業を増やすことによって、労働環境の改善につながり、年金参加者の増加につながると思う。
- ・これらへの投資は将来的には有利な運用ができると思うから
- ・徐々に進めたほうが安全と思う
- ・環境に配慮した行動が大事である
- ・現在は純粋に投資優先で、E S G 投資を徐々に進めれば、将来はE S G 投資でよくなる

のが理想と考えます

- ・地球環境は子孫のために残すべきだ。壊れかけて来ている地球環境の殆んどは企業の責任である。
- ・年金資金を維持する努力は必要
- ・企業は人であり、人は企業である。
- ・社会あつての企業である
- ・急激にではなく状況を見た上での取り組みをすべきで、一気ではリスクが高く緩やかに取り組むべき。
- ・利益がでますように…
- ・環境に配慮している企業に投資することは、人間がこれから長く地球にすむには、避けられない問題で、それらの企業が今後発展・成長することは、大いにありうることで、結果的には、年金資金の増加に繋がるのではないか・・・？。
- ・現実的日銀の現在の方針を是正すべく見識者の意見を反映すべきと思います・・・
- ・年金資金の運用は、投機的投資を避けて安全着実な投資をすべきであり、ESGの観点だけでなく企業実態を総合的に判断すべきと思う。
- ・現状がよくわかりませんが、取り組むことは必要と思います。
- ・仕組みは徐々に変化する物なので、髪振り乱して取り組んでもあまり意味が無い。
- ・安定した年金制度の確立
- ・年金の安定化との兼ね合いがあるので
- ・全員の幸せを考えればよい方策。

2-12 70歳以上女性

- ・機関投資家の中には、年金や生保などのような長期運用型と投信などのような短期運用型の二種類あり。何れも、これまで、株主総会での議決権行使は、現在の経営陣に丸投げで、経営陣の不正防止や社員の過労死及び無茶苦茶なM&Aなどには、全く、無関心。従って、急激な改革に必要な機関投資家側のマンパワーが、絶対的に不足しているので、徐々に取り組むことが、ベターでなくベストと思う。
- ・年金の受給者も少なくなるのでどこかで投資すべき
- ・利益とコーポレートガバナンスの両立が望ましいが、社会全体を考えると誰しもその一員あるので、個々の利益より社会全体のしんてんがのぞましいので
- ・急の充実が無理とはしても取り組みを進めてほしい
- ・今後とも環境保全に取り組んでいただきたい
- ・急に進めることは問題が起こりそう。
- ・現状の運営では最悪のが予想される
- ・未来を見据えて投資すべき
- ・国の財政も厳しいので仕方がない
- ・年金の運用は、良い悪いの結果が後でないと分からないことが多いと思いますのでとても難かしいとおもいますが、堅実な方法だと思います

- ・企業のマナーとして。
- ・社会の仕組みを総合的に判断すべきと思うから
- ・折角なら意義ある活用が良い。
- ・全体の流れを見ながら検討していく。
- ・そうしないと年金が無くなる
- ・やはり必要な事だと思う。
- ・将来の支払いに支障をきたさない程度にとどめて欲しい。
- ・社会全体のためになることであるから
- ・より良い社会にしていくためには必要だ
- ・投資をし利益を稼ぐが良い
- ・よくわからないがそうしなければ何も変わらないと思う
- ・従来通りのままで良い
- ・地球規模の環境問題は一度に解決できないので、少しずつでも取り組んでほしい。
- ・急激な変化は好ましくないから。
- ・環境基準に沿った取り組みは最小限に
- ・公的年金の運用実績がよく見えない。透明性を強化した形で運用改善に取り組むべき
- ・それでもリスクが大きければ、止めることも検討に必ず、明記しておくべき、いい加減に公的資金を流用することも考える必要がある。
- ・効果や影響を確かめながら行う方が良いので。
- ・環境問題はこれからの課題
- ・高齢化が進む中において年金の支払いは増えていくと思う。危険もあると思うので心配するけど投資に散り組むのは仕方ないことだと思う
- ・持続的社会の形成には必要
- ・年金資金をどのようにすべきかよく理解できない
- ・慎重にして欲しい
- ・先々のことを考えていかないといけないと思うので
- ・年金資金が破たんしないようにと思うから
- ・今後の社会資本整備
- ・今のままではよくないから
- ・みんなのお金なので少しでもよい社会にしていきたいです
- ・将来の景気、社会の変化に合わせて
- ・企業年金の運用を期待している
- ・その代わりしっかりとの方針の上に立って運用しないと大変なことになると思う
- ・年金資金は運用益を上げるべきで、コーポレートガバナンスをある程度考慮すべきと思うから。
- ・慎重にするべき
- ・年金の原資を確保するために必要
- ・少しでも社会の役に立つように

- ・この世の中はみんなで成り立っているから。
- ・企業理念が良ければ安定していると思うので
- ・年金の財源を少しでも増やすべきだ
- ・将来の生活環境のため
- ・過去に箱物で苦い経験があるはず。幅広くみて進めるべき
- ・株に左右される
- ・国民全体で協力しながら推し進めるべきだ。
- ・住みやすい世の中になる
- ・損失が発生しなければ、問題ないと思う
- ・参加していないところがあるから
- ・企業年金に加入しています。
- ・環境を守りたい
- ・年金資金もじり貧にならない様に、増やす方向に行くべきだと思う。
- ・やはり、年金はまず支払いの対象となる人への還元を第一に、次にその内容の充実を考えるべきだから。
- ・難しいことなので 慎重に
- ・環境が良くなることには賛成です。
- ・投資してほしい

3 「否定はしないが、控えめでよい」と回答した者

3-1 20 歳台男性

- ・よくわからないけど、役立つなら良いと思う
- ・リスクもあるので
- ・可能性があるなら実現すべき
- ・結果次第である。
- ・賛成派を大事に
- ・gpif の赤字のニュースを聞いたことがあるから。
- ・急激に投資が行われると不安
- ・今は年金財源も厳しいので様子見てやったら良いかなと考えてます。
- ・間違いのない、低利率でもいい安全な運用をお願いしたい
- ・公的年金が民間に口をだすのがいいのか迷ってしまう
- ・いいとおもった
- ・そればかり意識して本業がおろそかになりそうだから
- ・投資という言葉にいいイメージがないので関わりたくないが、年金資金が足りないのはわかっているので、増やす努力は必要だと思う
- ・過去に失敗したことを隠したことがあったから、正直に可視化、透明化をすることが条件になる。

- ・年金の新たな対策案について期待できるはずがないから。
- ・仮に大幅な利益が出てもギャンブルのように感じる
- ・投資は必ずリスクが伴うのは必然であり、儲けるがあれば損をするのは当然だから控えるが最善と思ったからです。
- ・運用すること自体が目的にならず、もうけを出すことを第一にしたうえで、考慮するとよい
- ・正直自分が豊かに暮らせればそれで良いから
- ・どんなリスクを負ったり、デメリットが生じるかをきちんと検討していない限りは積極的に行うべきではないから。
- ・私たちの生活が全く豊かにならないから。
- ・年金の投資というのがあまりピンとこないので、不安のほうが大きい。
- ・環境への配慮は大切だが、運用実績が最優先であり、その影響を考えるべき。また企業は営利追求の組織であり、その行動は企業の意思に基づくべき。政府が口出すべきではない。やるならば税の軽減など経済的なインセンティブを与えるなどはよいが、やらないことによるペナルティなどを与えるのは賛同できない。
- ・もっと分かりやすくしてほしい

3-2 20 歳台女性

- ・社会的に悪いことではないと思うので、否定しない。
- ・リスクがありそうだから
- ・慎重にすべき
- ・反対ではないがあまりいいとは思わないから
- ・ある程度の投資は必要だと思うから。貯金の保険にもなりそう
- ・いいことなのか良くわからないから
- ・自分の自由に選びたいから
- ・危ない
- ・将来、かけた年金がきっちり支払われるのなら、その資金源が何であっててもかまわない
- ・投資は元本を回収できない可能性がある
- ・メリット、デメリットが私の中でハッキリしていないのと、どれくらい利益につながるのかわからない
- ・リスクがあるから
- ・あまり成功する気がしないから
- ・ESG 投資でどのような利益が得られるか分からないから。
- ・ただでさえ労働者層が減っていき、将来年金がもらえなくなるといわれているし、ブラック企業も山ほどはびこっているのに、そんな余力はない
- ・今後の展望がわからないから
- ・まずは様子を見ながら行うのが適当だと感じたので。
- ・慎重であるべきだと思うから

- ・コーポレート・ガバナンスに対しての知識がないので憶測での理由になりますが、投資する価値があり、成長の見込みがみられる企業にのみ投資すべきだと思います。
- ・基準だからしかたないのかもしれないが自営業の妻は一緒に働いてなくても働いてるとみなされ負担が多すぎて生活していけない。投資なんてしている余裕もないし、この先もらえるかわからないのに不安でいっぱいだ。
- ・若い年代はあれこれ考えている余裕が無い気がするため
- ・これから深く勉強していつからでないと何とも言えない
- ・年金に未来はないと思っているから。
- ・まずは払ってきたぶんを確実に還元してほしい
- ・使い道が不透明な気がする

3-3 30 歳台男性

- ・年金本来の意義が第一。余裕があれば色々やってもよい
- ・将来性がわからない
- ・それぞれの企業に事情があると思うから投資についてはそこばかりに注目するのは違う気がするから。
- ・公私を分けるべき
- ・損がないように
- ・投資はリスクがある
- ・深入りする必要性は無いと感じるから。
- ・元本割れの結果では元も子もないから
- ・積極的にやっても、ろくなことがないと思う。
- ・まだ投資についてはよくわかっておらず、よく勉強した上で運用していった方がよいと思ったから。
- ・リスクがあると思うので 慎重に 行ってほしい。
- ・少なからずリスクがあり、リスクに対する責任を取らないから。
- ・支障のでない範囲内だったらあっても良いと思う
- ・リスク
- ・制度がわかりにくいから
- ・企業としての製品への追及も必要だから
- ・年金制度が破たんしている中で、将来受け取れるか分からないのに、また、まともに運用もできないのに新たに投資するのは危険性がある
- ・社会正義というあいまいな価値観、二酸化炭素という宗教
- ・プラスになるなら文句はない。
- ・実際によくわからないから
- ・ほどほどがよい
- ・そこまでの余裕があるとは思えない
- ・投資における企業の評価は業績によってされるべきであり、法を犯しているのでなけれ

ばそれ以外の部分はあまり気にしない。

- ・あまり理解していないが、よくなるのであればそれでいいのではないと思う。
- ・年金に頼らない生活を目指す。
- ・どのような仕組みなのかよくわからないので慎重にいつてほしいから。
- ・それをして目減りするような事があればそれこそ本末転倒であるので
- ・最優先されるべきは若者世代の受給確保です
- ・そこまで賄える長期的な展望、試算が出ているのならやってみてもいいと思うが、急いでやるべきだとは思わないから
- ・無理せずに
- ・利益を確保するのが第一なので
- ・リスクをなるべく避けては欲しいから
- ・安定したのがいい
- ・正直、中身がよくわかってはいないが、自分の年金は自分の為だけにフルに使用してほしい。環境問題等も大事なかもしれないが、悪い環境ならそれなりに、金があれば個人での対策もできるとおもう。
- ・基本中の基本として投資は「利益」を追求するもの。個人的な投資であれば「応援」という思いが入ってよいと思うが、年金資金の投資は利益が出なくては投資の意味がない。すなわちCSRやコーポレートガバナンスというよりも利益の見込める企業・団体への投資を行うべき。(法令遵守という観点では、守って当たり前のことなのだから各社それほど大きな差はない＝それが判断材料とはならない。)
- ・とにかく景気が豊かになれば
- ・なくなる可能性がある
- ・年金制度を維持するための運用して欲しい
- ・多少は増減があったほうがいい
- ・それで得られる利益減らさないで
- ・上手くいけば良いがそうでないリスク管理も考えなアカン
- ・本来の投資に資金が回らないのはあまり関心をしないので
- ・必要に応じて対応していくべきである
- ・年金資金はそういった目的に利用されるべきものではないと強く思うから
- ・あまり損益がでないほうが良いと思うから
- ・運用益がどのようになるか分からないため、一部の投資で様子を見たほうが良いと思う
- ・社会も企業も転換点にあるし、そもそも資本主義の仕組みの限界が見えていて格差社会が解消されないから。
- ・リスクをあまり負いたくない

3-4 30 歳台女性

- ・あまり欲がない
- ・詳細がよく分からないから。

- ・投資もギャンブルの1つだと思っているから。
- ・ESG投資を行うことで、実際にもらう年金の額が減額するリスクが否めないの
- ・話がとても難しいので、もっとわかりやすく社会に知られていけばもっと肯定的にとらえられる
- ・年金は年金であるべきだと思う。
- ・保証がないから
- ・ただでさえ将来、年金が貰えるかもわからないので、払ってること事態もうやめたいと思っている人が多い現実。
- ・投資の失敗で損益が出てしまうことで、年金額に影響が出てしまうかもしれないから
- ・企業の活動は各企業の利益内すべき。企業ばかりが日本の年金資金から旨味を得ていると感じてしまう
- ・よくわからないので、うまくやってほしい
- ・損をする可能性があるのでも投資は控えめでいい
- ・急がずに慎重にするのが良い
- ・運用に失敗することがあるかもしれないので、投資には充ててほしくないと思うから。
- ・どうなるかわからないから
- ・運用益が出ればいいが、損失が出ていることが多いイメージなので、あまり積極的に運用されたくない。
- ・色々と変えていくことは大事だと思うが、不安もある。
- ・年金が確実に支払われることが優先であり、経済は乱高下するものだからイメージでられるべきではないから
- ・時間の余裕がない
- ・リスクに関しても考えるべきだ
- ・あくまで年金なので、慎重に運用して欲しい。
- ・確実に年金を貰えるようにしてもらえればそれで良いと思っているから
- ・事実がどうなのかが判らない世の中だから。
- ・リスクがあるので
- ・事実をそんなに知る必要がない
- ・する意味があまりないような気もするので
- ・制度の認知度がまだ、低いと思うので、判断できる段階ではなく　まずは周知させる事が、先決だと思ったからです。
- ・きっと自分にリターンはないと思うから投資するくらいなら、その分割り引いてほしい
- ・実績が悪すぎるので、、
- ・投資を募るがために巧妙に作られた資料が増えそうだし、それを見抜くのは難しそうだから。
- ・いきなり変えるとトラブルがおこりそう
- ・リスクがあるから。
- ・自分の生活に余裕が欲しいので

- ・ どうすべきかについて、明確な考えを持っていないのでわからない。
- ・ 損失を出されると困る

3-5 40 歳台男性

- ・ 運用益を第一に考えるべき
- ・ 資金を増やせないなら意味がない
- ・ しっかりと、資金を確保しつつ、徐々に取り組んでもらいたい！
- ・ 年金は確実に受け取れるようにしてほしい
- ・ 年金を受給できるかわからない
- ・ 説明が必要だと思う
- ・ リスクを感じるので積極的にはなれません
- ・ すべての ESG 投資が着実なリターンを得られるものとは限らないから。
- ・ 運用益を重視すべきだ
- ・ 現在の年金制度そのものがダメだから
- ・ ベースが膨大な資金であり、かつ、投資先にも様々な事情が存在するので、全体の足並みが揃うまでは、拡充するべきではないと思います。(運用で”損”を出すくらいなら、運用しない方が良い)
- ・ 年金については慎重であるべき。また、大きな流れを作り出すことは株価操作につながると思う
- ・ 現状維持
- ・ 余計な投資になるかも
- ・ そもそも良し悪しを判断できる材料がなく、慎重であるべきと思ったから。
- ・ 国の役人は理論ばかりで、とにかくお金の実用的な運用に疎いから。
- ・ 公的資金が民間企業に入るのは特別な場合だけで良いと思うから
- ・ ESG 投資をする際に、誰がどのように評価するなどの指標などがまだちゃんと整備されていない気がするので、いまの段階では上記の答えになります。
- ・ 利益優先で行うべき
- ・ 大企業ならさんせい
- ・ 話が難しい
- ・ 将来的な不安要素が伴うので、控えめで良いと思う
- ・ どのように投資をしても、年金受給年齢が引き上げられている現状では自分に返ってくることはない。
- ・ 一つの事に偏るのは良くない
- ・ 株価
- ・ 確実な安定か乏しい
- ・ 利益重視
- ・ 財政の状況を予測することも難しく、不確実な時代になると考えられるため。
- ・ 経済は大切だが生活環境が劣悪では幸せとはいえない

- ・減らさないことを第一優先にすべき。
- ・きれいごとばかりでは、外資系ファンドのいいカモにされるので
- ・公的なものなので安定運用が最優先
- ・損したら困るから
- ・個人の財産になるので受け取るときに減少することだけは避けたい。コーポレートガバナンスに考慮した投資で、受け取るときに資金が増えるのだったらよいが、コーポレートガバナンスの考慮にこだわりすぎた投資はよくない。個人が財産を形成するうえで個人にメリットがあるのが一番の選択である。
- ・まずは、様子見で控えめに。
- ・損失があまり出なければよい

3-6 40 歳台女性

- ・損失のリスクはない方がよい
- ・公的年金保険が不安定なので
- ・どんな結果になるかまだわからないところもあるので
- ・投資として集められた金ではないから
- ・それで運用に失敗したら、元も子もないので、慎重にした方が、良いと思う。
- ・人口減少の中、自分や子どもや孫世代のことを考えると、選択肢の一つではあるが、年金と基本理念は大切にしてほしい。
- ・政府が信用ならない自分たちのものでないから責任感がない
- ・損することもあるから
- ・最終的に個人に還元されるのであればよいと思う
- ・どれだけ損失がでるかかわからないので。今の景気では儲かると思えない
- ・理念は素晴らしいが、実際は、年金を使用するので、他の財源を当ててほしいと思ってしまう。
- ・リスクが大きい
- ・将来の年金が少なくなりさう
- ・E S Gと呼ばれている部分は企業に必要な倫理観だしそのような企業は長い目で見れば安定していくと思うけど、今の年金事情はそんな悠長な話でなく、すぐにすごく利益を出さないとならないはず。企業の内容の前に長年年金の運用で失敗してきた埋められてない穴を少々汚い手でも埋められなければそんな無能な機関はつぶすべき。
- ・どうなるかわからないから
- ・年金は個人の貯金のように思っているので、ESG は好ましいが、生活も苦しいので、ほどほどにして欲しい。
- ・E S G投資は、環境保護や企業倫理の意識を高めるので良いと思うが、金融市場への影響が分からない。
- ・年金が目減りするようなことはしてほしくない
- ・運用する人に信用がない

- ・具体的にどういう風に投資の結果が出るのか浸透してからでないと理解を得にくい
- ・年金が返ってこないか心配
- ・損失額のほうが多かったら元も子もないです
- ・天下りの巣窟を作りそうだから
- ・年金資金は運用益をあげることを重視してもらいたい。
- ・した方がいいのでは
- ・急に進めたりすると反発があるし一過性の動きになりそうだから、
- ・もしかすると、年金で苦勞しなくて済むかもと希望を抱きたいから
- ・どのようにしても、将来的に貰えるお金は減っていくから
- ・行きすぎない程度に取り組んでほしい。
- ・今までの結果どうこれからの見通しを併せて考えるとマイナスでしかないと思うから
- ・個人の希望を聞いた方がいい
- ・まあ、興味があるから。
- ・納めた年金が確実に受け取れば良い
- ・企業が業績を維持するだけでも大変な時代なので、ESG 投資は理想論に思える
- ・行動は慎重にすべきであり、結果が不明な以上、控えめで修正をかけられるようにすべきである
- ・投資については慎重になったほうが良いと考えるから。
- ・臨機応変に
- ・将来性が不安定
- ・原資が保証されないかもしれないので
- ・積立金を投資に使うと聞くと何か怖さがある
- ・先が読めない
- ・今よりも住みやすい環境や社会に生きてみたいという憧れもある。
- ・とにかく将来が豊かになるようにしてほしい
- ・自分が払ってる年金の一部が投資に充てられてることが疑問。
- ・損をしないことが最優先
- ・「投資」というものは安全でなさそうだから。
- ・年金は私たちのお金ですので、勝手に使わないで欲しい。
- ・安易に投資して失敗し、受け取る年金が減っては困る
- ・大きな変化は求めているから
- ・失敗の無い投資があるの？
- ・年金の運用は安全な投資のみしてほしいと思うので

3-7 50 歳台男性

- ・損するから
- ・あまり経済の動きを特定の何かがコントロールするのは歓迎しない。

- ・年金の資金は年金での生活をあてにしている国民にとってとても重要なものであるから取り扱いには慎重であるべきだ。しかし、反社会的企業には協力してほしくない。
- ・詳細が分からない。
- ・財源が問題
- ・企業の発展性や収益力、内容が重要であり、企業姿勢が伴っているに越したことはないが、競争力がなければ潰れてしまうので、そこを注視して投資はするべきだ。
- ・投資のことがよくわからないけど、確実に増やせるならやったほうがいい
- ・企業は純利益を活用すべき
- ・ESGを意識しすぎて運用益が出なくなるとは意味がないから
- ・年金資金の投資は客観的にわかりやすい、評価がしやすいことが重要だと思う
- ・国民の賛同を得るには、目先の良好な投資成績が必要だと思うから
- ・年金資金による投資は、年金の確実な支払いを目的にするものであり、一番は資金を増やす事が大切であり、ESG投資は考慮する必要は無い。
- ・年金は確実に保証されるべきものでなければ意味が無いが投資は所謂博打の様なものなので確実にプラスになれば良いがリスクを伴う物なのでその手の物に利用すべきでは無いと考える
- ・基本的には運用成績を第一に考えるべき。ただでさえ大きな資金で運用利益を上げることは難しいので投資先にあまり枷をはめない方がよい。
- ・無理が生じない程度
- ・安全面
- ・esg投資に必要性を感じない。労働をリタイアした後に受給する年金では、預貯金を含めて、生活に必要な年金が支給されるように平滑すべきだと考えている。
- ・リスクが低い方がよい
- ・大きなリスクを負うのは危険
- ・時自分の視点が経営側である
- ・無駄の多い投資をしすぎているから。
- ・環境や社会を考えることも大事だが、年金資金の運用については失敗することは出来ないで利益を一番に考えて欲しいから。
- ・損失が少ないように
- ・年金本来部分を確実にしてほしい
- ・見返りが無い
- ・ゆとりがあれば
- ・理想であり総論では賛成だが、実際に実施するだけの体力、経営力のある企業がどれだけあるか疑問。何とか従業員の給与を払うので精一杯の企業が日本の経済を支えており現状を鑑みると。。。掛け声だけになってしまっているのでは？
- ・年金制度維持に不安を感じる
- ・投資基準が明確でない

- ・資金に余裕があれば上記の考え方も成り立つが、一般的には余程のことが無い限り収益性が優先される
- ・年金のための資本であることが基本である
- ・生活が苦しい
- ・運用して利益が出る事が第一である
- ・元本割れ
- ・個人の資産でもあるので、そこそこでいい。
- ・分かりにくい
- ・失敗しそうだ
- ・特に魅力を感じたりはしない
- ・投資による運用で利益がでることが必須だと思っている「

3-8 50 歳台女性

- ・ムダにばらまくような政治的な使い方をしてほしくない。
- ・基本的に信用していない。今までの事があり、信用できない。
- ・深く理解出来ないから。
- ・ESG 投資に特化して本来あるべきものが後回しになりそう。
- ・年金が貯金でないのはわかるが 資産運用で社会生活向上に利用するよりグリーンピア等の失敗例を鑑みると 通常の預貯金のほうが良いと素人は思う
- ・投資しすぎて 本来の目的が 失われては困るから
- ・従業員の利益にそった運用を
- ・投資は結局ギャンブルだ
- ・損をすると、困る
- ・年金を確実に運用してほしい。蓄えること
- ・慎重に行ってほしい
- ・よい
- ・失敗した時が心配。
- ・余裕があればいいとは思いますが
- ・年金はいずれ退職した人、高齢者がこれからの生活に欠かせない資金なので少なくなることは極力避けて欲しいです。
- ・マイナスになる可能性があるから
- ・あまり、詳しく 理解できないので 控えめ位が、良いのかしら？って思います。
- ・そもそも個人の支払った年金を投資に使うべきではない
- ・原資を減らしてまでは必要ないあくまでも預かり金の金銭感覚が必要
- ・年金等は。運用すべきではない
- ・今後の日本企業に期待が出来ない。
- ・不安なことはしないでほしい
- ・投資をして利益が出なければ、年金支給の金額に影響があると思うので

- ・無駄遣いしてほしくない
- ・長い目でみて、損益を出さないのが大事だと思うので。
- ・年金額が減ることを避けたいから
- ・丸っきりのリスクは無いとはいえないから
- ・大切な年金です。よりよい使われ方が良いですね。
- ・投資は成功すれば良いのですが、失敗すると悲惨ですから
- ・急に手放すと株価に影響が出る ぼちぼち数量を減らして 少しだけ運用する
- ・運用について失敗事例をよく聞くから
- ・地球のみらいにとって環境問題は大切なことなので。
- ・損をしたらだめだから。
- ・将来受け取ることができる年金額ひ不安がある状態では、反発の方が大きく懸念される
- ・大きく増えなくとも確実性を大事にしてほしい
- ・前回の長きにわたった自民党政権中に、黒字だった年金を運用ミスで無くされてしまった悔しさはずっと忘れられず、誰も責任を追及されない現状に激しく憤っている。理念は分かるが、二の舞が心配だから。
- ・個人的に少しでも受けとる額が減ると不安
- ・内容がよくわからないから
- ・国民年金運用で赤字を出した。昔も今も国民のためにとか言いつつ公共事業の資金にせているのは許されない。だから、本来の目的に沿った運用だけにして運用割合を増やしてほしいから
- ・年金は慎重に運用してほしい
- ・そのような余裕はあまりないのではないかと思うから。
- ・年金の財源を守ってほしいから
- ・年金の運用は慎重にすべき
- ・キチンと運用されるか疑問
- ・投資と環境や社会を良くすることは別の問題だと思うので、慎重に投資して欲しいです。
- ・まずは年金の安定運用を考えてほしい。
- ・リスクが心配。
- ・投資より先に本当に資金がないのか、それは高齢者が増えたせいなのか疑問だから明快にしてほしい
- ・リスクもあるので
- ・賛否両論ありそうだから
- ・投資なので必ず成功するとは限らないところが不安
- ・日本での老後生活への公的補助が拡大または充実しないのであれば公的年金部分においては ESG 投資よりも将来の受取額が上がるようなものへの投資をしてほしいと思う。
- ・リスクが無い方がよい

3-9 60 歳台男性

- ・年金原資を投資運用に頼るのは十分な注意が必要である。
- ・企業年金はあくまで利益実績重視でその実績で年金が大幅に減るようでは年金自給者にとっては困る
- ・将来にわたり年金支給が安定かつ確実に行われることを優先すべきと考えるので
- ・年金の運用は慎重にするべきで投資することには反対
- ・公的年金を投入することのリスク 責任があいまい。
- ・楽しむこと
- ・年金資金と企業への投資問題は切り離して考えるべき。政府が無駄な投資を止めて行う事が望ましい。
- ・マイナス面もあるから
- ・利回りが確保されなければ意味がない
- ・リスクマネジメントに不信感がある
- ・老後の大切な資金 失敗は許せない。無責任体質では済まされない。かかわった有識者に謝罪ではなく 財産没収とか有益な責任を取る。只謝るだけならだれでもできる。覚悟を持つ人こそ有識者では・・・
- ・運用は政策ではなく利回り（投資効果）で見るべき。
- ・株式投資は増減が著しいので
- ・利益最優先だから
- ・投資である限り必ず、リスクが伴う。従って控えめであるべきと考える。
- ・運用失敗が心配
- ・個人の対応を重視すべき
- ・公的年金は、運用リスクを極力避けて年金原資にのみ充てるべきと考える。
- ・年金に頼らず、別の方法を考えるべき。
- ・他に、もっと必要な事があると思う
- ・将来確実に年金として回収したい
- ・リスク回避(慎重派)

3-10 60 歳台女性

- ・年金を投資するのは良くないと思う
- ・先の事はわからない事なので、様子を見ながら段階的に行うべきだ
- ・年金は個人のものであり、ESG 投資は関係ない。
- ・毎月納め続けてきた年金と、環境保護という題目での拠出は別のもので相容れない
- ・損失も考えてほしい
- ・どれに投資をするにしても成功例より損失を出すことのほうが多いのではないかと思う。
- ・運用益があれば良いが、損失が出ると困る。
- ・自分達の年金を老後安心に暮らせる為の投資にしてほしい
- ・将来が約束できない不安定さの中にあるから
- ・投資の失敗をだれが責任を負うのかわからない

- ・現状ではよくわからない
- ・低金利時代なので先行き不安は分かるが、どれぐらいの比率で投資に回すのかよく分からないし危険なことはしないほうがよい。
- ・不安の方が強い
- ・世界の先進国は一握りで、経済規模の大きい中国でさえも、ESG 投資には後ろ向けに見える中、ESG 投資の効果が表れるのは限定的で、道のりはかなり遠い。急進的に勧めると大きな損失に結び付く可能背が高い。理想どおりにはいかない現実を無視した投資は失敗する可能性が高いから、控えめに勧めたほうが良い。
- ・今でさえ支給額の少ない年金が、正当に運用されてるとは思えない透明性のない計画がどこまで我々のプラスになるのか疑問がある
- ・大きな損失は困る
- ・利益が減少する
- ・出来ればリスクは避けるべき、泣くのは下層部だから。日本人は正当な労働で企てながら堅実に資産を増やすのが最適だと思います。
- ・年金受給金が少ないものにとってはそう思う。
- ・年金資金は投資によって減るようなことはあってはならない。
- ・将来がどのように変化していくのか不明なので、積極的に出来ない
- ・年金は将来を担う大事なお金だから、投資に使うべきではない。
- ・リスクの高い投資は避けるべき
- ・年金の運用は確実なものにして頂きたい
- ・年金システムがすでに破たんしているので、根本的な制度改革が必要。
- ・先々支払いが困らない取り組みを考えていくべき
- ・投資にはリスクが伴うので慎重に。
- ・投資して、元本割れで年金が払えないようなら、本末転倒。
- ・失敗しても誰も責任を取らないので
- ・損する場合があるから
- ・運用による失敗がこわい。
- ・積み立てている年金を投資するのは、増えるという確実性がなく、リスクを伴うのでやや不安を感じる。
- ・投資には常にリスクが伴う。いい時もあるが、逆に大きな損失になる可能性も秘めているから。
- ・利益を出してほしいので あまり固執してほしくない。
- ・国や民間一体となって協力すべきであると思う。
- ・よくわからない、専門家の方が責任もって、賠償するつもりで、行ってほしい。無責任なことはしないでほしい。
- ・本末転倒になるかもしれないかも知れないかも
- ・堅実に年金の還元を増やす努力を希望します。
- ・公的年金が徐々に減りつつあるときに、投資をする余裕があるか疑問なので

- ・今までも年金を投資に充てて多くの損失が出ているので、慎重に控えめに運用してほしい。
- ・株で利益をあげるのは綺麗事ではなく、業績なので。
- ・年金はリタイア後の主たる生活費なので、安心、確実な運用をして欲しい。

3-11 70 歳以上男性

- ・破綻するのが怖いので徐々に。
- ・投資はリスクがあるので、控えめにした方がよい
- ・あまり期待できないと思うので
- ・投資による利益と損失を深く考慮すべきだ
- ・損失が出ない程度に
- ・そもそも年金資金は投資すべきではない
- ・過去は失敗していると思うから
- ・現状の政府のやり方(政治目的で株式投資優先で増やしすぎ)に賛成出来ないので、株式投資そのものを減らしてほしいので
- ・資産の安全も考慮して運用すべき
- ・投資は損失をださない事が重要なので企業の安定性が重要だと思う
- ・傾斜しすぎは良くない
- ・年金を ESG 投資することは積極的に賛成はできないが、ESG 投資に積極的な企業は結果として業績の向上に結びつくので徐々に投資すべき。
- ・良い社会環境促進に役立つが第 2 義的なことであることを考慮
- ・年金の原資になるものは、極力リスクを避けることが必要だ。
- ・将来のことは軽率に判断できないため。
- ・まずは年金の運用を安定させる事が第一で、ESG はその先だと思う。
- ・年金資金は退職者の生活を支える資金なので、運用利益が生まれる範囲内で ESG 投資を考慮すべきと思う
- ・控えめでよい
- ・今の若者の将来を考慮してためになるように運用すべきだと思う
- ・高齢化社会、納める人より、貰う人が増えているのだから、そこを考慮した制度にしなければダメと思う。
- ・原（元）資の減少がない方法で。ノーリスク！ ハイリターン！のみ
- ・安全第一に投資を考えてください
- ・マイナスならない範囲であれば OK
- ・経済の変化が不透明な時代なので。
- ・ほどほどが収まりよい
- ・年金財政は確実に増加させるよう積極的に努力すべきである。
- ・積極的ではなく、機会を見て行うべきだ。
- ・受給者を第一に投資すべきと考える

- ・年金資金は負担者のもので、政府やその息のかかったものに運用させるのは好ましくない
- ・安全を重視すべき
- ・個人のお金を集めたものなので
- ・高配当、ハイリスクを選ぶべきでないが？
- ・年金の安定支給が図れない状況が起こりうることを考えれば無理なことはしないこと

3-12 70 歳以上女性

- ・年金受給者がふえそれを支える若い人の負担が増えるので少しでもその負担を少なくするためにも ESG 投資も必要なのかもしれない。
- ・投資も考慮しなければいけない時代だと思うから。
- ・損益が心配
- ・確実に運用していくべきだと思うから
- ・あまり使うべきでわない
- ・今がいっぱいです。
- ・損失を出さないように 注意を払うべき
- ・投資は必ず損失があるから。
- ・投資はリスクもあるので 1 部にしてほしい
- ・支払資金に不安がないように
- ・年金支給時に、支給額に支障がないように。
- ・損失が出るのが心配です。
- ・ロウリスク、ロウリターンで。
- ・投資することにより、回転メリットを明確にしてほしい。
- ・損益を出さないように
- ・安定性が解らない
- ・年金が減額する可能性が考えられるから
- ・多くは知らないが無理はしないほうがよい
- ・過去に損失をだしているから
- ・運用事体疑念持つ
- ・今迄の運営に疑問が有り、先行き不安な中で新たな運営をして原資を減らす必要が有るのか？
- ・環境や社会がよくなないとこれからの日本自体も危ういと思うから。
- ・年金は長期に渡る積立なので、治めた人が受け取る時期になって貨幣価値が下がっていたら、役にたたない。環境問題に取り組むのは企業の責任です。
- ・一部の団体に任せきりで不正が多々ある。自分の将来は個々で責任を持つべきと思う。
- ・年金の積立金は投資に使うべきではない
- ・年金を確実に受給したいから。
- ・年金の運用は慎重であるべき

- ・年金はリスクの少ない運用第一
- ・投資は不安定であるので
- ・あまり判断は正確にできない
- ・リタイア後の年金は生活の原資だからそのための運用を優先すべき。
- ・安全運転を望む
- ・積極的にガバナンスを考慮した投資は控えたほうが安心である。
- ・年金受給ができなくなることを避けたいから
- ・投資は利回り等に検定して運用すべきと思うから。
- ・年金の大本を博打のような投機に投入するのは控えめにしたい。
- ・大きく投資して大きく損をしても困るので
- ・株式で利益を上げれるのはコーポレートガバナンスを考慮することとは関係ない
- ・あまり急ぐ必要は無い。
- ・どうなるか良くわからない
- ・利益が得られなくなるようなら不安だから突出しないで投資して欲しい。
- ・私にはあまり関係が無いのでどちらでもいい
- ・理想的ではあるが、実績が伴わなければ元も子もない。安全な運用を目指すべき。
- ・利益を出してもらわないと困るので そればかりにこだわってほしくない
- ・やはり老後に備えて積み立てたものなので、元金は残してほしいです。
- ・リスクを負うのは避けるべき。
- ・社会情勢で変わるから、慎重にすべきだと思う
- ・投資というリスクもあるのでは？と思うから
- ・企業に与える影響を考えて
- ・あまり危険なことはしてほしくない
- ・投資については慎重にしてほしい
- ・公的年金では足りないので
- ・本当にどうすればいいのか良く分かりません。
- ・公務員政治家は民間レベルの年金にすべき
- ・年金資金を投資他には慎重に
- ・慎重によく考えてしてほしい
- ・将来のことが見えないので積極的には言えない
- ・考慮の仕方にもいろいろあると思うので何が適当かよくわからない。
- ・受給金額に不安がある
- ・年金資金は利益を重視しなければならない。
- ・変動があることと、世界の動きが読めない時代なので、慎重にすべきだと思う。
- ・ESG は国に任せてあくまでも受給者に全て還元すべき
- ・内容がよくわからないから
- ・良い時もあれば悪い時もあるので
- ・権利と平等性から言うと慎重にすべき

4 「必要ない」と回答した者

4-1 20 歳台男性

- ・そこまで重要に感じない
- ・ただでさえ、少子高齢化なんだから、自分たちが将来もらえる年金が減るのはごめんだね。
- ・まぎらわしいから
- ・投資にはリスクが有る
- ・支払原資になるので利益が出る企業に投資するべきだ
- ・投資はしてほしくないから
- ・おかねがもったいない
- ・投資しても何も役に立たないと思います
- ・リスクがある以上すべきでない
- ・必要ないだろうから
- ・年金に手をつける前に、財政出動によりデフレ脱却をすることのほうが優先されるべき

4-2 20 歳台女性

- ・そもそも年金制度で、若い世代の年金が賄えない状況に見えるのに、他に回す余裕があるのか甚だ疑問
- ・企業は企業自身で積み立てをし、周りに頼るべきでないと思うから
- ・投資をすることで、将来損が出て、年金に影響はない？
- ・個人に還元すべき
- ・年金は従来目的のためだけに使って欲しいから
- ・投資に対する効果がよくわからない

4-3 30 歳台男性

- ・投資にはリスクがある
- ・銀行の真似事でうまくいくほど甘くはない
- ・自己責任にすべきだと思うので
- ・もっと やるべき 対策は沢山あるのではないかと
- ・公的年金はリスクを伴う企業への投資はしてはいけない
- ・環境や社会に配慮していたら、費用がかさんで回らなくなる会社や倒産する会社が増え、結局運用できなくなる可能性があるから。
- ・投資は嫌い
- ・大切な年金を運用する必要ナシ
- ・今の日本のシステムでは公的資金を企業に投資してしまうと悪用した運営をする人がいてそうだから。

4-4 30 歳台女性

- ・余計なことをして年金を減らしてほしくない
- ・支払うばかりで、もらえない可能性が高いから
- ・投資は危険をはらむということにもっと責任をもつべきだ。失敗すれば支給額にも影響が出るのに、投資ありきなのが許せない。
- ・リスクも考えて、控えた方がいいです。
- ・役に立たない
- ・失敗したら取り返しがつかなさそうだから
- ・年々もらえる年金は減らされていくのに訳の分からないことに使われたくない。
- ・投資は良いイメージがないから。
- ・損失が大きすぎて、本当に年金が将来もらえるかわからない状況になっていると思うので。
- ・年金の様にどこかにお金が消えてしまうのは嫌だ
- ・正しく使われていると思えないので、必要ないと思う。
- ・合わない
- ・確実な利益を出さなければ、年金自体が破たんする可能性があることを考慮すべき
- ・投資云々より、そもそも年金制度は必要ないと思う。
- ・運用して損をしたら誰が埋め戻すのか？それが出来ないなら手を付けるべきではない
- ・投資について良いイメージがないから

4-5 40 歳台男性

- ・国民の生活には直接結びつかないと思う為。
- ・利益優先なら必要ない。
- ・年金よりも生活保護費のほうが多くもらえるのはおかしい。投資するなら同額にしてほしい
- ・年金は、きちんと納めた人に渡すべきだ。
- ・結びつけるのはおかしいから
- ・リスクがありそうだから
- ・年金の資金を投資に使うのは危険だと思う。
- ・面倒
- ・損失を極力出さないでもらいたい。一般投資家が参加する市場での運用は必要ないと思うし、邪魔である。
- ・株式投資に反対だから。
- ・年金は手堅く運用すべき
- ・損してるから。
- ・面倒
- ・そのまま

- ・ 個人向けに運用してほしい

4-6 40 歳台女性

- ・ やばそう、もっと違う案をだして
- ・ 取られるばかりで年金がもらえるかわからないのに、元手が減るかもしれないことには使ってほしくない
- ・ 投資をするから失敗する
- ・ 年金は払った本人にすべて還元されるべきである
- ・ 自分の人生が一番
- ・ 投資が悪いとは思いますが、企業だけではなく、個人にも見える投資を考えてほしい
- ・ 投資と聞くと、利権に絡む人間が出てきそうなので嫌だ。
- ・ 利益優先の投資で、先進国のエゴにしか思えない
- ・ 年金でやることではないと思う
- ・ 老後に払った分だけ貰いたい
- ・ 過去の年金の無駄遣いの二の舞をワールドレベルでやらかしそう。ただでさえ非正規雇用が主流化しているのに、根底が危うい。諸刃の剣に見える。
- ・ いない
- ・ よく検討吟味される案件だと思う
- ・ 年金は、投資するための資金ではない。高齢で貧困に苦しむ方たちがいるのだから、投資すべきでないことは明確。
- ・ 老人が増えていって現実には年金の財源が足りてないから。
- ・ よく分からないが、将来受け取る年金が減額されそうな気がして不安だから。
- ・ 無駄
- ・ 余り信用できないため。
- ・ 個人の年金と企業のあり方は関係ない
- ・ 年金をネコババしている官僚や政治家がいる限り信用がない。人のお金を勝手に投資に回さないでほしい。

4-7 50 歳台男性

- ・ 公的年金を不確実な投資に使うべきではない
- ・ 年金資金を政治に使われたくない
- ・ 公的な資金を投資に運用すべきではない
- ・ 民間企業に公的資金を投入すべきではない。
- ・ 投資運用はリスクが大きい
- ・ 安定した運用を期待したい
- ・ どちらでもよい
- ・ 他に投資運用することはない
- ・ 資金は個人に還元されるべき

- ・企業の価値観にはさまざまある。一つの標準に押し込めるようなやり方にならないように。
- ・目減りする。投資はギャンブル。
- ・なんとなくこちらに回ってこない気がする
- ・リスクが大きい
- ・そんな不要なものに、まわす金があれば、年金をうけとるときの額をふやしたりすべきだ
- ・投資はしてほしくない
- ・利も損益も公表してくれない
- ・すべて個人の判断、責任範囲で対処すればよい
- ・投資全般的に見たら良いとは思いますが、国が行う投資には誰が行ったか明確にせず、損失をあたえても知らぬ存ぜぬを貫くので、信用にならないし辞めて欲しい誰が投資を選択して、利益が出たのか損失したのか常に明確にしない以上投資には反対です
- ・止めるべきである
- ・リスクのある運用はしてほしくない
- ・運用に失敗してほしくない
- ・年金は安全性が第一。株は絶対やめるべき。
- ・年金が増える最善の投資をすべき
- ・無駄にしてほしくない
- ・とりあえず益を出すことを最優先でしてほしい
- ・内容が分かりにくいので

4-8 50 歳台女性

- ・年金は個人のもの。
- ・まず被保険者の利益を考えて投資すべき
- ・年金未加入者を先にどうにかするべき
- ・やめてほしい
- ・公的年金や企業年金を後ろ向きの企業に投資するのは、どうも納得がいかない
- ・今までもろくなことにならないから
- ・段々貰える金額が減ってきてるのに払わないといけない金額は減らない。なのに何故投資しないといけないのか?
- ・自己責任である。年寄りの世話にこれ以上公費を利用すべきでは断じてない。
- ・投資は、リスクが高すぎる。
- ・年金資金を使って、投資するべきではない。

4-9 60 歳台男性

- ・人の金でよくできるわ
- ・投資は必ず利益が出る保証がないため

- ・安全性を最重視すべき
- ・うまくいかなかったら困る
- ・年金は利益が上がればよい
- ・リスクが大きい
- ・投資は元本割れの可能性がある、余裕資金で行うもの。
- ・確実性がない
- ・投資でカバーはできない

4-10 60 歳台女性

- ・面倒くさい
- ・年金と EGS 投資は分けて考えるべきです。
- ・これからの、社会情勢は、素人目に、上向きでは無い。国民が、積み立ててきているものは、国民にはっきりと、返還してほしい
- ・リスクをおいたくない
- ・世界情勢が不安定
- ・世の中何が起こるか見通しがわかりにくいので怖い。責任重大。
- ・どれだけポートフォリオを綿密に組んでも実際に損益はわからない。何か起これば国民が路頭に迷うことになる。
- ・運用次第で受取る金額が左右されるのは納得出来ない
- ・使って損をしたら年金はなくなるのでは？というも思っている
- ・年金は投資で運用すべきでない
- ・年金の支給（還元）に重きを置くべき

4-11 70 歳以上男性

- ・信用できない。
- ・私たちは地道に生きています、年金資金やらの公金運用については地道が一番です、まるで賭け事のような運用は絶対にやるべきではありません。寅さんの口癖も地道に生きる!ですよ。
- ・何となく心配
- ・本来的に「個人の金」で有るから、国・企業は勝手にいじるものではない。
- ・政治や経済政策は、理想やイデオロギーで実施すべきでなく、純粹に現実に基づいたリアリティーで行動すべきである。
- ・公的年金をリスクを伴う投資に使うべきでないと思う。
- ・目的が異なる
- ・確実な利益が保証されない
- ・年金は目的外の用途に使用すべきではない。
- ・年金に関係のある企業に投資すべきだと思う

4-12 70 歳以上女性

- ・慎重である。べきだ
- ・わずかの年金が減るようにならないよう運用すべき。平等なのは、年金をかけた金額は必ず返り、+運用によって利益を上げてほしい。
- ・年金資金はあくまでも加入者の為に使うべきです
- ・コーポレートガバナンスコードは日本式ではなく、そのようなものを持ち込む企業は日本においては社会的有用性が低いから
- ・損失がこわい
- ・いいことばかりが続かない
- ・公務員が自分の利益しか考えていないから。
- ・確実さがほしい
- ・投資は必ず利益が上がるとは限らない
- ・年々年金額が下がっていく状況での投資は必要ない
- ・余計な方向に向かわないでほしい
- ・賛同できないから

5 「その他」と回答した者

5-1 20 歳台女性

- ・（「その他」の内容：年金のタイプによる）企業年金で行うことは非常に有益であると考ええる。しかし公的年金についてはあまり積極的に行うべきではないと考える。日々運用の維持の脆弱性が叫ばれ、将来の高齢者に年金を支給できるかどうか危ぶまれている状況で、企業への投資を公的年金で行うことの優先度が高いとは思えない。

5-2 30 歳台男性

- ・（「その他」の内容：企業が成長し続けるなら投資）年金運用は利益を追求するもので、企業を応援するために使うものではない。
- ・（「その他」の内容：その時の状況などによって、柔軟に対応してほしい）基本的に悪いことではないとは思っただけ、そういう方向に固執するのも、全く考慮しないでというのも何か違う気がするから。

5-3 40 歳台女性

- ・（「その他」の内容：どちらとも言えない）何に取り組むにしろ、そもそもの目的である年金の支払いに影響が及ぶような損失は出すべきではない。回収できる根拠がそれなりにあるのならば、否定はしない。根拠がないのであれば、必要ない。

5-4 50 歳台女性

- ・（「その他」の内容：損益が優先）年金基金が損害で解散し受け取りが無くなった。公的

年金等も老後予定しているものであり無くなりましたではすまされない。本来なら ESG は正しいとしても損益に優先するものではない。

- ・（「その他」の内容：投資はまったくわからないし、興味もないが、とにかく損をしないで、年金で安定した生活が送れるようにしてほしい。）私はゆうちょや銀行でコツコツ貯めるタイプの人間なので、投資に関してはまったくわからない。とにかく損をしないようにしてほしい。リスクは冒さないで、安定した資金作りに取り組んでほしい。安定が一番。

5-5 60 歳台男性

- ・（「その他」の内容：年金資産は、中長期的に、安定して増加することが、絶対条件であるため、この条件に適合する中で、最大限 ESG 投資を増やすことを目指せば良いと思う。）
- ・ Q28 のその他で答えたことが、理由です。

5-6 70 歳台男性

- ・（「その他」の内容：個々の考え方がありますが、必ず得することだけは考えず、預けた年金は低利でも確実が良い）その他に記述

6 「わからない」と回答した者

6-1 20 歳台男性

- ・ しっかりとした説明があれば考えは変わる。
- ・ 自分の意見を挟む余地がない領域の話題だから
- ・ 考えたことがないから
- ・ 特にこれといった自分自身の意見はない
- ・ あまり詳しい事情や内容を知らず、今後の世の中の展望もわからないため。
- ・ 投資による効果が何ともいえないが、取り組みの方向自体は決して悪くはないため。
- ・ 全くわからない何がいいのか、悪いのかも
- ・ 年金には期待していない
- ・ 学生には少し難しいです、
- ・ 理解できてないので適当なことは言えない
- ・ 知識がないので
- ・ メリット、デメリットがよく分からない
- ・ 内容がわからない
- ・ 自分の知識不足で回答できない
- ・ 経済状況によって変わるので
- ・ もらう側になったとき、払った分の年金がしっかり戻ってくればよいと思っているため、このメリットデメリットが判断できない。
- ・ 企業の実態に関する情報を全くといっていいほど知らないから。
- ・ 専門的知識がないから

- ・様子見
- ・身近ではないのでわからない
- ・詳しいことがわからない
- ・各企業の具体的な方針がよくわからないから.
- ・自分に知識がないから
- ・企業年金がないのであまり想像がつかない投資とあるので積み立てたものがもらえないときがあるのは困る国民年金でさえもらえる額が減っているのに
- ・知識に乏しく判断できない
- ・内容がわからない
- ・これから先、公的年金システムや国民皆保険制度が成り立ってゆくかの先行きが不透明であるため。

6-2 20 歳台女性

- ・理解できない
- ・年金の種類を減らして欲しい
- ・年金のことはどのようにしたら良いかわからない
- ・あまり詳しくないから
- ・その制度自体よく知らないから
- ・自分の知識では判断できない
- ・難しい事なのでなんとも言えない
- ・あまり詳しくない
- ・何のことかさっぱり分からない
- ・運用が成功すれば良いが、失敗のリスクもあるから
- ・よくわからないから
- ・国民年金を払っていない現実にあるので考えに及ばない
- ・仕組みがよくわからない
- ・初歩的な知識がないので全く話がわからない
- ・話が難しいから
- ・企業そのものに興味が無いため
- ・全体的に年金等のことがよくわからないから
- ・あまり理解できていないので、こうした方が良いといった意見が出せない
- ・よく理解できてないから
- ・話が難しい
- ・投資についてよくわからない
- ・何一つ知らない
- ・人それぞれ考えが違うから
- ・片方の意見だけに偏らないように考えているため
- ・話題について知識が少ないので判断が出来ない

- ・メリットがわからなかった
- ・ESG 投資が何なのかよくわからない
- ・仕組みがよくわからない
- ・あまり実感がないから。
- ・具体的に考えてないから
- ・年金、投資に興味がないのでわからない
- ・あまり理解できていないから

6-3 30 歳台男性

- ・資産運用とかよくわからない
- ・投資には興味がないから。
- ・勉強不足なので現時点で回答できない
- ・内容がよく分からないから
- ・情報があまりないので判断できない
- ・ESG 投資は正しい考え方だと思うが、運用益が出なければ本末転倒とも思うから
- ・正直、難しすぎてわからないです。
- ・自分にはあまり関係ないことである
- ・年金自体なくても良いと思う
- ・役人はもし大失敗してもだれも責任をとらない。天下りして責任者を解雇して終わりのイメージがある
- ・先のことはわからない
- ・しっかりと考えたことがない
- ・判断するには、もう少し勉強が必要
- ・ベストな方法があれば、とっくに取り組んでいるはずなので何が良いか分からない。
- ・その情報が足りていないため
- ・もう少し勉強して知識を身につけます。
- ・複雑で難しい問題だから
- ・自分にはあまり関係ないから
- ・知識不足なので、どういう選択がいいのか決めかねる
- ・難しい質問が多くて、わからないことばかりでした。コーポレート・ガバナンスという言葉が、何を指しているのかも分からなかったです。
- ・具体的にイメージがわからない
- ・具体的に金の流れがよく分からないので
- ・ここで何を言っても改善される見込みがないから。
- ・会社情報を、集めてまで、投資は、したくないです。
- ・投資で増えれば良いがリスクをどうするかがわからない
- ・損をしなければ良いと思う
- ・関係ないと思う

- ・年金は国民の命。投資などに使うべきではないと思う。
- ・どのようにすべきかは個々に考えるべきであって他人に聞くものではないと思う
- ・年金は理想よりリターンが大事だから
- ・考えたこともなく、よく知らない
- ・複雑なのでわからない
- ・破綻しないようにしてほしい
- ・内容がはいってこないため
- ・要は運用益が最大になるかどうかだと思うため。
- ・メリットデメリットに関していまいち理解していないから、わからないを選択した

6-4 30 歳台女性

- ・保証はしてほしい。
- ・投資して損が出ないのであればいいと思う
- ・話が難しすぎた
- ・少しでも世界経済、あるいは社会が上向くのであれば取り組んでもよいと思う
- ・興味もなく調べたこともないから
- ・今の実態がよく把握できていない
- ・投資についての知識や経験がないのでよくわからないから
- ・どちらがよいのかよく分からない。
- ・知識がないから
- ・よく内容が分からないから
- ・メリット・デメリットや、具体的にどうなるのかがわからないので、答えられない
- ・想像ができない
- ・将来の年金が減らないことを前提に運用してほしいと思う。
- ・この制度がイマイチよくわからない。
- ・目減りしなければよい
- ・しくみが難しくてよくわからない
- ・こういった分野が何であるかわかりません。
- ・少子化に伴って、これからを担う若者の負担を考えるとどうすべきかわかりません
- ・お金のことは主人に任せているので興味関心もなくわからないから。
- ・知識不足でわからない。
- ・知ったばかりなので、意見を言えるほどの知識も意思もない。
- ・あまり聞いたことがないし、よくわからない
- ・理解できていないので、勉強します
- ・むずかしくて、まるで自分には関係ない話のような感じがする。もっとわかりやすくおしえてほしい。
- ・知識不足のため。
- ・個人と社会とのバランスが難しいと思うから。

- ・説明を読んでも全く理解できなかったから。年金などのことは難しく、よくわからないのでこれから理解できるように努力したいと思うから。
- ・どの程度有効なのかがわからない
- ・投資は、不安定なものと思えないので、よくわからない。
- ・専門的な知識に乏しく考えがまとまりません。
- ・知識がないからわからない
- ・何をしても、早晩年金制度は破綻すると思っているので…正直よくわかりません
- ・老後やお金の心配はありますが、上記質問については考えたことがないのでまだよく分かりません
- ・何が本当によいものか、今の私ではわからない。
- ・内容をよく理解していないから。
- ・まだ色々見えないから
- ・しくみがよくわからない
- ・年金や投資の知識がなさすぎて、言葉がよくわからないから。
- ・内容が良くわからない
- ・まだ、自分にとっては難しくて完全には理解できていない。
- ・よく知らないので、判断できないから

6-5 40 歳台男性

- ・どう考えてよいか分からなかった
- ・理想と現実
- ・投資は難しいから・・・。
- ・現在がわからないので
- ・制度がよく分からない
- ・いいかわるかわからない
- ・運用して成功するかどうかがよくわからない
- ・情報が少なすぎて判断できるわけがない。
- ・あまり考えたことがない
- ・余計な事はしないでほしい。
- ・何を言っても決めるのは政治家
- ・不明確だから
- ・各自自己責任で管理すればよくお国は医療だけであとはなにもしなくてよい
- ・公的年金を投資運用しなければいけないのか疑問がある
- ・いまいち内容を理解できませんでした
- ・いまひとつ仕組みを完全に理解しきれてないので安易な回答はできないと思った。
- ・あまり詳しく知らないから。
- ・もっと国民に解りやすくやってくればいいのかのでは
- ・あまり考えた事ないので

- ・熟考しなければならない問題であり、軽々しく答える事は出来ないから

6-6 40 歳台女性

- ・年金の運用については、マイナスイメージしかない。
- ・日本国の赤字がひどい状態で年金から環境問題に貢献する余裕があるかどうかかわからない、個人の負担が無いのであれば参加したい
- ・不正利用を防ぐことのほうが先決だと思う
- ・まだしっかりとした考えが自分にはないから
- ・個人的にも投資経験がないので。
- ・しくみがわかりづらい。
- ・仕組みがわからない
- ・身近に感じないから、分らない・
- ・考えたことがない
- ・考えたことがない
- ・意味が理解できてない
- ・今まで考えたこともなく、ここで答えを出せない
- ・何が一番良いかわからないから
- ・結婚して長い間、社会に出でないので、このような事はわからない
- ・リスクがよくわからないから。
- ・自分自身の勉強不足でなんとも言い難いが、年金が増えるようなことならすすめていくべき
- ・難しくてわからない。それが良いことか良くないことかわからない。
- ・この内容は良く分らない
- ・聞いたことがないし理解できない
- ・利益が出るようならば投資をしてほしいがリスクもあるので安定した投資ができるかどうか分らないから
- ・あまり考えたことのない分野でした。これからどうすべきがいいのかはわかりません。すみません。
- ・このアンケートにより、ESG 投資を知ったので、この内容で、短時間で考えを決められない。
- ・生活する事だけで大変なので、そんな事まで考えてられない。
- ・ESG 投資がよくわからない
- ・とにかく、将来の生活が安定するのか(年金がしっかりと支払われるのか)どうか。
- ・投資はリスクがつきものなので何とも言えない
- ・仕組みがよく分らない
- ・リスクを伴うから
- ・詳しく調べないとわからない
- ・難しくてどのように答えたらいいかわからないです。年金はかけているが少子化社会で

将来もらえるか不安に思っています。

- ・詳しく説明を、よく聞きたいです。
- ・ESG 投資とは本当に有用なのかわからないから。
- ・企業経営に与える効果が理解できない
- ・投資うんぬんよりもすでに年金制度は破たんしているものと思っているのでこれという事を思っていない。
- ・しっかり調べないとわからない
- ・もう少し情報を吟味しないとなんとも言えない
- ・仕組みが良くわからないので
- ・今まで投資しているのかもしれない投資しているなら結果を公表するべきだと思うがそのようなものは今まで目にしたことはないから。
- ・あまり聞かないので、答えようがない。
- ・先になってみないとわからないから
- ・自己の知識が乏しいので分からない。
- ・信用できないから
- ・投資については詳しくありませんのでなんとも言えません。
- ・先の事はよくわからない

6-7 50 歳台男性

- ・投資は難しいので
- ・自分に関わりが無いので分からない
- ・これからの日本の企業自体がどうなるのかも判断しかねるので一概には分からない。
- ・メリットがあれば
- ・根本的によくわからない
- ・先の事は何が正解か分からない
- ・まずは目減りさせない、少しでも増やすことを主眼におくべき。
- ・情報を持ってないから。
- ・良く知らないから
- ・時代によって変化する
- ・影響範囲が分からない
- ・いまひとつ理解できていないので
- ・何が正解なのか判断できない
- ・知識がない
- ・年金があまり信じられない。政治家をあまり信じられない。
- ・抛出者の意見は尊重されるべき
- ・今一つ釈然としない。
- ・少し情報あつめたうえで勉強してみたい。
- ・経済はさっぱりわからない

- ・先のことはわからない
- ・投資に失敗しなければ何でも良い
- ・判断がつかない
- ・何を言ってるかわからない
- ・どれが正解かわからないから
- ・とても難しい課題なので容易に発言できないので
- ・判断する基準が難しい
- ・これからを考えれば、十分に検討していかなければいけない事とは思いますが、現在の生活が精一杯で、先の事は考えたくない
- ・きれいごとだけでは判断できない
- ・初めて聞いた言葉であり、考えてない

6-8 50 歳台女性

- ・内容が難しく理解が出来ない
- ・文章では分かりにくいので
- ・投資に関してよくわからない
- ・年金を悪用する人がいるのではないかと。
- ・大事なお金なので、リスクのあるなしがきちんと分からないと難しいです。
- ・一般人としては難しすぎるから。
- ・仕組みがよくわからないので回答できない
- ・社会に進出していないし、貢献もしていないから意味がさっぱりわかりません。
- ・人口減少で、どうなるのかわかりません。
- ・資金に余裕もないのにそんなことを考えられる余地があるのかわからない。
- ・不正な事が行われそうです。
- ・単純なことではないと思うので細かいメリットデメリットがわからないので判断しきれない
- ・説明されていることが分からないわけではないが、実際にどうすればよいのかまでは判断できなかった
- ・具体的なイメージができてにくい
- ・運用にリスクがつきものだから
- ・何を言ってるのかよくわからない
- ・世の中、信じがたいことばかりなので、そのような取り組みをしても、100 パーセント信じることができない。
- ・具体的にイメージできないから
- ・よくわからないが、支払った年金が少なくなるのは嫌だ
- ・本来、企業はどれだけ利益を上げるか
- ・投資に充てる余剰金無し。
- ・投資なので利益を追求したいという希望もあるため。

- ・投資に対しては、よくわからない
- ・ふえればいいが
- ・社会的な意義は理解できるが、その時々によって運用が上手くいかず、世代によって年金額に格差があってはならないと思うので。
- ・安心さに欠けるから
- ・どのような投資かわからないから
- ・年金が将来充てになるのか分からないから
- ・内容がよくわからない投資は損をする真面目が一番
- ・あまり理解していないので、いいと思ったり、よくないと思ったり、混乱気味です。

6-9 60 歳台男性

- ・意味がいまいちよくわからない。
- ・グリンピアのおきもよさそうに見えて破産してしまった増やさないといけないと思いますが損をしてほしくない
- ・支出したお金の運用次第で、保有資金が大きく変動する可能性があり、運用者や社会環境により、大きく差が出ることもありマイナスになったときの補填についての責任対応についての責任を如何にすべきか、現実的に対応すべきである。
- ・リスクのない投資だけで運用すべき
- ・安全かどうかかわからないので
- ・何が良いのかわからない
- ・これから先確実に年金がもらえるかよくわからないのでE S G投資どんなものかわからない
- ・もう将来が短くて考えられない
- ・ESG 投資そのものがよくわかりません

6-10 60 歳台女性

- ・運用のことはよくわからない
- ・年金受給額を増やして欲しい。
- ・ESG 投資は大事だと思うが、年金と結びつけてしまうことには抵抗がある。
- ・基準が不明、企業が偽る
- ・投資の安全性が確信できない
- ・自分自身が正確に理解できているか、不安定
- ・カタカナや耳慣れない言葉は理解できませんでした
- ・年金資金は確実な方法で貯蓄できることを考えるべき
- ・リスクのたかい投資先は避けるべき
- ・言葉（ESG 投資）がよく理解できない
- ・プロなんだから 責任をとる覚悟で 間違いを起こさないで

- ・個人と企業との年金は別別に考えるべきだと思う
- ・この問題について考えたことがないのでよくわからない
- ・先行きがあまりにも不透明すぎて、何を見ても聞いても不信感ばかりで信用に値するものが見いだせない
- ・すべての内容を十分に理解できていないので。
- ・むづかしい事はわからない
- ・仕組みが分からない
- ・私には難しい問題です。
- ・これから取り組むべき内容であり、結果が分からないので、判断のしようがなく、わかりませんとなりました。

6-11 70 歳以上男性

- ・そのようにしても成らない国で決めないと
- ・この仕組みがよく分からない
- ・投資をしても良いが年金が正当に払われる事が前提です
- ・最近の政府は民間の考えを無視するので何を言っても無駄
- ・経済の動きは、色々な事によって変わってきますので、一歩的にならず臨機応変により良い方法でやって頂くのがいいかと存じます。
- ・ほとんどの言葉がわからない。

6-12 70 歳以上女性

- ・仕組みがなにもわからない
- ・企業の利益のために投資してマイナスが出ると年金引き下げになるのは反対
- ・高齢なので解らなくてごめんなさい。
- ・ESG 投資を具体的に知りません。
- ・株価にもよる
- ・年金自身がわかりにくい
- ・現時点ではよく判断出来ないから
- ・年金受給者で最近投資もしていないので関心もなくわかりません
- ・内容自体よくわからないが、リスク次第だと思うから。
- ・何をどうすれば良いのかわかりません
- ・年金の仕組みがよくわかりません。
- ・現在を見るのか将来を見極めるのか難しい。
- ・充分理解できていないから
- ・自分お理解力不足でわからない
- ・信用できない
- ・受け取る年金が減少する事が無ければ賛成する
- ・今の経済状況ではどうなるかわからない。

- ・年金の運用がよくわからないので、答えられない、自分が積み立てた年金は、ほかのものに使わないできちんと支払った人に将来返してほしい
- ・専門的なことは難しくてわからない
- ・年金受給者だからこれからの事はわからない
- ・今国民年金暮らしですので良くわかりません
- ・これ以上 年金を減額してほしくない 只それだけです。
- ・確実性が分からない。
- ・社会の仕組みがよくわかってないから
- ・難しくてどのように回答してよいか分からない。
- ・良いことなのかどうかの見極めが難しい
- ・日本の情報網を確かなものにしてほしい。
- ・深く考えたことがないので、これを機会に勉強したい。
- ・ESG について初めて聞き、分かっていないので。
- ・年金なので減るかもしれないような危なっかしいものに投資するのはどうかと思います
- ・確実な運用を考えてほしい
- ・受給者の意向が反映されるという根拠もないし、投資するにしても、単に PR 効果を考えるだけで、本当に役に立つとは思えません。だから『分からない』のです。
- ・しくみがわからない
- ・リスクもあると思うので難しいと思う
- ・年金受給者ですが今後どの様になるのかわからないので
- ・投資には疑問を感じることが多いのであまりさんせいはできない
- ・年金を受け取る側としては絶対損失を出さないように運用してほしい。
- ・公的年金も企業年金もいただいていますので良く解りません。
- ・そもそも投資にはリスクがつきものなので。
- ・自分が勉強していく気持ちが無いので、投資をすべきか否かは、直観でしか決められないため。

**「年金資金によるESG投資に対する一般国民の
意識に関する調査研究(H29-3) 平成 30 年 5 月**

(編集・発行) 公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構
〒108-0074 東京都港区高輪 1 丁目 3 番 13 号 NBF 高輪ビル 4 階
電話 : 03-5793-9411 (年金シニアプラン総合研究機構 総務企画部 代表)
FAX : 03-5793-9413
URL : <http://www.nensoken.or.jp/>

本書の全部または一部の複写・複製・転記載および磁気または光記録媒体への入力等を禁じます。
これらの許諾につきましては年金シニアプラン総合研究機構までご照会ください。